

「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会・シンポジウム」

報告書

平成31年3月
名古屋市

目 次

1	開催概要	1
	（1）趣旨	1
	（2）説明会・シンポジウムの日程.....	1
2	当日の記録	3
	（1）説明会（会場：熱田区役所講堂）の記録.....	3
	（2）説明会（会場：中区役所ホール）の記録.....	24
	（3）説明会（会場：瑞穂文化小劇場）の記録.....	44
	（4）説明会（会場：緑文化小劇場）の記録.....	67
	（5）説明会（会場：東文化小劇場）の記録.....	86
	（6）シンポジウム（会場：鯉城ホール）の記録.....	105
3	当日のアンケート結果	126
	（1）アンケート集計	126
	（2）説明会におけるアンケート内容.....	128
	（3）シンポジウムにおけるアンケート内容.....	157
	（4）アンケート用紙以外の意見・感想等.....	178

※ 本報告書の中で個人名にあたる箇所については、名古屋市個人情報保護条例第 11 条第 1 項に基づき、
（個人名）と記載を変更している。

1 開催概要

(1) 趣旨

平成 31 年 1 月に「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会・シンポジウム」を開催するものである。

(2) 説明会・シンポジウムの日程

①説明会

市内 5 会場で実施。各会場で本市及び竹中工務店からの説明、質疑応答を実施した。

日 付	開催日時	会 場	参加人数
1 月 17 日 (木)	18 : 30～20 : 00	熱田区役所講堂	38 名
1 月 19 日 (土)	14 : 00～15 : 30	中区役所ホール	131 名
1 月 22 日 (火)	18 : 30～20 : 00	瑞穂文化小劇場	45 名
1 月 23 日 (水)	18 : 30～20 : 00	緑文化小劇場	41 名
1 月 25 日 (金)	18 : 30～20 : 00	東文化小劇場	43 名

②シンポジウム

市内 1 会場で実施。講演、本市及び竹中工務店からの説明、質疑応答を実施した。

日 付	開催日時	会 場	参加人数
1 月 27 日 (日)	14 : 00～16 : 30	鯉城ホール	121 名

③講演者及び司会者

講演者：中京大学文学部歴史文化学科 教授 白根孝胤氏

講演タイトル「写真史料で読み解く幕末維新の名古屋城」

司会者：名古屋学院大学現代社会学部教授 井澤知旦氏（1 月 17 日、22 日、23 日）

株式会社ソーシャル・アクティ代表取締役 林加代子氏（1 月 19 日、25 日、27 日）

④各会の様子



1月17日（木） 熱田区役所講堂



1月19日（土） 中区役所ホール



1月22日（火） 瑞穂文化小劇場



1月23日（水） 緑文化小劇場



1月25日（金） 東文化小劇場



1月27日（日） 鯉城ホール
講演者の白根孝胤氏

2 当日の記録

(1) 説明会（会場：熱田区役所講堂）の記録

① 開会

司会

それでは皆様、お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を開会いたしたいと思います。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、名古屋学院大学現代社会学部の教授をしております井澤知旦と申します。どうかよろしくお願いいたします。

はじめに、本日の市民向け説明会の進行について、ご説明申し上げます。まず、名古屋市及び株式会社竹中工務店より名古屋城天守閣木造復元事業の状況につきまして、ご説明させていただきます。その後、会場の皆様からご質問などをお伺いしたいと思います。ご質問のお時間には限りがございますので、進行にご協力くださいますようお願い申し上げます。説明会の終了は午後8時となっております。

次に、本日お配りした資料についてご案内をいたします。受付で本日の資料、アンケート用紙をお配りしております。説明内容はスクリーンで映写いたしますけれども、お手元の資料でもご確認いただけます。また、アンケート用紙につきましては、お帰りの際に出口で回収させていただきますのでよろしくお願いいたします。なお、報道機関による取材が入っているほか、記録写真の撮影を行っておりますのでご了承くださいますようお願いいたします。

はじめに開会にあたりまして、名古屋市長河村たかしより、一言ご挨拶を申し上げます。お願いいたします。

河村名古屋市長

はい、それでは、まだだいぶ寒いですがようおいでいただきまして、サンキューベリーマッチ。ありがとうございます。まあ1分だけにしておいてちょう、ということだもんですから。とにかくこの間テレビでやっていましたけれども、名古屋のお城は法隆寺以来の日本木造建築の究極の到達点ということを某大NHK テレビでやっておりまして、そういう建物だと。それからこの間、私岩手の方に行って、一番きゃあ木は松の梁だということで、岩手の月山松というのをそこからぜひ使ってほしいという話があって、お礼を言いに行ってきました。松の木に抱きついてキスしてきましたけれども。ごめんね松を切るからと言ったら、岩手の人が言っていたのが非常に印象的で、この松は330年くらいみんなで大事にしたと。まっすぐ伸ばすのは大変らしいですわ、枝やなんかのメンテナンスがいと。それから何と言っても雷、松くい虫、それから大風、そういうのに倒れんようにみんなで大事にしてきたと。だいたい300年、400年と生きている松は大体そのくらいの寿命らしいですが、岩手の私たちが大事にしてきた松が名古屋に移って1000年、名古屋のお城の一番重要な梁として生きると思うと本当にありがたいですわと。反対にものすごい感謝されまして、名物をよばれてきました。あれを見て自分で木造建築というのはすごいんだと、第一の松の人生は岩手で、第二の松の人生は名古屋城でと、このあと1000年続いていくんだということで。本当にありがたい気持ちでした。これは大事にせないかんかと、木造の天守を。1000年、最低1000年、

法隆寺は1300年ですが、名古屋城で1000年大事にして、世界の宝にしましょうと。まあ、そんなところでございまして、どうぞ色んなご意見がありましたらお寄せください。今日はようおいでいただきまして、サンキューベリーマッチ。

② 名古屋市からの説明

司会

それでは、名古屋城総合事務所所長西野より名古屋城天守閣木造復元事業に関して説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

西野名古屋城総合事務所長

皆様、こんばんは。ただ今ご紹介いただきました、名古屋城総合事務所の西野と申します。よろしくお願いいたします。それでは、これより名古屋城天守閣の整備の概要や進捗状況について説明をさせていただきます。

まず、こちらのスクリーンの方をご覧くださいと思います。これまでの経緯、皆様のお手元の方にも資料がございますけども、改めてこれまでの経緯をご説明させていただきます。

平成27年12月に、天守閣整備事業における事業者を公募型プロポーザルという形で募集をいたしました。翌年の28年の3月には、優先交渉権者が決定いたしました。その後約1年かけまして、議会においてご審議いただきまして、天守閣木造復元の基本設計、その他の予算を議会の方でお認めいただきました。それによりまして、平成29年5月に株式会社竹中工務店と総事業費の上限を505億円、天守閣木造復元の竣工期限を2022年12月とする基本協定、さらに基本設計等業務契約を締結して事業に着手をいたしました。その後7月には、天守台石垣の調査を開始しました。また、天守閣木造復元への基金、金シャチ募金と呼んでおりますけども、そちらを立ち上げまして募金活動を始めております。昨年末の段階でおおよそ1年半経ったわけですが、市民の皆様をはじめとする方々からご協力をいただきまして、3億2千万円弱の寄附をいただいているというところでございます。平成30年度に入りまして、4月には基本設計に引き続きまして実施設計業務の契約締結を行いました。また、5月には復元する木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針を発表したところでございます。また、7月には、株式会社竹中工務店と柱や梁、土台などの主要な構造部材となる木材の手配・製材の契約を締結しております。計画では、昨年10月に文化庁文化審議会に諮問していただいて、11月には事業を進めるための現状変更許可を取得するということになっておりましたけれども、現在、有識者の方から天守台石垣の保存に対する対応が不十分だというふうに言われておりまして、10月の諮問には至らなかったというような状況でございます。

では、基本設計その他業務の内容についてでございますけども、これは昨年度実施しておりますが、大きく4つの項目に分かれます。まず1つが、基本設計業務でございます。史資料に基づく天守の姿の作成、すなわち通し柱の位置や木材の樹種、仕口・継手や屋根、壁の仕様について検討も行いました。また、防災避難や構造解析、付加設備について検討を行いました。2つ目が、法的手続きに必要な書類作成業務ですけれども、復元するために必要な文化庁の現状変更許可を取得するために必要な書類の作成、消防法の

手続きに必要な書類の作成を行っております。また、その他設計業務といたしまして、天守閣復元のために必要な仮設建築物等の設計図の作成を行いました。そして、調査業務として、史実の調査、ボーリング等の地盤調査、天守台の石垣調査や発掘調査を実施しております。

次に、実施設計の内容にまいります。今年度から実施設計業務を進めておりますけれども、平成30年4月に株式会社竹中工務店と契約をいたしまして、大きく分けて2つ、設計業務と調査業務に分かれております。まず、設計業務としましては、天守閣復元のために必要な設計図の作成、構造解析、現状変更許可を始めとする法的手続きに必要な書類の作成、積算業務などを行っております。また調査業務として、史実調査や現天守閣記憶伝承調査、地盤調査などを行っております。

続きまして、今年度行いました有識者会議の開催状況ですが、ご覧の通りでございますけれども、天守閣部会については5回、石垣部会については3回行いまして、有識者の方々からご意見を伺いながら実施設計や石垣調査を進めているところでございます。

それから昨年度実施しました入場者数の調査に基づく推計でございますが、この調査では、平成28年度の入場者数実績192万人を基に、名古屋城への訪問意向などのアンケート、リニア開業等の社会情勢の影響を踏まえて、入場者数を推計しています。名古屋城内において、来場者魅力が上昇するイベントなどの開催効果を見込んだ高位シナリオでは、2022年の木造復元直後の2023年に422万人を見込んでいます。その後、入場者数は減少しますが、リニアの名古屋での開業効果、また、全線開業効果等で増加し、その後微減傾向となっており、2071年までに346万人前後で推移すると、そういうふうに見込まれるという結果となっております。

続きまして、天守閣木造復元の基本的な考え方でございます。こちらの方で3点にまとめておりますが、本事業は、歴史時代の建築物等の遺跡に基づき、当時の規模・構造等により再現する歴史的建造物の復元を行うものです。また名古屋城の天守閣は、先ほどの市長の話にもありましたが、法隆寺の頃から始まった日本の木造建築物の1つの到達点、究極の木造建築物と言われ、豊富な歴史資料をもとに外観の再現にとどまらない、史実に忠実に完全な復元を行うというものです。また、市民の皆様の中には、「一旦焼失しているので復元しても本物の天守ではない」というご意見もありますけれども、名古屋城天守閣は城郭建築として国宝第一号でありまして、残念ながら大戦中多くの市民の命とともに昭和20年5月14日に空襲で焼失いたしましたけれども、残された石垣に空襲の傷跡も残っている。また、焼失中の写真も残っている。その様に、名古屋城の歴史的価値は非常に大きい。その上で、市民の精神的支柱であり、誇りである名古屋城の天守閣を、悲しい歴史的史実を経て、昭和実測図や金城温古録など、豊富な歴史資料に基づきまして、戦災で焼失する前の本物の姿に復元し、世界に大きく発信してまいりたいと考えておりますので、大変意義の大きい事業であると、そのように考えているところでございます。

続きまして、復元案の検討ですが、戦災で焼失する前の本物の姿に、史実に忠実な復元を行うために、検討してきた内容でございます。名古屋城には、今申し上げました昭和実測図や金城温古録、古写真等の歴史資料がたくさん残されております。これらは、復元の根拠となる重要な資料です。史実に忠実な復元案作成のために、復元根拠資料を紐解いて、現在、検討を進めておるところです。主な検討項目としまして、通し柱の位置、柱や梁の樹種、屋根や壁の仕様、復元するための基準となる寸法、屋根の勾配や仕様、

また、建具の配置や畳が敷かれていた場所などの検討も進めてまいっております。今後も引き続き、復元根拠となる資料等をしっかりと検証しまして、史実に忠実な復元のための検討を続けてまいります。

次に、新たに付加する現代技術についてでございますけれども、この木造復元は、原則として史資料に基づいて、当時と同じ材料・工法により復元を行うものです。しかし、復元する建造物の構造及び復元後の管理活用の観点から、防災上の安全性の確保が必要になります。この方針は、文化庁の史跡等における歴史的建造物の復元に関する基準というのがございます、その中で歴史的建造物の復元として定められております。言い換えれば、文化庁の基準に基づいてこれに従わなければ復元することはできない、そういうことになります。そのために、新たに付加する現代技術につきましては、構造補強、防災避難設備などバリアフリーの観点で必要最低限の措置を考えています。構造補強としましては、現代建築物と同程度の耐震性能を確保する、伝統構法に適した耐震設備を付加する。それから防災避難設備等といったしまして、現代建築物と同程度の防火・避難性能を確保することとしまして、火災発生の未然防止の他、災害発生時の避難経路の確保などを検討します。バリアフリーとしては、史実に忠実な復元の範囲内での環境の整備に努めるとともに、昇降のための手すりや設備などの設置を検討しているところでございます。

続きまして、昨年5月に木造復元天守の昇降に関する付加設備の方針を発表しました。エレベーターの設置につきまして、内部エレベーターは柱、梁などの主要な構造材を切断しない場合、小型のエレベーターしか設置できない、通常の車いすや電動車いすが利用できないことから設置しないこととしております。また、外部エレベーターについては、都市景観条例を定めて、優れた都市景観の形成を進めている中で、景観計画により名古屋城の眺望景観の保全を図るとしておりますので、設置しないこととしております。付加設備の方針の中の基本方針では、史実に忠実に復元するためエレベーターを設置せず、新技術の開発などを通してバリアフリーに最善の努力をすることとしています。今回、木造復元に伴い、本来の天守閣の内部空間を観覧できるようにする。また、電動か否かによらず、車いすの方が観覧することができる眺望としては、現状1階フロアまでですが、様々な工夫により、可能な限り上層階まで昇ることができるよう目指し、現状よりも天守閣の素晴らしさや眺望を楽しめることを保証することとしております。例えば、昇降装置を有する特殊車両を応用し、外部から直接出入りすることや、ロボット技術を活用し、内部階段を昇降することなどが挙げられます。併せてVR技術を活用した体感施設の設置を行うこととしております。

次に、新技術の開発には、国内外から幅広く提案を募る。また、協議会を新たに設置し、障害者団体等当事者の意見を丁寧に聞くことにより、誰もが利用できる付加設備の開発を行う。姫路城や松本城など現存する木造天守にも転用可能な新技術の開発に努力する。再建後は本来の姿を見ることができるようになり、介助要員、補助具を配置することなどにより、今より快適に観覧できるようにする。こういった基本方針を発表させていただいているところでございます。

続きまして、付加設備の方針を公表した後の動きですが、まず新技術の開発につきまして、昨年の7月24日と11月15日の2回にわたり、企業が現在保有する技術につきまして直接説明をしていただく説明会を開催いたしました。次に、後ほどご説明いたしますが、新技術の公募を実施するにあたり、国内、海外等の事例等について調査を行った上で、それらを参考に公募スキームの案を検討しました。また、検討した公募スキーム案につきましては、昨年12月末に特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議を開催しま

して、ご出席いただいた有識者の皆様から様々な意見をいただいたところでございまして、今年度中には公募条件を固め、来年度のできる限り早い段階から新技術の公募を始めていきたいと考えているところでございます。

今申し上げたバリアフリーの説明会ですが、その中でここに挙げておりますようなご意見を参加者からいただいております。障害には色々なものがあり全ての人が安心安全に昇れるようにしてほしい、現時点ではエレベーター抜きではバリアフリーとは言えないのではないかと、といった昇降技術に関する課題について多くのご意見をいただいたところでございます。

次に、新技術による木造天守昇降の実現に向けて検討した内容についてお話をさせていただきます。木造で復元する天守閣につきましては、付加設備の方針において新技術により昇降を実現するとしております。まず、障害者差別解消法におきまして、環境の整備が努力義務となっております、合理的配慮は義務というふうになっております。建築物に昇降設備を設置することは、環境の整備にあたり努力義務でございます。また、障害者差別解消法には、設置する昇降設備の種類について具体的に決められていません。従って、天守閣の木造復元では新技術により昇降に関する環境の整備を行い、その上で実施に伴う負担が過重でない範囲において、必要かつ合理的な配慮により障害者の方々にも楽しんでいただけるように、というふうに考えております。

先ほどお話ししました、新技術開発の公募ですけれども、公募形式につきましては、ここでお示しましたように段階的に審査する技術コンペを現在考えているところでございます。スケジュールにつきましては、現在 2022 年に天守閣の木造復元を目指しておりますので、それまでの 4 年間の計画といたしまして、1 年目である来年度のできる限り早い段階で公募を開始し、2 年目または 3 年目に試作審査、4 年目であります 2022 年に実用化審査を行うというイメージで考えています。12 月に行った会議のご意見をも踏まえまして、現在公募内容を検討いたしております。この公募によりまして、国内外の様々な技術開発者、企業、大学にチャレンジしてもらいたいと考えているところでございます。名古屋城の昇降に適した新技術が開発されましたら、現存する木造天守だけでなくエレベーターが設置できない建築物への応用なども図れるのではないかと、そういう期待をしているところでございます。

次に、木材の調達ですけれども、現在、調達を予定している木材の種類と本数ですが、柱につきましてはヒノキ材で 878 本、梁材が松またはヒノキ材で 1181 本、その他大小天守の出入口部分の御門柱、冠木がケヤキ材で 12 本、土台がヒバまたはベイヒバで 252 本というふうに予定しております。土台部分で外国産材のベイヒバを使用することも予定しておりますけれども、現在、株式会社竹中工務店からは、できるだけ国産材であるヒバで調達できるよう調整しているというふうに伺っております。先程市長の話にもありましたけれども、昨年の 11 月にテレビ等で扱われました岩手県の松材の月山松は、元々は外国産のベイヒバを使うことを予定していた最も長い梁材に使う予定としております。この月山松が使えればベイヒバに替えて国産材になるということでございます。また、現在木曽ヒノキを集めることは非常に難しいと聞いておりますけれども、名古屋城の築城に木曽ヒノキが使われていたという記録があることから、できるだけ木曽ヒノキを主要な部分である柱に使っていく、そういうふうに調整していると竹中工務店から伺っております。

次に石垣の関係ですけれども、特別史跡名古屋城跡の天守閣整備を進めるにあたりましては、その本質的価値、史跡としての本質的価値を構成する天守台石垣の現在の状況を調べ、それを適切に保存していくための方針、具体的にどのようなスケジュールで方針を実現していくかという保存の計画を立案・策定する必要があります。本市では、平成29年度からそういう目的で天守台石垣についての各種の調査を行ってきております。平成29年度には歴史的な資料を調べる史実調査、根石と呼んでいる石垣の一番下の基礎の部分の状況を調べる発掘調査、測量調査を行っています。今年度も引き続きまして、発掘調査、測量調査、足場をかけて、現在まだかかっておりますが石垣の石の状況を調べる。石垣のカルテを作成する。そうした現況調査ですとか、石垣の裏の状態を調べるためにレーダーによる探査や、石垣の間にビデオスコープを入れ中の様子を調べる、そういう様な各種調査を行ってきております。

ここが発掘調査の状況でございますけれども、左側の写真をご覧くださいまして、これは小天守台の南側の地点ですが、写真中央を赤い丸で囲っておりますけれども、深く掘り下げてある所に見えている石が、おそらく石垣の最も下の基礎になる根石だというふうに思われます。この根石の手前の土層を観察しますと、天守台を築くのにあたって、元的地盤の上に盛り土をした後に、それを一度掘って根石を据え、それが動かないように丁寧に石垣の全面を固めた様子が確認をされております。それから右側の写真は、小天守の西側で行った発掘調査の様子です。写真の上側に見えているのが石垣です。こちらでも根石の状態を調べることを目的として調査を行いました、少し掘り下げたところで石垣の前面に小さな石が敷き詰められたような状況が確認されております。こういったことを確認しながら、この遺構についてこれから検討していくという様なことを考えております。

それから石垣の各面の状態、石垣を構成するそれぞれの石の状態を調べ、石垣のカルテを作っていくと、そういうふうな、人の体の状態を管理するカルテというのがありますけれども、それと同じように石垣の現在の状態を確認していく、そういうふうなところです。石垣の右側にですね、左中央部から右に向かって斜めに下がっている線がありますけれども、江戸時代の宝暦期、1700年代中盤でございますけれども、石垣が積み替えられた範囲を示しております。中央の下の方に赤い網をかけた部分がありますけれども、実はここに、天守台の北面になりますけれども、前面に大きく孕んでいる、そういうところがありまして、その範囲がこの中央下の方に赤い網をかけたところになります。現在はその背面の状況を調べて、原因について検討しているという様なところでございます。

こちらは表面だけでなく、石垣の背面についての情報を得るためにレーダーによる探査やビデオスコープによる調査を行っております。今ご覧いただいている写真が、上の段がレーダーで探査をした様子、下の段がビデオスコープによる石垣の裏側の様子です。こうしたデータをもとに、石垣の状態を確認することを行っています。

今申し上げたような、こうした調査の成果を取りまとめ、天守台石垣の保存のための方針、そしてそれを実現していくための具体的な計画を作っていこうと、そういうふうに考えております。今までの調査で分かったこととして、昭和の天守台建築時などに大規模に手が加えられていることとか、戦時中、天守閣が焼失した際に石垣も火を受けており、その石が劣化している、天守台の石垣の北側に顕著な孕み出しが見られる、この3点を問題点として把握をしております。

続きまして、天守台石垣の保全と安全対策ですけれども、ここにお示しましたように昨年 7 月 13 日に石垣部会におきまして、私どもの方で取りまとめました保全と安全対策につきましてお諮りしましたけれども、保存の方針が不十分であるのご指摘を受けております。それに基づいて、また 9 月までに再検討を行いまして、9 月 10 日に、石垣部会と打ち合わせを行いましたけれども、まだ石垣部会の了解は得られていないということで、現在は文化財石垣保存技術協議会というところと相談しまして、石垣保存の方針の再検討を行っているということでございます。

今後の進め方といたしましては、石垣保存については、今申し上げた形で石垣保存方針について検討してまいります。それから、文化庁へ提出する基本計画書につきましては、具体的な天守台石垣の保存のための検討を石垣部会に諮り、石垣保存に対する了解を得て、文化庁に基本計画書を提出していこうと思っております。天守閣の竣工につきましては、文化庁の技術的な助言をさらに受けながら、現状変更許可の見通しを立てるとともに、優先交渉権者である竹中工務店と協議し、2022 年 12 月木造復元竣工を守るよう努力していく。そのためには、やはり文化庁から天守閣木造復元のための現状変更許可をできるだけ早く取得できるように努めてまいりたいと、そういうふうに考えております。

最後に、名古屋城の現状についてでございますけれども、昨年 5 月に今の天守閣が耐震性が低いということに対応するために入場を禁止というふうにしております。天守閣へ入場することはできませんけれども、名古屋城自体は開城しておりますので、翌月 6 月に本丸御殿の完成公開を行いまして、11 月には西南隅櫓を常時公開いたしまして、名古屋城全体の魅力を高めるというふうにしております。また現在、名古屋城内では名勝二之丸庭園の保存整備、搦手馬出の石垣の修復保全などを行っております。さらに、皆さんご承知のとおり、去年 3 月には金シャチ横丁もオープンしております。こういった色々な名古屋城の魅力をさらに上げるように、私どもとしては努力をしているところでございます。長時間、30 分に渡りましてご清聴いただきまして、誠にありがとうございました。

③ 株式会社竹中工務店からの説明

司会

ありがとうございました。続きまして、株式会社竹中工務店の末永より設計についてご説明申し上げたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

竹中工務店

竹中工務店の末永と申します。よろしくお願いいたします。

名古屋城天守閣木造復元について、現在までの進捗をトピック的に紹介します。まずは 1 分 20 秒ほどのムービーをご覧ください。

(CG ムービーを投影)

現在、設計契約と木材調達契約の一部を締結して、設計情報、木材情報を詳細に検証し整理しています。資料に遺された史実を収集し、それらの中から建築情報を掘り起こし、その建築情報を検証・特定しています。

名古屋城については豊富な資料が残されています。江戸時代後期から編集された金城温古録、昭和7年から継続して実測され、戦後の昭和27年に完成した昭和実測図、昭和15年度から記念事業として撮影されたガラス乾板写真、その他の古文書を含めて史実を掘り起こしています。様々な資料を比較検証して史実を特定していく事例を紹介いたします。

小天守地階、東南側の内観写真です。扉と壁はこの写真には写っていません。昭和実測図にも土間と室との境には扉や壁の姿は見られません。しかし金城温古録の御蔵之間図には、二重線で扉のようなものが描かれています。

赤く囲んだ部分が扉だと思われます。

金城温古録の御金蔵の所に「三口ある」、つまり3つ入口があったとの記述から、扉と壁があったことが分かります。開き戸の記述があり、施錠されていたことが分かります。御蔵之間図の赤線部分が御金蔵につながる開き戸の位置だと推察されます。また図には、小天守上り口にも同じく扉の表現がされています。緑線の部分です。

一方で、昭和実測図には一筋の敷居が描かれています。青線の部分です。扉の内側にさらに引き戸があったことが分かります。

ガラス乾板写真を子細に見ていきますと、御金蔵入口の上下3か所に金物が残されていることが分かります。この金物に開き戸が取り付けられていたと思われます。階段入口部分は、柱中ほどの高さに蝶番が残っています。ここは敷居から梁まで達する扉で厳重に閉ざされていたものと思われます。

また柱内側の敷居と鴨居に溝が彫られているのが分かります。青線の部分です。扉の後ろにさらに引き戸があったことが確認できました。

扉、引き戸、壁を新たに昭和実測図に書き込むようになります。

このようにして複数の資料から掘り起こされた史実は、様々な角度から検証し特定していきます。建具の形状や材種などの分かる資料はありませんので、他城郭や名古屋城に現存する櫓などを参照し特定していきます。そして天守閣部会において有識者の先生方に確認していただきます。

次は井戸についての検証事例です。これはガラス乾板写真、大天守地階井戸です。左側の昭和実測図の1階平面図には井戸の記載はありません。右側の宝暦の修理後に描かれた名古屋城御天守各層間取之図には井戸が描かれています。2つの図を子細に見比べてみると、昭和実測図には井戸の穴を塞いだ跡と排水溝を塞いだ跡が描かれています。

下の図は、金城温古録にある井戸の絵2点です。左側が地階井戸の絵、右側が1階井戸の絵と思われます。昭和実測図には記載のない1階井戸は、撤去されていたものと思われます。私どもは、1階の井戸も復元する設計を進めています。

このようにして検証し特定された情報は、3次元モデルとして立体的に整合性を確認します。3次元モデルでは、平面と断面の整合性が視覚的に判断できます。大天守の3次元モデルです。3次元モデルは任意の箇所で切り取ることができます。黄色の線は3次元モデルの断面線になります。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込み、重ね合わせます。

階段のある部分で拡大してみます。これは昭和実測図です。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込む

と立体的に確認ができます。このようにして史実を特定して書き起こした3次元モデルの整合性を確認しています。

昨年11月に名古屋城天守で使われる最も大きな木材である松の伐採を行いました。大天守3階の梁に使われる長さ約16メートル、太さ60センチを超える松です。赤い梁の部分です。

床面から約6.5メートルの高さにある、二部屋にまたがる丸太の梁です。

岩手県奥州市の月山神社の山にある月山松です。地元の方々が長らく大切に見守られてきた樹齢330年の大きな松ですが、名古屋城のためにぜひ使っていただきたい、との決心をされて地元の方々の見守る中で伐採を行いました。

史実を掘り起こし、様々な角度から検証・特定して、史実に忠実な名古屋城天守木造復元を目指します。ご清聴ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。

それでは、準備のためステージを整えますので、ご来場の皆様はそのまましばらくお待ちください。

④ 質疑応答

司会

お待たせいたしました。ここからは、名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問、ご意見をいただきたいと思います。

最初に会場の皆様からのご質問にお答えする職員等をご紹介します。

皆様から向かって左側のゾーンの右端から順番にご紹介します。名古屋市長河村たかしでございます。

名古屋市観光文化交流局局長の渡邊でございます。

名古屋城総合事務所所長の西野でございます。

主幹の荒井でございます。主幹の村木でございます。

主幹の服部でございます。

皆様から向かって右側のゾーンでございますが、株式会社竹中工務店でございます。6名の方にご参加していただいています。

それでは、ただ今よりご質問やご意見を伺いたと思いますが、ご発言につきましてはできるだけ多くの方々からいただきたいと考えておりますので、お1人様3分以内で簡潔にご発言いただきたいと思っております。ご協力の程、よろしくお願いいたします。2分30秒くらいになりましたら残り30秒という意思表示をこちらからさせていただきますので、お考えをまとめていただけたらと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

また、手を挙げていただきますと、係の者がマイクをお持ちいたします。ご発言はマイクを通してお願い

いします。できるだけ多様な、老若男女、席も前後左右、バランスを考えながらご指名していきたいと思
いますので、よろしく願いいたします。それでは、ご意見、ご質問がある方、どなたからでもよろしく
お願いいたします。

市民A

率直に言いますと、今日は何年か前の説明会と変わらない会だったんですけども、どれだけのお金がか
かるかということが全然示されておりませんでした。昨今ですね、私の周りでは日々の生活をしていくの
が大変困難な方達が増えてきております。私も減税の恩恵を受けず、税金だけは取られるという実感の毎
日でございます。税金は一体誰のため、何のために使われているのかということを、私達に戻ってきてい
るのか実感しない毎日です。税金を納めています市民の1人として、今なぜ名古屋城の木造化に熱を上げ
るのか、河村市長の道楽としか思えません。税金を私物化してほしくはありません。

昨年ですね、市民が監査請求をした時に、黒塗りのまま、ほとんど黒塗りのまま情報公開がされません
でした。黒塗りにするということは、何かばれると困ることがあるのかなと思ってしまいました。そして
ですね、竹中工務店に8億5千万円の基本設計のお金をもう払ってしまったんですけども、これも税金
ですね。市民の、税金を払っている市民のことを何も考えていないということを言いたいんですけども、
基本設計も、きちんと文化庁の許可されていないのに、先に払うというのは納得いきません。違法だと思
います。本当に裁判に訴えたいくらいです。以上です。

司会

ありがとうございました。城を建設する資金の話が全然説明されていないけれども、なぜ今この時代に、
生活の苦しい時代にこういうところに税金を使うのか。また、既に支払っているお金についても、文化庁
との関係はどないなっているのかなどを質問していただきました。どなたか、では西野さん、所長お願い
いたします。

西野名古屋城総合事務所長

はい、ご意見いただきましてどうもありがとうございます。お金につきましては、建設にかかります総
事業費505億円ということで基本協定を竹中工務店さんと結んでいるというところでございます。これに
つきましては、私ども最初に説明させていただいた時に、入場料については、今は500円ですけども、将
来的にはこれを木造復元がなりましたらアップさせていただいて、1000円程度、市民の方はできるだけ低
くその時には450円とお話ししましたが、観光客の方には1000円程度と。そういった中で、先ほど
も申しましたように入場者数、300万人を超える入場者数に増やしまして、そこでこの建設費を賄ってい
くと。そういうことで起債をしまして、実際に進めていって、将来的には入場料収入で賄っていこうと、
そういうふう考えているところでございます。こういった名古屋城の木造復元につきましては、元々名
古屋にあった、名古屋市民の心の精神的基柱となる大きなシンボルでございますので、非常に市民にとっ
ても意義があるとともに多くの観光客の方に外から来ていただけるものだと。それによる経済効果という

ことも考えられますので、私どもは名古屋市としましては福祉の施策は福祉で、名古屋城は文化の施策であり、そういう経済効果を生む施策だと、そういうふうに考えているところでございます。

そして、基本設計につきまして文化庁の許可を得られていないのに支払うのはというお話ですが、私が先ほど説明させていただきましたけれども、文化庁の許可を得るための手続きにつきましては、基本設計、そして引き続き実施設計の中でもそれを行うことにしておりますので、基本設計の業務につきましては既に終了しております。実施設計の中で文化庁の許可を得ていく、そういう業務もしていただいて、先ほど申しましたようにできるだけ早く文化庁の許可を取得していきたいと、そういうふうと考えているところでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会

はい、では一言お願いいたします。

河村名古屋市長

道楽だと言われましたので一言言っておかないと何だということになりますので。やっぱり人類というか名古屋の市民としては、やっぱり何かを次の時代に残すものというのはあるのではないかと。それとも何にも残さんでもいいのかということでございまして。こういう歴史的建造物は、じゃあなぜ法隆寺だとかは、大事にしてもものすごいお金を使って次の世代に残すのかと。これはやっぱり過去の人類の叡智というものを大事にして、あと1000年を語り継いでいくと、人間の営みを。これは努めなんですよ、義務なんですよ。だから、国宝なんかがあり、色んなものがあって残していく。

お金につきましては、今所長の方からありましたけれども、税金は使いませんし、使わんどころかものすごいお金を稼ぐということになっていくと思います。1000年は持ちますからこれは。決して道楽でやっとするのではなくて、私は社会的使命で、皆さんに、私もそうですけれど、こういうのをずっと残して子ども達に、孫の、その孫の孫の代まで名古屋にはこんなすごいものがあつたんだと。徳川家康が造ったのが空襲で焼けた。その焼けた悲しい過去をまた乗り越えて、これから50年、100年経てばもう1回国宝になると思ってますけど。図面がありますので。名古屋の誇りを取り戻して、もっと素晴らしい都市に段々なっていくと。福祉は今でも日本一だと思います。それから市民税払っている方は全員減税されておりますんで。この議論はまあいいですけども、法律が変わりまして金持ちでもそうでない人も同じ税率ということに市民税はなっておりますので、だいたいは努力はしましたけれども。ここはやっぱり1つの税率ということになっておりますけれども、日本中で、名古屋だけです。1千億円減税しましたんで、これ、現金で、この10年間で。それが経済効果を生んで、名古屋の税収は五大都市でトップでございまして。減税してなおトップです。減税したからこそトップです。皆さんで社会的使命を持って、1000年後の子どもさん達のためにやっつけていきたいと思います、ということでございます。

司会

続きまして、会場から。では一番右端の方。

市民B

東区から来ました。本日の説明会の趣旨と資料についてお尋ねします。本日配布した資料と説明、これなんですか。全然説明になっていません。本日説明会をする目的は何ですか。1、どうして去年10月に文化庁文化審議会の許可が得られなかったのか。2、どこが問題になっているのか。3、どう解決するか、するつもりか。4、スケジュールはどうするか、を説明するのが趣旨ではないですか。

昨年12月20日に開かれた天守閣部会でも、石垣部会がどこを問題にしているのか名古屋市ははっきり明示しろという発言がありました。特に石垣部会が指摘している、現石垣を破壊する恐れがあるはね出し架構について説明しないと、全く意味がありません。また、天守閣部会では全体のスケジュールを明らかにしろと言っているにもかかわらず、天守閣部会にも議会にも今回の説明会でも全く説明をしませんでした。

昨年11月29日に名古屋市議会本会議で、自民党の浅井正仁市議は、名古屋市が文化庁を訪問した際の議事録を出せと言ったところ、このような黒塗り、のり弁を出したということで大激怒しています。浅井市議は、本会議で説明したことと整合性が取れないことが記載されているのではないかと疑念を持っていました。本日の説明会では、まさにこの文化庁との協議の中身を説明するのが目的ではないでしょうか。これとは別に、河村たかし名古屋市長が文化庁に行った時の自筆のメモを情報公開請求したところ、このような真っ黒塗りのメモが出てきました。河村市長のメモです。このようなものです。しかし、おかしいという市民の声で、自筆のメモを出してきました。名古屋市が文化庁を訪れた時のこの議事録のメモについて出せない理由は何かあるのでしょうか。

そこで以下について質問いたします。まず、竹中工務店さんに、この名古屋市が文化庁を訪問した際に作成した議事録について中身は見ましたか。中身を見た場合は、どのような中身でどのような感想を持っていますか。特にはね出し架構について文化庁は何と言ってますか、どうお考えですか。

2つ目、名古屋市に対して、現時点で文化庁を訪問した際の議事録を公開するつもりはありますか。ないというなら公開しない理由と、これまで市民に説明していないこと、今回の説明会でも説明できないというのは何が書かれているのか、この2点をお尋ねいたします。

司会

はい、どうもありがとうございました。今日の説明会の目的は何だと、特に文化庁から許可を得られないのはなぜなのか。その点について特に竹中工務店さんの方で文化庁とのその会議の議事録の中身を見たのか、その感想は。市はなぜ文化庁の議事録の公開ができないのかということを説明してほしい、ということによろしいでしょうか。ではお願いします。順番はどちらからにしますか。

市民B

竹中。

司会

では、竹中工務店さん、よろしくお願いします。

竹中工務店

今の質疑ですが、文化庁さんに対しての名古屋市さんが協議をした際の議事録を竹中工務店が確認しているかというご質問ですが、確認はしておりません。

司会

続いて、市の方からお願いします。

西野名古屋城総合事務所長

今ご質問いただきました私どもが公開していない書類につきましては、現在この文化庁とは事業の進捗、それから許可を受けるということに向けてですね、協議を行っている、そういう段階ということでございますので、今日の説明会は事業の進捗状況をご説明しておりますけれども、今のご指摘のあった部分につきましては、まさに協議中という段階のものでございますので、現時点では公開することはできないと、そういうふうに考えております。

司会

続いてご質問の方。では一番前の方、マイクをお持ちしますので、よろしくお願いします。

市民C

「尾張名古屋は城しかない」って言われたくないんですね。我々名古屋市民は名古屋城と金シャチに行っておけばいいと、そういう風潮で何か思考停止してしまっている気がします。テレビ出ている芸能人は名古屋城と金シャチと味噌煮込みうどんだけ言っていれば名古屋市民は喜ぶと。そんな風潮がある気がします。それ以外にも観光資源をいろいろ考えていच्छゃるとは思いますけれども、何か名古屋城だけ目立ってどうなのかと思います。今回、鉄筋コンクリートから木造にするんですけども、いまいち木造で価値が上昇するということが伝わってこないんですね。冒頭、戦災によって焼失したものを再建するという事で、世界にPRできるんだみたいなことをおっしゃっていましたが、ちょっと何かそれでもって観光客が増えるということが分からない。しかも1回名古屋城を見た人がまたこれによって見に来るなんていうことはほとんど考えられない気がしてなりません、これは感想です。

あと竹中工務店さんにお聞きしたいのが、今回設計にお使いになった金城温古録、昭和実測図、ガラス乾板写真等のこういった主な資料でもって設計されていると思いますけれども、率直に言ってこれら3つ、色々な資料があると思いますが、それでカバーできない部分が絶対あると思うんですよ、そういった部分は何パーセントくらいあると思いますか。その両者についてお聞きしたいと思います。

司会

尾張名古屋は城で持つ、名古屋は城しかないのかということでその考えが思考停止を呼んでいるのではないかと。また鉄筋コンクリートから木造にすることの価値上昇というのは本当にあるのかどうか、それによって観光客が増えるのか、リピーターは増えるのか、そのへんについてコメントしてほしい。あと、竹中工務店さんのほうについては、資料を主に3つくらい掲げて説明していただいたのだけれども、それによって分かる史実は何パーセントくらいか。まず市の方から。市長お願いします。

河村名古屋市長

戦災で焼けたということでございますけれども、文化庁は、建築基準法というのがありまして、建築基準法の3条だったかな、除外規定というのがあります。文字は違っているかもしれませんが、これはいわゆる歴史的建造物の復元と認められますと、いわゆる建築基準法の適用がなくなると。ただし防災上の配慮はしてください、という条文があります。では、歴史的建造物の復元というのは何だろうかと思しますと、文化庁がきちっと定義というか要綱を作っておりまして、その1つはそんじょそこらのものではなく国宝あるいは重要文化財等がなくなった時、それから2つ目はその真上に造ること、3つ目は梁とかを色んな資料によって本物を造っていく、この3つが揃いますと、歴史的建造物の復元と、こういうジャンルがあるんです世の中には。名古屋城はそれに最もふさわしい。旧国宝一号だったものが空襲でなくなり、それで全く同じ場所に建てます。それから今言いましたように、世界中でこれだけ資料が残っていると、日本ではこういった木造建築はありません。私達の先輩達の文化的な努力を引き継いでいく。建築基準法の中の、コンメンタールみたいなものを書いてありますけれども、なぜ除外規定をするかと言いますと、それは任務だと書いてあります。私たちの世代の、僕は任務だと考えています。僕は、先ほども言いましたように道楽では全くありません、1つの社会的使命としてというふうに思っているところでございます。

竹中工務店

今日どのような形で復元の原案、元々はどんな姿だったのかを調べながら実施設計を進めていることをご説明させていただきました。ご指摘のように100%証拠があるわけではございません。今日も金城温古録とか、昭和実測図、ガラス乾板、そういったものからいろいろな推察をしながら、そこで明確に表現されているものについてはきちっと顕在化できるのですが、できないものについてはやはり同時代の例えば姫路城だとか、名古屋城に残っている隅櫓だとか、そういったものも参考にさせていただきながら、かつ有識者の先生方とそのあたりの議論をしながら、そういった資料で設計を進めております。ですので何パーセントは史実どおりかという質問についてはなかなか答えにくい状況ですが、極力史実に忠実な、先ほど河村市長がおっしゃったように、これほど証拠が残っている建物はないものですから、その復元に対して極力鋭意進めているという状況でございます。

司会

続きまして、女性の方からご発言はありますか。赤い服の方、よろしくお願いします。

市民D

去年も説明会がありました。今年の説明会の目次に、去年の説明会と、市民が意見を言う正式なパブリックコメントがあったはずで、たった9件が木造で、あと140が木造は不要であったことは文化庁に出しましたか。あるいはそのパブリックコメントがこの1ページの日程にないのはなぜですか。昨年は何をやってきたのですか、市民は不在だったのか。特に5ページ、先ほど工程表がないというお話がありましたが、この5ページの3は全てあいまいです。3つのことが付加されると言いますが、書いてあるだけで、竹中さんの中にはそれに対応するどこがバリアフリー、どこが防災、燃えない、安全に逃げられ、耐震も今の城より大丈夫、何の保証もありません。

私は特にバリアフリーに、死ぬような夏に2回傍聴いたしまして、障害者をコケにするのもほどにして欲しいと思いました。障害者をお願いに行って、各企業が個人努力で技術を開発することは結構ですが、市の予算で集めて何かショールームではないけれども動く筋肉、昇っていく車いす、何度も下支えのいる踏み台昇降機、バカにしないで欲しい。血のにじむような努力で、今日は見えていませんが、車いすの方は角度だって個人でその機能を高めるために特殊なものです。重いです。その車いすは自由に誰にも目立たずにさっと、今の城では20人乗り以上のエレベーターが2つあり、当時の技術も材料もよく、完成度が高くあと少し天井階にのばせば完璧になるバリアフリーを壊して、史実に忠実と言いながら何かあいまいなものをこれから漠然とダラダラと予算を使っていくことは、市民は望んでおりません。主婦の友達が言います。人のお金だからと言って好きにしていいいわね、そう言っています。それを市長に返したいと思います。いい加減なことはやめてください。

司会

どうもありがとうございました。今のご質問、ご意見でございますけれども、去年も説明会をやったんですけれども、市民のパブコメをみると圧倒的に反対が多いと。これについては文化庁にちゃんと伝えてあるのかと。それから資料の5の3のバリアフリー、防災、耐震、これについて何ら説明していないのと同じだと。そういうことを保証することになっていないと、だから障害者をコケにするようなのはやめてほしいと。その辺についてどう考えているのか聞きたいということでございます。

河村名古屋市長

私にとご指名がありましたので。僕からすればやっぱり民意を得ていると。市長選をやっていますので、私は木造化、私の反対側の方はストップ木造化というのがポスターにはっきり書いてある公約でした。あのような結果になったということと、議会も通っています。議会も予算を議決していると。あと色んな調査もあって6割から7割近くの方、僕はもっと多いと思いますけれども、木造復元を早くして欲しいという答えが出ています。名古屋市民の圧倒的な願いであると思います。エレベーターについては、私が言い

たいのは、じゃあ車いすを普通の人が乗れる規模で付けますと、柱 10 本、梁 30 本を取らないと、鉄骨建造物で支えなければ中は持たない。となると、そういう所に仮に上がられてもですね、今でもそうですよ、今の名古屋城は中身は全く史実と関係ありませんから、これは、単なる博物館ですから。そういうところになが上ってもらいよりも、僕は車いすの皆さんに対しても、目の不自由な人たちに対しても、年を取ってくると足が悪くなりますけれども、そういう人に対しても、400 年前の本物の人類の叡智を結集した、それも資料が残っていますからこれ、残っていなかったら大変ですけども、そういうものをやっぱり味わってもらいことこそあったかいんじゃないかと思いますよ。ただ上に上がっていくだけで、そこへエレベーター出たところの景色は、全く歴史的史実と関係ありませんから。単なる 5 階建て、7 階建ての博物館ですから。僕はそのことこそ冷たいのではないかと思いますよ。私は多くの人に本物を味わっていただきたい、そのためにいろんな工夫をしてみましようということなんです。と思いますけれども私は

司会

では続きまして、一番手前の方、マイクをお持ちください。

市民 E

今日はありがとうございました。僕は熱田区に住んでいるのですが、熱田区は高齢の方がたくさんいます。また自分は幼児の子どもを持つ親なんですけれども、老人向け施設だったりとか保育園を建てるということよりも、僕はできたら木造をこのまま進めてもらって、名古屋に新しい観光地を、観光の所を造ってもらいたいと思います。ただ、我々市民としても、この名古屋市さんが進めている木造のお城だけでなく、この熱田であれば熱田神宮さんだったりとか、そういった観光で一緒に盛り上げていけるような形で行けたらと思います。実質名古屋城を建てるために使う予算は、未来の子ども達のお金を借りて我々が新しく建てるものだと思っていますので、そのお金を子ども達にどうやって返していくかということこれから考えていきたいなと思っているなかで、名古屋市さんに伺いたいことが、今は建てるための予算を伺ったんですが、他の観光施策、例えば観光資源に訪れたり、インバウンドとかで得られる経済効果とかを具体的な数値でどんなふうになっているのかを伺いたいと思います。その経済効果で来られる観光客の方々が落としたお金を、我々商売をしている人間としてはそこからどのように活用してって、そこから法人税などで福祉団体等に返していきたいと思っておりますので、そういったところを具体的に教えてくださいたいと思います。

ぜひ河村市長が言われるように、本物というものを造ってもらって、それを自分たちが、先ほど後ろの方が言われていましたけれども、新築だというのは、誰もが歴史は一から、ゼロからだとおもいますので、それを 1000 年持たせていくのは市だけでなく我々市民も一緒に考えていかなくてはならないと思っています。できたらここにいるのは反対の方だけでなく、賛成の方もいらっしゃると思いますけれども、同じ賛成の方ももっといろんな意見を名古屋市さんにぶつけてもらいたいと考えていますので、ぜひ経済効果やどうやって市民が参加できるのか、こういったことを協力していただきたいということを教えていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

司会

どうもありがとうございました。天守の木造化は進めて欲しいのだけれども、名古屋城だけでなく熱田神宮等々色々な歴史的観光資源があるので、それを観光としての盛り上げる施策が欲しい。その場合、インバウンドという形で経済効果は試算されているのでしょうか、そういうものがあると物が増え、税金が入り、ということで循環していくと思います。その辺はいかがでしょうか。

西野名古屋城総合事務所長

ご意見ありがとうございます。名古屋城だけではなくてということで、名古屋市としても私ども観光文化交流局でございますけれども、3年前に発足した局でございます、これから名古屋は産業都市ではありませんけれどもこれから観光にも力を入れていかなくてはならないということでこういう局を立ち上げまして、観光戦略を作って観光施策を進めてきています、そういう考えをしております、例えば先ほどは熱田神宮のお話に出ましたけれども、1つは名古屋城を核とした観光という中で名古屋城、そして熱田神宮、また有松・桶狭間ですとか、そういったところで、名古屋の城を核として広がりを持つ観光してもらうだとか、色々そういったビジョンを考えているところでございます。現在観光戦略ビジョンの作り直しをしており、経済的な効果につきましても、具体的な数字はここに持っていませんが観光入込客数を例えば延べ人数で1億人にするですとかそういった目標を持ってこれから観光の充実を進めているところでございますので、今後ご意見をたまわれればと思っております。よろしくお願いいたします。

司会

あと時間的に2人であればと思います。断腸の思いで、お二方お願いします。恨まないでください。男女平等に、女性の方。

(会場から)

男女平等なら男性にも当てるべき。市長がしゃべりすぎ。時間の損。

司会

順番に当ててきていますので、あと2人お願いします。

市民F

まず名古屋市に質問します。今名古屋城の北側の外側のお堀が崩れとるままにほかってあるんだわ。それでほとんど知らないんだわ。何にも直してないんだわ。崩して。石垣はお城の中の内堀の中にほかってあるんだわ。全然直してないんだわ。そういうこともちょっとお聞きしたいんですけど、それともう1つね、今のコンクリートのお城は、あの時の市民は燃えないように造ってくださいって寄附してくれたんですよ。それを全然知らないんですよ皆。それで今のお城は誰も文句は言ってないですよ。今のお城をね、今のお城を外から見ても中から見ても、行った人は誰も文句言ってないですよ。それで今の外国人の人も、

子どもたちも来るし、乳母車でも来るし。

今度は竹中さんに聞きますけど、16 ページの階段が載っていますね、これどのくらいの角度で、どのくらいの段差があるのかちょっと教えてくださいよ。子どもも昇れないですよ、年寄りも昇れないですよ、若い者しか昇れないですよあれは。それだから昇れなかったらエレベーターを付けてくださいよ。何も分かっただけです、竹中工務店は。段差がどれだけあるのか、角度がどれだけあるのか、全然竹中さん何にも知らないもの、何で竹中さんの責任者がそのことを知らないのですか。段差がどれだけあるのか、高さがどれだけあるのか。何にも言わないもん。

(会場から)

竹中さんはモックを造る、原寸大のものを造ると言ったでしょ。

司会

また司会からお答えくださいと言っていないので、すみません。待ってください。

市民F

今のお城はどれだけの角度で段差がどれだけあるのか、今のお城は下から上までのどれだけの角度でどれだけ昇っていかなければならないのかということを、例えばいっぺん市長さんが昇ればいいのですよ。

司会

3 つご質問がございました。まずお城の北側が崩れているのに直していないがなぜなのか、それから歴史的に燃えない城を造ろうとした歴史的事実を知らないのか、また燃えない城について誰も文句は言っていないだろうというご質問。それから、竹中工務店さんに、名古屋城の復元した時の階段の角度、段差、勾配はどのくらいかをお答えいただきたいということでございました。

西野名古屋城総合事務所長

ご質問いただきましてありがとうございます。まず最初におっしゃったのは、本丸搦手馬出という、そういう場所の石垣がかなり大きく孕んで危ないと、そういうふうな認識に平成 16 年からその石を外して積み直すということをやってきています。ご指摘のとおり非常に規模が大きいということもあって、時間がかかりかかっています。早くこれを直さなければいけないと我々もそういう認識でおります。今年度、ほぼ外しのほうを終える予定でして、近々新たに積んでいく、今全部を外してそれからその前に地盤の補強をやって孕み出さないような、そういうふうな対策は専門家の意見を聞きながらやっております。今度は積み込む方を次の段階として移っていこうと。ただそれにつきましては、勾配についての検討とか、そういったことがございまして、そういったことを有識者の意見を聞きながら進めていくということで、ご指摘のようにできるだけ早く進めるように努力してまいりたいと考えております。

それから現在の天守閣につきましては、文句を言う人がいないというお話ではございますけれども、耐

震性は基本的には0.6 なければいけないのですが、今0.14 しかないということがありまして、耐震性能が低いということで入場禁止にしているということがございますので、私どもとしてはこの状態を放置することはできないということで、色々な検討の中で木造復元によって対応するということにしたところでございます。名古屋城の人間として、お客様からそういう本来の元々の天守閣を望まれる声もお聞きしますので、そういったことも含めて木造復元を進めようとしているところでございますので、お願いいたします。

司会

続きまして、竹中工務店さんいかがでしょうか、階段のことについて。

竹中工務店

ご指摘のように、昔のお城の階段は急でございます。階高がそれぞれ違うものですから、階の条件によって若干違いますが、概ね45 度から50 度くらいというふうに見込んでおります。当然現在皆さんがお使いになっている階段を考えていただくと非常に急勾配です。そういったものを今後どのような形で上がりやすくするか、そういったことを名古屋市さんの方でこれから技術開発も含めながら検証していこうと進められているとお聞きしております。

司会

それでは最後の方、マイクをお持ちします。お願いします。

市民G

資料の中には障害者の方っていう言い方で、バリアフリーについて書いてあったのですが、このお城の復元の話があった時からずっと気になっていたのは、やはりベビーカーであったり、お年寄り、不意の事故で上がれない方とかそうした方たちの配慮はどうなっているのかなとずっと見守ってきたのですが、河村市長様もすごく色々やってくださって段々意見を変えてくださっているのかなというところが見えてきて、ニュース等でちらっと見たときは、エレベーターについてはちょっとよく分からない点があるので中に造るのは無理でも外にどういうふうに造ってくれるのかなということがちょっとよく分からなくて。やはりここに今日来る時にも車いすの人に少しお話を聞いたのですが、トラックの運転手さんだった人が足がダメになってしまって、命は助かったけれどもやはり名古屋城ができれば、また行きたいというふうに言っていて、ご自分でも意見が言いたいけれども、言えない人がたくさんいるのであろうなって。私も頑張って言おうと思えば言えるのに、すごく勇気を出さないと出来ないこともあったのですが、ニュースなどで声を上げてくださった方がいて本当によかったなと思いました。国の宝であると共に、やはり世界の方とか国内の方でも、国民であるにもかかわらずエレベーターがないことによって、素晴らしい景色が東西南北、私は天守閣に昇った時にとっても素晴らしい景色だったのでよく観光客の方にお話することがございますけれども、名古屋駅から見た時の名古屋城であったり、名古屋城から見た名古屋駅であ

ったりとか、そういうものやっぱり見て欲しいなと、色んな人達に見て欲しいなという思いがあるので、エレベーターをシースルーにするのか何なのか、横にくっつけるにしてもちょっと離せばいいのか、どういうふうにしてくださるのかということ、やはり安全が第一ではありますが、国宝としての素晴らしいお城をきちっと復元したいんだという点は何となく分かっているのですけれども、やはりそうしたベビーカーの方、お年寄り、若くてもけがをして上がれない、体が悪くて上がれないといった人たちのために、そこを配慮ができる名古屋市であってほしいなと、愛知県・名古屋市の人間としては、やっぱりそういうところをきちっと取り組んでほしいなと思います。お城ができるのは楽しみにしています。よろしくをお願いします。

司会

どうもありがとうございました。バリアフリーの問題ですね、ベビーカー、ご老人、車いすの方、そういう人たちに配慮して欲しいと。やはり名古屋城の天守に昇って見る景色は素晴らしいものであると、ぜひそういう人達の機会を奪わないで欲しい、そういうことだったかと思います。それにつきましてよろしくをお願いします。

西野名古屋城総合事務所長

ご意見いただきましてありがとうございます。障害者の方というご説明をさせていただきましたけれども、もちろん障害者の方に限らず高齢者の方、階段で移動していただくのがご不便な方、そういった方もバリアフリーで天守閣を楽しんでいただけるように我々はしていかなければいけないというふうに考えております。そういう中で、今日説明の中でも申し上げましたが、エレベーターにつきましては、中につけるとどうしても元々の史実に忠実な梁や柱を考えるとどうしても小さいものにしないといけない、また外にというお話もございましたが、あまり高いものにしますと結局下の遺構を、基礎が必要ですので下の遺構を傷つけてしまうということがありますのでなかなか高いものの難しいですし景観の問題があるということで、現在のエレベーターを付けることはなかなか難しいというふうに考えておりますけれども、先ほども申し上げましたように、やはり皆さんに天守閣を楽しんでいただきたいというふうに思っておりますので、我々としては真剣に新技術でこの説明会では現在の技術を今まで昨年説明いたしましたので、現在の技術ではまだまだご納得いただけないものが多いと思いますけれども、やはりこれをそういう天守を楽しんでいただくという目的でコンペ等を行いまして、しっかりと技術開発を後押しする形で、そういう皆さんに楽しんでもらいたいと、景色もそうですけれども、今まではビルみたいな形でしたが今度は400年前に建てられたその構造を間近に、400年前の姿を見ていただけますので、ぜひ皆さんに見ていただきたいと思います。

司会

どうもありがとうございました。では市長、短くお願いします。

河村名古屋市長

今も所長が言いましたけれども、単なるコンクリート建築物でその中で上まで上がれましたというのではいかんでしょう。今は階段で上がれる場合があるのかないか知りませんが、天守によっていろいろ違うと思います。肝心なことは図面を先人が残してくれたことによる多分世界にただ1つのですね、木造建築物の中を味わっていただくようにすると。私も年寄りの1人ですけど、それが最もあったかいんじゃないの。私はそのために色んな努力をするので。上がった所が単なる博物館で何の関係もないところでは、いかんがねそんな冷たいことは。僕はそう思いますけれども。それでは今のコンクリートの建物でいいのではないかとしますよ、地震で壊れますけれどももうすぐ。震度6以上の地震で壊れますよ。こんなに地震で危ない地震で危ないとテレビでしょっちゅうやっとして、名古屋は天守以外の耐震性能の低い建物は全部取り壊しましたよ。今の工事でも危ないですよ、地震だからたまたま来ないと思っているだけです。工事をやっている人達も本当に危険ですよ。私はそう思っておりますけれども、ということですわ。

司会

どうもありがとうございました。時間がまいりました、多くの方々にご質問ありがとうございました。ご発言される方も3分以内を守っていただき、司会進行もやりやすかったと思います。他にご意見がある方もいらっしゃると思いますが、一旦この会を閉めさせていただきたいと思います。それでは、最後に河村市長より、一言閉会のご挨拶をお願いしたいと思います。

河村名古屋市長

それでは皆さん、ようおいでいただきましてありがとうございます。僕としては圧倒的に木造の本物を造ってほしいと、それも早く。私は身をもって感じております。それと地震で本当に危ないですから、あんな危ない建物をそのままにしているのかと、当然そういうことはできませんこれは。そういうことでございます。また次の機会ということでありがとうございました。

司会

それでは、以上を持ちまして「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を終了させていただきます。アンケート用紙は出口で回収しております。また、他にご質問がある場合はアンケート用紙にご記入していただければ幸いです。また駐車場につきましては、区役所の駐車場をご利用の方は、精算手続きはございませんので、そのままお車を出庫させていただいて結構でございます。

本日は誠にありがとうございました。お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りください。

（２）説明会（会場：中区役所ホール）の記録

① 開会

司会

お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を開催いたします。私は、本日の司会進行を務めます、株式会社ソーシャル・アクティの林と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、本日の市民向け説明会の進行について、ご説明いたします。まず、名古屋市及び株式会社竹中工務店より名古屋城天守閣木造復元事業の状況について説明を行います。その後、会場の皆様からご質問などをお伺いします。ご質問のお時間には限りがございますので、進行にご協力くださいますようお願いいたします。説明会の終了は、今日は午後３時３０分となっております。よろしくお願いいたします。

次に、本日お配りした資料についてご案内いたします。受付で本日の資料、アンケート用紙をお配りしております。説明内容はスクリーンで映写いたしますが、お手元の資料でもご確認いただけます。また、アンケート用紙につきましては、お帰りの際に出口で回収いたします。その他、マスコミ各社の取材が入っておりますので、ご了承ください。

はじめに開会にあたりまして、名古屋市長河村たかしより、一言ご挨拶を申し上げます。

河村名古屋市長

はい、それでは、ようおいでいただきまして、ありがとうございます。数日前もやりましたけれども、皆さんの多様な意見を出してもらえるようにとは思っております。１、２分でやめてくれよと言われていますが、始めに、お城の問題が出てきた原因というか、始めは地震で、コンクリートのお城が、Is 値があるんですけどもこれが 0.14 ということで、全五大都市のあらゆる公共建築で最低です。震度 6 強の地震で倒壊の可能性が高いと具体的に言われている建物だということでした。これをどうするかという問題が最初に出てきたということでございます。

もう 1 つの道は、コンクリートで補修して耐震補強をやってと、あの時の数字で確か 29 億でしたかね。それで一般的に言うとも 50 年くらい。それでやるのか、名古屋のお城は非常にラッキーといえばラッキーですが、詳細な実測図が残ってまして、国宝第一号になったと、それが昭和 5 年。姫路が二号で昭和 6 年。昭和 7 年から戦災で燃えた後も入れまして詳細な実測図を作っておいてくれたということで。その他竹中さんの話にも出てきますが、江戸時代の資料とか写真とかですね、そんなのは世界に名古屋城しかない。これは非常にありがたいことだでやっぱり木造の、もう 1 回、400 年前に家康が建てて、宝暦の時代にちょっと大きい修理をしておりますが、そのお城にして、法隆寺ですと 1300 年持っております。法隆寺も一旦燃えておるとい説が有力なんです、造って 100 年くらいで燃えておりますけれども、1300 年未だに持っていて世界の宝ですわねこれは。こういうものにしていこうかということがありまして、せっかくなので大事にして、名古屋城ももう 1 回 50 年後、100 年後に国宝にしていこうと。そういうふうに思いまして、選挙もそうやりまして、議会の議決も経まして。どれくらいありがたいすごい木を、月山松という樹齢 330 年の木をこの間どうぞ使ってちょうと言われて、ありがたいことに使えることになった。そういうの

が大体今までの経過でございます。色んなご意見をぜひ出していただいて、ええ名古屋にしていこうという事で思っております。今日はようお願いいただきました、サンキューベリーマッチ。

② 名古屋市からの説明

司会

それでは、名古屋城総合事務所所長西野より名古屋城天守閣木造復元事業に関して説明いたします。

西野名古屋城総合事務所所長

皆様こんにちは。ただ今ご紹介いただきました、名古屋城総合事務所所長の西野でございます。本日はお休みの中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。ただ今から、名古屋城天守閣の整備につきましての、進捗状況につきましてご説明をさせていただきますと存じます。

まず、こちらのスライドの方、皆様のお手元にも資料をお配りしておりますので、そちらの方を順次ご覧いただきたいと思います。

まず、最初にこれまでの経緯でございますけども、平成 27 年 12 月に、天守閣整備事業における事業者の募集を公募型プロポーザルという形でさせていただきました。翌年の平成 28 年の 3 月に、優先交渉権者を決定いたしました。その後 1 年をかけて、議会においてご審議いただきまして、天守閣木造復元の基本設計、その他の予算をお認めいただきまして、平成 29 年 5 月に株式会社竹中工務店と基本協定、基本設計等業務委託契約を締結いたしました。その後 7 月には、天守台石垣の調査を開始いたしました。また、金シャチ募金というのを立ち上げまして募金活動を始めております。昨年末の平成 30 年 12 月までのおよそ 1 年半の間に市民の皆様をはじめとする多くの方々からご協力をいただいております、3 億 2 千万円弱のご寄附を既にいただいたというところです。平成 30 年度に入りまして、4 月には基本設計に引き続いて実施設計業務の契約締結を行っております。5 月には木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針を発表いたしました。7 月には、株式会社竹中工務店と柱や梁、土台などの主要な構造部材となる木材の手配・製材をする、そういった契約を締結しております。元々の計画では、昨年 10 月に文化庁の文化審議会に諮問していただいて、11 月には事業を進めていくための現状変更許可を取得するという計画に至っておりますけれども、現在、有識者の方から天守台石垣の保存に対する対応が不十分だというふうに言われておりますので、10 月の諮問には至っていない、そういう様な状況でございます。

それから、基本設計その他業務の内容でございます。これは昨年度実施いたしましたけれども、大きく 4 つの項目の業務がございます。まず基本設計業務ですけれども、史実に基づく天守の姿の作成、すなわち通し柱の位置や木材の樹種、仕口・継手、屋根、壁の仕様などの検討を行っております。また、防災避難や構造解析、付加設備についての検討も行っております。法的手続き、書類作成業務でございますけれども、復元するために必要な文化庁の現状変更許可を取得するために必要な書類ですとか、消防法の手続きに必要な書類作成を行っております。その他設計業務としまして、天守閣復元のために必要な仮設建築物等の設計図の作成を行いました。その他に調査業務としまして、史実の調査、ボーリング等の地盤調査、天守台の石垣調査や発掘調査を実施しております。

続きまして、実施設計でございますが、これは今年度、昨年4月になりますけれども、契約した内容でして、平成30年4月から株式会社竹中工務店と設計業務と調査業務の2つの業務を行っております。まず、設計業務は天守閣復元のために必要な設計図の作成、構造解析、現状変更許可を始めとする法的手続きに必要な書類の作成、積算業務等を行っております。調査業務としては、史実調査や現天守閣記憶伝承調査、地盤調査などを行っているところでございます。

これは今年度実施してまいりました有識者会議の様子ですが、開催状況につきましては天守閣部会と石垣部会、それぞれ天守閣部会で5回、石垣部会で3回実施しております。有識者の方々からこういったご意見をいただきながら実施設計や石垣調査を進めている、そういう状況でございます。

続きまして、入場者数の見込数ですけれども、これは昨年度実施しました調査に基づいて私どもが入場者の見込数を弾いております。この調査では、平成28年度の入場者数実績192万人、これを基にいたしまして名古屋城への訪問意向のアンケート、リニア開業などの社会情勢の影響を踏まえて推計しています。名古屋城内において、魅力が上昇するイベントなどの開催効果を見込んだ高位シナリオというもので見ますと、2022年の木造復元直後の2023年に422万人を見込んでおると。その後、入場者数は減少しますが、リニアの開業効果、リニアが全線に広がる、そういった効果で増加し、その後微減傾向とはなりますけれども2071年までに346万人前後で推移すると、そういうふうな見込みをしております。

天守閣木造復元の基本的な考え方ですけれども、先ほど市長の挨拶の中にもありましたけれども、ここで3点挙げさせていただきました。本事業は歴史時代の建築物等の遺跡に基づいて、当時の規模・構造等により再現する歴史的建造物の復元ということでございます。また名古屋城の天守閣は法隆寺の頃から始まった日本の木造建築物の1つの到達点、究極の木造建築物と言われ、豊富な歴史資料をもとに外観の再現にとどまらない、史実に忠実な完全な復元を行っていくというふうに考えております。また、市民の皆様から「一旦は焼失しているので復元しても本物の天守ではない」と、そういったご意見もいただいておりますけれども、名古屋城天守閣は市民の精神的基柱であり誇りである、悲しい歴史的事実を経て昭和実測図や金城温古録など、豊富な歴史資料に基づいて、戦災で焼失する前の本物の姿に復元する。そして世界に広く発信していく、そういうふうなことを考えている事業でございます、大変意義の大きい事業だと考えているところでございます。

続きまして、天守閣木造復元の基本的な考え方ですけれども、名古屋城には今申し上げた昭和実測図や金城温古録、古写真等の歴史資料がたくさん残されております。これらが復元の根拠となる資料になります。史実に忠実な復元案を作るために、復元根拠資料を紐解きまして、検討を進めております。この後、竹中工務店様の方から具体的にそのことについてご報告をいただきます。また、主な検討項目としましては、通し柱の位置や柱や梁の樹種、屋根や壁の仕様等々、各項目の検討も行っております。今後も引き続き、復元根拠となる資料をしっかりと検証して、史実に忠実な復元のための検討を続けてまいります。

それから、新たに付加する現代技術でございますけれども、天守閣木造復元は、原則として史資料に基づいて、当時と同じ材料・工法により復元を行うものです。しかし、復元する建造物の構造、復元後の管理活用の観点から、防災上の安全性の確保が必要になります。この方針は、文化庁の史跡等における歴史的建造物の復元に関する基準の中で歴史的建造物の復元として定められているものですので、言い換えます

とこれに従わなければ復元することはできない、ということになります。ここで挙げておりますように構造補強、防災避難設備等、バリアフリーといった観点で必要最低限の措置を考えているところでございます。

昨年5月に木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針を発表いたしております。まずエレベーターの設置につきましては、内部エレベーターは柱、梁などの主要な構造材を切断しない場合、小型のエレベーターしか設置できません。通常の車いすや電動車いすが利用できないこととなりますので、設置をしないこととしております。また、外部エレベーターについては、都市景観条例で優れた都市景観の形成を進めている中で、景観計画により名古屋城の眺望景観の保全を図るとしていただきますので、設置しないこととしております。そうした考え方にに基づきまして、史実に忠実に復元するためエレベーターを設置せず、新技術の開発などを通してバリアフリーに最善の努力をするということ、それから可能な限り上層階まで昇ることができるよう目指し、現状よりも天守閣の素晴らしさや眺望を楽しめることを保証すると、そういったこと。

また、新技術の開発には、国内外から幅広く提案を募る。協議会を新たに設置し、障害者団体等当事者の意見を丁寧に聞くことにより、誰もが利用できる付加設備の開発を行う、などのことを基本方針として定めているところでございます。

その方針を発表した以降の動きですけれども、まず新技術について、昨年の7月24日、それから11月15日の2回にわたり、企業が現在保有する技術についての直接説明をしていただく説明会を開催いたしました。これにつきまして後ほど説明しますが、新技術の公募を実施するにあたりまして、国内、海外等の事例等について調査を行った上で、それらを参考に公募スキームの案を検討するということも並行して行ってきました。この公募スキーム案につきましては、ここに掲げていますが、12月28日に特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議を開催し、各方面の有識者の皆様から意見をいただきました。こういった意見を踏まえまして公募条件を定めて、来年度のできる限り早い段階から新技術の公募を始めたいと、そういうふうに考えているところでございます。

バリアフリーの説明会に参加された皆様からいただいたご意見、障害には色々なものがあり全ての人が安心安全に昇れるようにしてほしい、現時点ではエレベーター抜きではバリアフリーとは言えないのではないか、といったこと等昇降技術に関するたくさんのご意見をいただいております。

次に、新技術による木造天守昇降の実現に向けて検討した内容ですけれども、木造で復元する天守閣につきましては、付加設備の方針において新技術により昇降を実現するとしております。まず、障害者差別解消法では、環境の整備は努力義務であり、合理的配慮は義務というふうになっております。建築物に昇降設備を設置することは、環境の整備にあたり努力義務となります。従いまして、天守閣の木造復元では新技術により昇降に関する環境の整備を行い、その上で実施に伴う負担が過重でない範囲において、必要かつ合理的な配慮により障害者の方にも楽しんでいただく、そういう考えでございます。

先ほど触れました公募スキームですけれども、公募形式につきましては、この表にありますように段階的に審査をする技術コンペを考えております。スケジュールにつきましては、2022年に天守閣の木造復元を目指しておりますので、2022年までの4年計画、1年目である来年度のできる限り早い段階で公募を開

始し、2年目・3年目に試作審査、4年目に実用化審査を行うというイメージで考えております。先ほども言いましたが12月に行った会議の意見をも踏まえて、今後さらに公募内容を検討してまいります。

それから木材の調達ですけれども、昨年の7月に契約して木材の調達を進めておりますけれども、今回調達を予定している木材、柱はヒノキ材で878本、梁材が松またはヒノキ材で1181本、その他大小天守の出入口部分の御門柱、冠木がケヤキ材で12本、土台がヒバまたはベイヒバで252本となっております。土台部分で外国産材のベイヒバを使用することも予定していますけれども、現在、株式会社竹中工務店からは、できるだけ国産材であるヒバとなるよう調整していると聞いております。昨年の11月にテレビ等で扱われた岩手県の松材の月山松は、元々はベイヒバを使うことを予定していた非常に長い梁材について、その部分で使わせていただくというふうに考えております。また、現在木曽ヒノキを集めることは非常に難しいと聞いておりますけれども、名古屋城の築城は元々木曽ヒノキが使われていたという記録がございますので、できるだけ木曽ヒノキを主要な部分である柱に使っていく、そういうふうに調整をしていると竹中工務店から伺っているところでございます。

石垣の関係ですけれども、特別史跡名古屋城跡の天守閣整備を進めるにあたりましては、その特別史跡の価値であります天守台、いわゆる天守閣の下の方の石垣の現在の状況を調べ、それを適切に保存して行くための方針、具体的にどのようなスケジュールで方針を実現していくかという保存の計画を立案・策定していく必要がございます。本市では、平成29年度からそういった目的に立って天守台石垣についての各種の調査を行ってきております。平成29年度には歴史的な資料を調べる史実調査、根石と呼んでいる石垣の一番下の基礎の部分の状況を調べる発掘調査、測量調査を行っております。今年度もそれに引き続いて、発掘調査、測量調査、足場をかけて石垣の石の状況を調べ、石垣のカルテを作成する現況調査、さらに石垣の裏の状態を調べるためにレーダーによる探査や、石垣の間にビデオスコープを入れて中の様子を調べる、そういった調査を今年度行ってきたところでございます。

一例をお話ししますと、向かって左側の写真ですが、これは小天守台の南側の地点で、写真中央の深く掘り下げてある所に見える石がおそらく石垣の最も下の基礎になる根石だというふうに思われます。これは天守が建設された慶長時代の石だと思われませんが、当時の位置を保っており変化はしていないというふうに判断しています。また右側をご覧くださいと、小天守の西側で行った発掘調査になりますけれども、少し掘り下げたところで石垣の前面に小さな石が敷き詰められたような状況が確認されております。この遺構がなぜ築かれたかは今後検討していきますけれども、江戸時代を通じて天守台石垣が管理されて手を加えられたことが分かる、そういう遺構となっています。

それから石垣カルテ、これは石垣の各面の状態、石垣を構成するそれぞれの石の状態を調べてまとめているものでございます。今ご覧いただいておりますのは天守台北側の石垣カルテということになります。上の方に昭和期の積み直しラインと書いた赤い線がありますけれども、これが戦争で焼けてから現在の天守閣を造る時に石垣を積み替えられたと思われる線でございます。また中央の下の方に赤い網をかけた部分がありますけれども、こちらは石垣が前面に大きく前に膨らんだ範囲になります。石垣を保存していく上での対処方法を検討していく必要がある、というふうにこの部分については考えております。

それから天守台石垣の背面の調査ですけれども、上段に示しておりますのが天守台石垣の西面と北面を

レーダーで探査した結果でございます。今後このデータを解析・分析しまして、孕み出しの原因等を検討していきたいと思っております。下はビデオスコープを差し込んで石垣の裏側を映した写真です。裏側の状況もよく調べて、石垣の現況を明らかにしていきたいというふうに考えております。

本市では、今まで申し上げたような調査を実施してまいりました。それによって、天守台石垣の保存と安全対策というのを取りまとめました。そこに盛り込まれた調査結果の内容としては、ここに挙げておりますが、昭和の現天守閣建築時などに大規模な手が加えられている、戦時中、天守閣が焼失した際に石垣も火を受けておりそのため石が劣化している、天守台北側に顕著な孕み出しが見られる、この3点を問題点として把握しております。そして、それに対応するための保存・修復の方針、それに従った手順等を整理したところです。

今申し上げた石垣の保全と安全対策、これにつきましては天守閣整備業の基本計画書の中に含めまして文化庁に提出していただくということで、有識者会議である石垣部会にお諮りしています。昨年7月13日にはその方針が不十分であるということを指摘されております。その後再検討を行いまして、9月10日に改めて石垣部会にお示ししましたけれども、まだ了解は得られているという状況ではございません。文化財石垣保存技術協議会に相談して、保存方針等を再検討することを石垣部会から提案されておりますので、今は協議会にご相談しながら再検討を進めている、そういうところでございます。

今後の進め方ですが、ここに3点まとめさせていただきましたが、石垣の保存方針につきましては、今申し上げましたように文化財石垣保存技術協議会に相談し、適切な助言を受けながら調査研究方法等を再検討し、石垣保存の方針について検討していく。それから基本計画書ですが、具体的な天守台石垣の保存のための検討を石垣部会に諮り、石垣保存に対する了解を得て、文化庁に提出してまいりたいと考えております。木造天守の竣工につきましては、文化庁の技術的な助言をさらに受けながら、現状変更許可の見通しを立てるとともに、優先交渉権者と協議することで、2022年12月木造天守竣工を守れるよう努力してまいりたいと考えております。そのために、できるだけ早く文化庁から現状変更許可を取得できるよう努めてまいりたいと考えております。

最後に、現在の名古屋城ですが、昨年5月に耐震性が低いということで天守閣への入場を禁止しました。現在、天守閣へ入場することはできませんけれども、名古屋城は開城しておりますので、昨年6月に本丸御殿の完成公開となっております。11月からは西南隅櫓を常時公開しております。名勝二之丸庭園の保存整備や、搦手馬出石垣の修復保全などにも取り組んでいるところでございます。それから皆様ご承知のとおり、昨年3月には金シャチ横丁ということで、名古屋めしをはじめ気概溢れる店等が出店されているということで、飲食の面が非常に充実したところでございます。今後、天守閣木造復元もございすけれども、名古屋城全体の魅力向上に取り組んでいきたいというふうに考えております。皆様、30分間ご清聴いただきまして、誠にありがとうございました。

③ 株式会社竹中工務店からの説明

司会

ありがとうございました。次に、株式会社竹中工務店の末永より設計について説明いたします。

竹中工務店

竹中工務店の末永と申します。よろしくお願いいたします。

名古屋城天守閣木造復元について、現在までの進捗をトピック的に紹介します。まずは1分20秒ほどのムービーをご覧ください。

(CG ムービーを投影)

現在、設計契約と木材調達契約の一部を締結して、設計情報、木材情報を詳細に検証し特定しています。資料に遺された史実を収集し、それらの中から建築情報を掘り起こし、その建築情報を検証・特定しています。

名古屋城については豊富な資料が残っています。江戸時代後期から編集された金城温古録、昭和7年から継続して実測され、戦後の昭和27年に完成した昭和実測図、昭和15年度から記念事業として撮影されたガラス乾板写真、その他の古文書も含めて史実を掘り起こしています。様々な資料を比較検証して史実を特定していく事例を紹介いたします。

小天守地階、東南側の内観写真です。扉と壁はこの写真には写っていません。昭和実測図にも土間と金蔵との境には扉や壁の姿は見られません。しかし金城温古録の御蔵之間図には、二重線で扉のようなものが描かれています。

赤く囲んだ部分が扉だと思われます。

金城温古録の御金蔵の所に「三口ある」、つまり3つ入口があったとの記述から、扉と壁があったことが分かります。開き戸の記述があり、施錠されていたことが分かります。御蔵之間図の赤線部分が御金蔵につながる開き戸の部分だと推察されます。また図には、小天守上り口にも同じく扉の表現がされています。緑線の部分です。

一方で、昭和実測図には一筋の敷居が描かれています。青線の部分です。扉の内側にさらに引き戸があったことが分かります。

ガラス乾板写真を子細に見ていきますと、御金蔵入口の柱の両側には上下3か所に金物が残されていることが分かります。この金物に開き戸が取り付けられていたと思われます。階段入口部分は、柱中ほどの高さに蝶番が残っています。ここは敷居から梁まで達する大きな扉があったと思われます。

また柱内側の敷居と鴨居に溝が彫られているのが分かります。青線の部分です。扉の後ろにさらに引き戸があったことが確認できました。

扉、引き戸、壁を新たに昭和実測図に書き込むとこうなります。

このようにして複数の資料から掘り起こされた史実は、様々な角度から検証し特定していきます。建具の形状や材種などが分かる資料はありませんので、他城郭や名古屋城に現存する櫓などを参照し特定していきます。そして天守閣部会において有識者の先生方に確認していただきます。

次は井戸についての検証事例です。これはガラス乾板写真、大天守地階井戸です。左側の昭和実測図の1階平面図には井戸の記載はありません。右側の宝暦の修理後に描かれた名古屋城御天守各層間取之図には井戸が描かれています。2つの図を子細に見比べてみると、昭和実測図には井戸の穴を塞いだ跡と排水溝を塞いだ跡が描かれています。

下の図は、金城温古録にある井戸の絵2点です。左側が地階井戸の絵、右側が1階井戸の絵と思われます。昭和実測図には記載のない1階井戸は、撤去されていたものと考えられます。私どもは、1階の井戸も復元する設計を進めています。

このようにして検証し特定された情報は、3次元モデルとして立体的に整合性を確認します。3次元モデルでは、平面と断面の整合性が視覚的に判断できます。大天守の3次元モデルです。3次元モデルは任意の箇所で切り取ることができます。黄色の線は3次元モデルの断面線になります。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込み、重ね合わせます。

階段のある部分で拡大してみます。これは昭和実測図です。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込むと立体的に確認ができます。このようにして史実を特定して書き起こした3次元モデルの整合性を確認しています。

昨年11月に名古屋城大天守で使われる最も大きな木材である松の伐採を行いました。大天守3階の梁に使われる長さ約16メートル、太さ60センチを超える松です。赤く塗った所です。

床面から約6.5メートルの高さにある、二部屋にまたがる丸太の梁です。

岩手県奥州市の月山神社の山にある月山松です。地元の方々が長らく大切に見守られてきた樹齢330年の大きな松ですが、名古屋城のためにぜひ使っていただきたい、との決心をされて地元の方々の見守る中で伐採を行いました。

史実を掘り起こし、様々な角度から検証・特定して、史実に忠実な名古屋城天守閣木造復元を目指します。ご清聴ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。

それでは、質疑応答の準備に入ります。ご来場の皆様はそのまましばらくお待ちください。

④ 質疑応答

司会

お待ちせいたしました。ここからは、名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問、ご意見をいただきたいと思います。

最初に会場の皆様からのご質問にお答えする職員等をご紹介します。

皆様から向かって左側の右前列から、名古屋市長河村たかしでございます。

名古屋市観光文化交流局局長の渡邊でございます。

名古屋城総合事務所所長の西野でございます。

主幹の荒井でございます。主幹の村木でございます。

主幹の服部でございます。

皆様から向かって右側が株式会社竹中工務店でございます。

それでは、ただ今よりご質問を伺います。ご発言につきましてはできるだけ多くの方、それから色々な立場の方、年齢とか性別とか多様な方々がいらっしゃいますので、たくさんのご意見をいただきたいと思います。それで、お1人様3分以内で簡潔にご発言いただきますようお願いいたします。2分30秒くらいになりましたら私の方からお知らせしますので、残りの30秒でお考えをまとめていただけたらと思います。

また、手を挙げていただきますと、係の者がマイクをお持ちいたしますので、ご発言はマイクを通してお願いします。それでは、ご質問がある方、いらっしゃいますでしょうか。

ありがとうございます。そちらの方からお願いします。

市民A

この前も質問したんですけれども、市役所は昔のままですよ、市役所の建物は昔のままだよ。あれ耐震化したよね、市長。私たちは階段で行くが、障害者の人達はエレベーターで会議室まで行くんですよ。そういうことがあるんだよね。まあそれは今聞きますけれどもね。

竹中工務店にちょっとお聞きしたいのです。この前も階段の角度とどれくらいの高さがあるのか、それをいっぺん模型で、模型じゃなくて現物で造ってみて、別にパイプでもいいんですけど。それでそれを子ども達と青年、若い人達と老人達、それをどれくらい昇れるのか。今竹中工務店の人もいっぺんそういう角度で昇ってみて。ほとんどの人が、要するに子どもも老人達も下りが最も怖いんですね。昇っても、昇ったらまた降りなからね。それを竹中工務店の人がいっぺん経験してちょっと考えてくださいよ。

司会

ありがとうございます。今のは竹中工務店さんに質問で、階段の角度や高さを現物で用意していただいて、いろんな人に昇って、降りの方が怖いから一回降りるようなことをやってみてはどうか、というご意見、ご提案ですね。いかがでしょうか。

竹中工務店

それでは、竹中工務店からご説明したいと思います。今おっしゃられるように、皆様が普段使っている階段より、史実に忠実な階段の方が勾配は急だと先日もお答えさせていただきました。そういった階段の安全性を確認するために、まさにおっしゃるとおり実物の階段を名古屋市さんと一緒に造って、その安全性について実際に検証してみようというような取り組みも実際に考えています。そういった経緯を踏んで、階段の昇降に関しての安全性、下りに関しての安全性、さらにその階段をより安全に上がるためにはどういった設えにする必要があるか、そういったものを具体的に検証しようと考えております。

司会

ありがとうございます。では次の方、真ん中の列の方、お願いします。

市民B

昭和区の（個人名）と申します。そもそも史実に基づいた忠実な復元と、観光施設としての天守閣というのは併存できないのではないかと思いますけれども。最上階を今あるみたいに鉄筋コンクリートの天守閣みたいな展望台と考えるのはかなり無理がある気がします。前の方もおっしゃいましたけれども、だいたい階段の角度が普通には昇り降りできない角度で、そこを大勢の観光客が昇り降りというのはかなり危険な状態で、そもそも観光施設としての天守閣という発想自体が間違っているんじゃないかと思います。以上です。

司会

ありがとうございます。観光と文化財ということで少し矛盾があるのではないかとこのご質問だと思います。

河村名古屋市長

では僕がしゃべります。歴史的建造物の復元という1つのジャンルといいますか、あるんですね。問題のポイントは一旦燃えてから新築だとダメですけど、そうではなくて、復元について文化庁が3つ要件を付けておまして、1つ目は元々国宝や重要文化財等の建物であったものがなくなったこと、その元あった同じ場所に造ること、色んな豊富な資料に基づいて本物を造ること。こうなると復元ということで、英語でいうとこれオリジナルということになるんです。そこをどういうふうにか考えるかですね、正直。燃えてしまったからしょうがないがやと、ツーバイフォーで通るのかと。ちょうど名古屋城の場合は、国宝一号であった、同じ場所に造る、世界にまたとない豊富な資料が残っておることですから、私のイメージからすると、それは松本城であれ、姫路城であれ、戦後で一旦焼けて、うちのおふくろもこの辺で死にましたけれども、ものすごい名古屋の悲劇を克服しながらもう1回同じものを造っていくということです。観光というより、観光というのはそれに付随してというイメージですね、僕からすれば。本物を造ってあと1000年後世まで残すと、そのこと自体に意義があると僕はそう思っていますけれども。

司会

ありがとうございます。他にいらっしゃいますか。こちらから来ているので、こちらからはいかがでしょうか。あと、女性の方のご意見もいただきたいなと思っているのですが、いらっしゃれば優先します。ではお願いします。

市民C

千種区から来ました（個人名）と申します。河村さんは選挙で市民の了解を得たとおっしゃっていますが、選挙の時に天守閣のことは全然話題になっていなかったと思います。確か中日新聞にも天守閣は全然問題になっていないというふうに書かれていたと思います。根本から考え直すお考えはおありでしょうか。まず今の天守を守る、そういう気持ちでやり直す、そういう気持ちはないですか。

司会

ありがとうございます。選挙の争点だったんでしょうか、というご質問と思います。

河村名古屋市長

ご指名でございますのでお答えします。あの時は争点だったですね。私は木造復元、私じゃない方はポスターを見られるといいですけどもストップ木造化とデカデカと書かれていました。ですから争点だったということでございます。

それから天守について根本からやり直すつもりはありません。これは社会的使命だと思っておりまして、じゃあ法隆寺だとか、国宝建築物で一番有名なのは法隆寺かもしれませんが、ああいう建物は非常に手入れがかかって大変なんですよ、残すの。だけどやっぱり残すじゃないですか、人類は。そういう気持ちであって、建築基準法の規定にこういう歴史的建造物の復元については適用除外で、木造の大きな建物ができるわけです。その時になぜそういうことをやるのかというときには、どう書いてあるかと言いますと、コンメンタールに書いてありますけれども、任務だと書いています。私達今を生きる人間の任務なんだというふうに書いてありますわ。過去の歴史遺産を引き継いでいくことは。私も70になりましたが任務だと思ってやっておりますので、そういう気持ちでございます。

司会

ありがとうございます。次は後ろの方の方と思っていたのですが、では真ん中の列の後ろの席の方、お願いします。

市民D

聞いている分には、今年5月に文化庁の申請をするらしいんですけども、これで許可が得られなかったら2022年度の完成は断念するのかということと、もう1つはそもそもなぜ2022年度完成なのかということです。石垣部会の千田先生は要するに完成時期ありきのスケジュールはそもそも無理なんだよと語ってらっしゃるので。僕は千田先生のファンなのでそういうふうに思います。名古屋市が本当に価値のある文化事業と考えているならば、じっくり取り組んでほしいなというふうに考えております。以上です。

司会

ありがとうございます。つまりいたけれども、スケジュール通りなのでしょうか。いかがでしょうか。

河村名古屋市長

わしぱっかしゃべっていかんけど、天守がもう地震で危ないんですわ。今下で竹中さんが色んな調査していますが、あれ自体も危ないんです。業務上過失致死もありますけど、労働安全衛生法で危険なことが分かっているその工事をやらせて事故が起きると刑事罰が与えられるということがございまして、丁寧に色んなことをやることはいいですが、天守をどうかしないと、大事にやろうにもやりようがないという状

況なんです。それが1つ。それから文化庁も担当が代わるので仕方がないですが、4、5年名古屋城のことを丁寧に説明してきておりまして、ことあるごとに報告してきています。何期前かな、課長さんか部長さんは、安藤・間さんと竹中さんとコンペになり、竹中さんに決まって、素晴らしい案ですねこれはと言っておられました。丁寧に上により丁寧にやっています。必ず文化庁は必ずOK出してくれると、私はそう思っています。

司会

期限はいかがですか。

市長

期限どおり進んでいきます。

司会

ありがとうございます。他には、若い方で。真ん中の列の後ろから2番目の方。

市民F

そんなに若くなくて50代半ばでございます。名古屋城の再建につきまして、私は非常に賛成派でして、私は塾の講師をしておりまして、小学生、中学生を相手にして日頃授業をしておりますけれども、子ども達は名古屋城木造再建を非常に期待しております。それから外国人の友人、中国人の方、オーストラリア人の方、アメリカ人の方も楽しみにしています。そしてなぜかマレーシア人の友人まで、お城を造り直すと言ったらワンダフルと期待してくれています。ただ、千田先生のお話も先ほど出ましたが、千田先生の調査結果を見ると、あと石垣の調査だけでまだ10年かかるそうで、そうすると私の寿命も危ないし河村市長もちょっと怪しいかな、となってきたしまうので、もう少し早く石垣の調査を終えて文化庁さんの許可を早くいただく方法は他にないものかと。

もう1つは、完成時期について、竹中工務店さんの関係があるかと思うのですが、お城を造っている過程というのが非常に観光資源として使えると思います。多分、これだけの大きさのお城を木造で再建するのは二度とないと思います。現在本丸御殿が完成して、先日、平日の夕方午後3時に行きましたがまだ観光客がたくさんいました。これだけ名古屋の観光のポテンシャルがあったんですね。そして天守閣を造っている最中の観光のポテンシャルはすさまじくあると思います。私の意見ですが、もう少し長めに建築期間をとって、2022年の完成をもう少し延ばしてもよろしいのではないかと思います。この点について、竹中工務店さん、河村市長いかがでしょうか。

司会

ありがとうございます。大賛成だけでも、せっかくなので造るプロセスを楽しもうよということ、観光客も地元とも楽しみたいということと、それから石垣の調査が10年かかるのではないかという話もあ

るので、そこをなるべく早く終わらせてお城を造る方に時間を持っていったらどうかというお話でした。まずは竹中工務店さんいかがでしょうか。

竹中工務店

建築中の状態を観光客の方に見てもらうというのは、弊社の計画の中で素屋根というものをお城の周りに造ることにしておりまして、その中に見学用のスペースを設けまして、実際に建設途中の状態を観光客の方に十分見ていただけるような形で工事をやっていきたいと考えております。長くというお話がありましたけれども、市長から期限を切って早く完成するようにというお話がありますので、できるだけ早く造るように努力をしたいと考えております。

司会

石垣の調査も含めて名古屋市さんの方でお願いします。

河村名古屋市長

ご指名だもんで私から。400 年前に加藤清正建設の社長は石垣だけを半年造って本人戻ってますけれども、その直後に亡くなっていますが、全体は2年で造っております、400 年前に。中井正清、小堀遠州といった有名な棟梁がおるんですけれども、その時に竹中工務店の創業者の竹中藤兵衛さんという人が参加して造ったということのようです。そういうことでございますので、延ばせばいいという問題ではなくて、集中的にやる所はちゃんとやると。それより何よりも天守の寿命が危ないし、早くケリを付けないといかんですわ。単純なことを言うと木造天守の方が当然軽いですわ、天守の基礎の上の部分は1万2千トン、木造だと4千トン。木材の方がはるかに実は強いということがあって、そうやって耐震性を確保すると。

石垣について正直に言ってどういうことかということ、熊本でも石垣の加藤清正建設が造った所は、ほとんど崩れてないと、その後に明治になって陸軍が造った所が崩れたということでございます。あまりなぶらん方がいいという意見もあるんです。濃尾地震にもほとんど無傷だったということがありまして。しかし丁寧なことはやらないかと。今のところ僕が聞いている所では、これだけ丁寧に石垣カルテまで作って、またさらに文化庁からも丁寧にやってよと言われておりますので、これだけ丁寧にやっているのは初めてだというふうに聞いております。竹中さんの500億の中に石垣のお金が45億入っているんです。相当また丁寧にやらせていただくということでございますので、安心していただいて。日本で初めてだと思います、これだけ大規模の石垣をこれだけ丁寧な上にも丁寧にやっているのは、丁寧にやっていますので、ご安心していただいてもいいと思います。

司会

ありがとうございました。では次の方、向こう側の列の前の方。

市民G

竹中工務店さんにお尋ねすることになると思いますが、私昭和 21 年に閉鎖中のお城の中に何度か入っているんですよ。それは私が小学校 5、6 年生だったと思いますが、近所に住んでいた私もお城と同じ日に戦災を受けた人間としまして、戦後 21 年の段階から石垣が崩落した所の修復にトロッコが引いてあったことがありますて、3 時になると人夫さんがいなくなりましたから、私何度か石垣を昇って泳いで、そして何度も何人かで一緒に入ってきて。トロッコは天守閣のど真ん中から U ターンをして西北の庭の方に石を運ぶようにトロッコが引いてありました。私はそのトロッコの面白さで、男連中、素っ裸で石垣に何度か入ったと。その時に見た石垣は赤くなってほとんどボロボロだった訳ですよ。私実は自分の家の後始末で、戦後の昭和 20 年 8 月の段階から、翌年のために焼け跡で食料がない訳ですから焼け跡にさつま芋を植えていたのの後始末をするときに、私は商店の人間ですからガラスは全部ソフトボールのようになっていて、はだして歩いてもなんともないわけで、鉄の姿も何もない状態、そして土はちょうどこの椅子の色をもう少しどす黒くしたような赤みがかったような状態の土が全部あった覚えがあります。それは焼夷弾がどんな火力だったかということを物語っている訳でして、それで御影石なんかはボロボロになっているわけですよ。私は自分が掘り起こして芋を植えたという体験とですね、お城に上がって行ってその後始末をしている状態の時の石を見たときに、もうこれはとてもじゃないが大変な姿だなと。

司会

手短にお願いします。

市民G

ということがありまして、私は見ていましたが、だいたい 3 分の 1 ほど積み直して今まであったわけですよ、それだけではとてもじゃないが、市長がおっしゃるように、耐震性の問題の一番の根拠は、石垣が崩落する状態にあるということだけは分かりますので、いくら木造で軽くなったとはいえ、石垣の大半の石を積み直しを加藤清正にならうならともかく、とにかく外堀の状態から見れば石はもっとありますから、かなり集め直して組み直すということを行って後世に残すことが一番大事だと思いますので、石の調査と組み直しをぜひお願いしたいと思います。

司会

これは竹中さんにお伺いすればいいですか。今だから時効だから言える話がいっぱい出てきて貴重なお話かなと思います。石垣の石が劣化しているということだと思います。名古屋市さんをお願いします。

村木名古屋城総合事務所主幹

名古屋城の天守台の石垣が火を受けて劣化して脆くなっているというご指摘だと思います。まず内部の方の、以前天守に入られた時期のことでいいますと、まず内部の方の石垣については火を受けてボロボロになって劣化していたということで、それにつきましては戦後に 2 度ほど石垣を取り替えて修理をしてい

ます。ですので今の天守閣に造り替えた時にも大方の石を取り換えておりますので、内部の石については既に江戸時代からのもので戦争でボロボロになった石はなくなっている状況でございます。外部につきましては、先ほどカルテというものを見ていただきましたが、その中で緑色に個別の石が塗っていたものをご記憶の方もいらっしゃると思いますが、それがおそらく火を受けた、他の要因もあると思いますけれども、火を受けたことで石がボロボロになっていたり割れたりして劣化しているところを今確認しています。ですから、そういった外部につきましても火を受けて悪くなった石がどのくらいあるかというのを確認しておりまして、それがどういう処置が必要であるのか、あるいはこのままでいいのか、今の天守閣も今度の天守閣も石垣自体には重みがかかりませんので、そういう前提でこのままでいいのか、何らかの処置をする必要があるのか、今行っている調査を踏まえて検討してまいります。

司会

今のお話は、皆様のお手元の資料の10ページの上にある石垣カルテの作成の所ですね。

河村名古屋市長

火が入った石垣について2説ありまして、空襲で焼けたこと自体がかけがいのない歴史的事実であるということで、程度にもよりますが替えない方がいいという説もあります。よく間違えるのですが、熊本城の石垣が崩落しておりますが、大天守の石垣は無傷なんです。12センチ下がっただけ。なぜかと言いますと、熊本城の石垣はコンクリートパイルが8本打ち込んでありまして、上はコンクリートですけど、それを全部受け止めているわけです。熊本城がエレベーターを造ると報道されていますが、名古屋城の木造とは違って史実と関係ないやつですから。名古屋城の石垣にも下には7000トンか8000トンくらいのケーソンというコンクリートの塊が埋めてあって、そこが天守の荷重を受けているわけです。天守の荷重は石垣にはかかってないんですわ実は。だから濃尾地震の時にでも、確か石垣が崩れた所はなかったと思います。その時は天守が石垣に乗っていました。今は乗ってないんですよ。まあ戦後の建築においてはそういうふうにしたということでございますので、丁寧にやるということに尽きると思いますけれども。

司会

はい、ありがとうございます。真ん中の列の方、お願いします。

市民H

河村さんのご意見にも共通するんですが、今好んで姫路とか犬山とかに行くような人は皆喜々としてあいう階段を昇っているので、本当にお城が好きな人はやはり史実に基づくものがいいのかなと思います。まして、役場とか病院とか図書館などそういうものとは異なるのかなと思います。もちろん、いろんなお立場の中でエレベーターが欲しいとかいう方もいらっしゃるかと思います。その中で、ネットを覗くとエレベーターがない方がいいという意見の方が圧倒的に多いと私は感じています。そういうところで、報道の中ではエレベーターがある方がよいというのがなかなか多く出てくるというのがあるんですけども、

一義的にはお金を出す名古屋市民がどう思っているのかを数字で出せないかなと思っています。そこところで色んな意見があると思いますが、意見のとり方としては、偏った人がワッと押しかけて偏った結果になるのはいけませんし、市側が自分達の市の意見に合うような人達を恣意的に集めていると思われてもいけません。公正かつ透明性ある調査をして実際に市民の多くがどのような意見を持っているかを冷静に判断して、もちろん多数決だけで決めるはいけないんですけども、市民の多くの考えはこうだということを現実に見据えた上で、総合的な判断材料にしてはどうかと。そんなに変な考えではないと思いますが、市の皆さんいかがでしょうか。

司会

エレベーター設置について名古屋市民に問うと、意識調査等を通じて冷静な判断をしたらどうかというご提案でした。いかがでしょうか。

河村名古屋市長

それは1つの考え方だと思います。ただ、前に福祉の方が見えて、やってくれると言われてます。それと歴史的建造物の復元ということをしちゃんと理解してもらわないと、わしは年を食って足が悪いもんでエレベーターつけやええがやと、とこうなりますわ。私もこの間ある福祉の方に言われましたのが、お前もう70になるので上に上がれんようになるのでエレベーターが要るだろうと。そういうのとちょっと違うんです、そういう問題じゃないんですわ。こういう本物を残していく社会的責任があるかどうかということが重要なんだと。人力でやるなどサポートしていくとか、その工夫を高めていくことが一番温かいという議論があります。エレベーターだと火事が起こると煙も出るなどダメになってしまいますね。それとコミュニケーションがないですから、人力でありますとしやべりますよね、4、5人おって。ちょっと悩むところですね。文化的なことを多数決というか世論調査をやって決めていくのは、なかなかどうですかね。福祉側の方がやめてくれと言っていましたけれども。しかし1つの考え方だと思います。

司会

次の方、こちらの前の方。

市民I

今日はどうもありがとうございました。私はトロい男でバカな質問かもしれませんが、コロンブスの卵じゃないですけども、市長さんも江戸時代の武家諸法度を守るような一国一城という考え方を捨てていただいて、2つ造ったらどうかと思うんですよ。これは笑い事じゃなくて、オリンピック・パラリンピックと両方ありますよね、オリンピック型名古屋城、パラリンピック型名古屋城と2つ造っていただく。最初に造っていただくのはオリンピック型名古屋城で、その収益でパラリンピック型名古屋城を造ると、これ全国初ですよ、全国初というか世界初の言ってみれば福祉型の城ということですよ。こういうことを発想の転換で考えていただいて、せっかくエレベーターの方も、結局城を造ることには賛成だと

思いますので、もう少し包容力をもって、政治的判断で、市長さんはお金を譲歩していただくと、エレベーターが必要な方は遅くなるもんで時間を譲歩していただくと、竹中さんは2つ造るんだからコストを安くしていただくというような形で、考えていただければと思います。

もう1つ私が今日聞きたかったのが、竹中さんに漆の問題ですけれども、当然城を造るとなると漆が必要になってくると思います。今、文化庁では国宝級を修理するためにやっぱり国産を使いなさいということに変わったらしいんですよ。今までは中国製を使っていたらしいんですけどもすぐはがれるのでそんなような形になっているようですけれども、国産と中国製の両方を混ぜてコストダウンをしてパラリンピック型名古屋城の資金に充てるとか、その辺を考えてやっていただければと思います。以上です。

司会

ありがとうございます。名古屋城を2つ造ったらどうだというご提案と、国産の漆について量もお金もかかるんじゃないのというご質問でした。

河村名古屋市長

わしはつかしゃべっていかんですけども。エレベーターについて福祉の皆さんによう言っているんですけども、今の名古屋城のエレベーターは7階建てですが5階までしか行けません。エレベーターを降りますとどうなるとるかと言いますと、歴史的史実と全く無関係なショーケースがいろいろあります。結局そういうことでええの。僕はその方が福祉の方に対して冷たい考え方だと思いますよ。ちょこっといろんな努力がいきますけども、今度国際コンペもやりますけども、やっぱり国宝一号であったことと、たまたまありがたいことに先人が素晴らしい資料を残してくれたわけですよ。その雰囲気と言いますが、それを福祉の人、福祉ばかりではないですけれども、年をとった人などにいろいろ工夫をして味わってもらうことが温かい気持ちじゃないんじゃないですか。エレベーターだけ造って降りたらですね、それは名古屋城博物館であったと。それでは冷たい考えじゃないのと僕は思っておるんですけども。高いところに昇りたいわけではないでしょう、と言って。本物をとにかく皆で味わって1000年後に残すんだと。皆で雑巾がけでもして今度は。そういうことを皆でシェアすることがバリアフリーなんじゃないかと、というのが私の考え。

竹中工務店

漆に限らず昔の材料をなるべく国産のものを使うのが基本目指すところですが、使われる材料は全国で限られていたり、他の文化財の修理でも使われていることもありますので、全て国産ということに限らず、バランスを見て調達していくことになるかと思います。

司会

すみません。お時間が迫って来たので、あと2人くらいの方をお願いします。後ろの真ん中の後ろの方と、もう1人通路側の方をお願いして、すみません、ここで打ち切らせていただきます。

市民J

50歳、男性、第一級障害者、杖使用、ヘルプマークも付いています。ちょっと今どうしても言いたいことが1つあるんですけど、今日1時半にここの地下1階に来て皆さんと一緒に並びました。ここへ来る間、地下2階まで階段を降りてきました。ヘルプマークも付いています、手すりにつかまりながらゆっくり降りました、どんどん抜かれていきました。誰1人も手伝ってもくれません、背広を着ている人、誰も声もかけてくれませんでした。障害者ってこういうものですかね。福祉ってこういうものですかね。今日名古屋市の方でバリアフリーのことをやるんですから、障害者の方が来ることが分かっているはずなのに、こういう状況ですか。名古屋市中で福祉の担当者の方、今日いらっしゃらないですよ。それでもバリアフリーですか。おかしくないですか。車いすの方だけがバリアフリーなのでしょうか。杖つく人はバリアフリーは関係ないのでしょうか。

ちょっと伺いたいのですが、木造の歴史的建造物ができたとします。手すりくらいは付くんでしょうか。急な階段に手すりくらいつけてもらえるのでしょうか、教えてください。

もう1つ、先日本丸御殿に行きました、靴を脱いでカバンを置いて杖の先を拭いて中に入りました。柱に触ってちょっと支えようとしたら怒られました。壁に触ったらいけないそうです。今度できるお城は、柱や壁に触ったら怒られるようなものが造られるのでしょうか、どういうものができるんでしょう、詳しく障害者に分かるように教えてください。

司会

ありがとうございます。先ほど、温かいバリアフリーというお話があったのに、ここに来る時点でもそれがなかったのだけれど、心のバリアフリーも考えてほしいよというお話と、手すりというか、壁に触って移動するというのは今度是可以できるんでしょうかというお話ですが、いかがでしょうか。

西野名古屋城総合事務所長

ご意見いただきまして誠にありがとうございました。本日私どもの対応が非常に不十分であったこと、今日教えていただきまして、それはしっかりと受け止めて、私どもといたしまして反省して対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。階段につきましては、今日お配りしました資料の5ページにございますが、安全対策のために、史実に忠実には造りますけれども安全対策のために最低限の付加設備は考えております。その中で、構造補強や防災避難設備とともにバリアフリーという観点もございまして、その中の主な対策として、下の段に挙げておりますが、手すり、段差解消などというのがありますので、これは現在残っております国宝の松本城や姫路城も安全のために手すりはつけておりますので、木造復元した時にもやはり手すりの対応は必要であろうというふうに考えているところでございます。

それから、触って私どもが注意をさせていただきましたのは本丸御殿だと思いますが、非常に気分を害されて大変申し訳ないと思います。本丸御殿につきましても、どうしても昔の建物のままで特別に触った時にはじくようなものを塗るとか、そういうことはしておりませんので、極力触らないようにということは我々としてはお願いをしている部分はございます。けれどもそれがあまりに行きすぎると皆様にご不便

をおかけしますので、私どもとしてはそういうお声がけはしておりますけども、それが触られた時に悪意であるものでなければそんなに申し上げるようなことはしないようにというふうに考えておりますので、今後天守が復元した時も、触っていただくことについて、それを基本的にできないような、そういう対応はしないようにというふうに思っておりますので、ご意見いただきましてありがとうございます。

司会

ありがとうございます。最後の方、マフラーをしていらっしゃる方です。

市民K

私は、現在天守閣は、戦後市民の歴史的建造物であり精神的基柱だと思っておりますので、これは絶対壊すべきでなく、歴史的に保存すべきだと思っております。これは大阪城や熊本城、あるいは名古屋市役所でも、十分耐震性を高めたり、コンクリート建物でも長寿化ができていますと確信しております。竹中工務店さんに1点質問させていただきますが、基本設計が開示されていないので技術提案書を見た上での質問ですが、当初の技術提案書にはエレベーターもさることながら耐火ガラスによる仮設避難コアがありましたよね。これは果たしてどうなっているのですか、これもないんですか。なければ名古屋市の見積で、1日1万人以上の集客能力の持つ所で、一旦何か起きた段階での避難の方法についてどのように考えていらっしゃるのかお聞きしたい。

もう1点名古屋市に質問ですが、昨年6月に名古屋市長も含めて文化庁に行かれて、その時に文化庁から指摘されたことで現天守の価値の評価の検証、これを求められていると思うのです。これは行われていますか。それが一向に見えてこないで、この点をお答え願いたいと思います。以上です。

司会

ありがとうございます。まず竹中さん、避難方法はどうなっているのでしょうか。

竹中工務店

まず技術提案書を作成した時点では、具体的な技術内容を関係諸官庁の皆様とは合意できてないままでの提案書でした。その後、基本設計を進める上で、避難安全に関しても有識者の先生と協議をさせていただいて、今は避難安全検証ということで、第三者の認定を取ろうと動いております。その時に技術提案書のレベルでは、最初ガラスで覆った避難階段ということも提案差し上げたんですが、有識者の先生と協議をさせていただいた時に現状2本の木質の階段を区画していくというような所作であれば十分対応できるのではないかとのご意見も頂戴しました。当然、それだけではなく全体的な避難安全に関する防災設備もパッケージにして、わざわざガラスの避難階段を造るまでもないということで方向を定めていただき、今の段階ではガラスの避難階段はない、という設定にさせていただいております。

司会

ありがとうございます。続いて、名古屋市さんの方で現天守閣の価値の評価についてあるのでしょうか。

村本名古屋城総合事務所主幹

現天守閣の価値につきましては、私ども現在進めております天守閣整備事業の基本計画書の中で現天守閣の価値を評価しております。それにつきましては一昨年の12月以来文化庁にお示しはさせていただいておりまして、文化庁の内部会議の方でまだここが足りないという指摘を2度程いただいております。その後、それを受けまして改定を加えておりまして、昨年7月に最後の指摘について名古屋市の考えをお示ししておりまして、現天守閣の価値につきましては市民の熱意によって再建されたことでありますとか、建物としての価値もあると、できるだけ正当に評価しているつもりでございます。そちらにつきましては、天守閣部会でもお示ししておりまして、先生方にも見ていただいているところでございます。

司会

ありがとうございます。それではお時間を過ぎて申し訳なかったですが、多くの方にご質問いただきありがとうございました。手を挙げてくださったのにご指名できなくて申し訳なかったです。まだ説明会は続きますので、ぜひお越しください。それでは閉会の時間は過ぎてしまいましたけれども、最後に一言、河村市長より閉会のご挨拶をいただきたいと思います。

河村名古屋市長

それでは、ようお集まりいただきましてありがとうございます。様々な思いがあると思いますが、図面を作った人達の気持ちを考えると、まさか空襲があるとは思っていなかったと思ってますけども、やっぱり火事なんかで燃えたりすることもあるので、その時にもう1回国宝一号になったこのお城を、また前のようにそのままの姿で再建してちょうよという気持ちがあったのではないかと。僕はそう思いますよ。そんなことでございまして、今日は色々ご意見いただきましてありがとうございます。

司会

それでは、以上を持ちまして「名古屋城天守閣木造復元 市民説明会」を終了いたします。アンケート用紙は出口で回収しております。また、他にご質問がある方はアンケート用紙にご記入いただければと思います。

本日は誠にありがとうございました。お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りください。

（３）説明会（会場：瑞穂文化小劇場）の記録

① 開会

司会

お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を開会いたします。私は、本日の司会進行を務めます、名古屋学院大学現代社会学部の井澤知旦と申します。どうかよろしくお願いいたします。

はじめに、本日の市民向け説明会の進行につきまして、ご説明いたします。まず、名古屋市及び株式会社竹中工務店より名古屋城天守閣木造復元事業の状況について説明を行い、その後、会場の皆様からご質問などをお伺いしたいと思います。ご質問のお時間には限りがございますので、進行にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。説明会の終了は午後８時となっております。

次に、本日お配りした資料についてご案内をいたします。受付で本日の資料、アンケート用紙をお配りしております。説明内容はスクリーンで映写いたしますが、お手元の資料でもご確認いただけます。また、アンケート用紙につきましては、お帰りの際に出口で回収させていただきます。なお、報道機関による取材が入っているほか、記録写真の撮影を行っておりますのでご了承くださいようお願いいたします。

それでは、はじめに開会にあたりまして、名古屋市長河村たかしより、一言ご挨拶を申し上げます。

河村名古屋市長

はい、今日はようおいでいただきまして、ありがとうございます。サンキューベリーマッチということでございます。

お城のことですが、前提として大事なことは地震で今の建物がものすごい危ないというのが１つのきっかけでございます。Is 値 0.14 という数値が出ておりまして、震度 6 強の地震で倒壊の危険性が高いという数字も出ておりまして、それより低い建物がいっぱいあったんですが名古屋市内に、中公設というのが大須にあり、それを取り壊しましたわし。今のところ五大都市の中で、お城だけじゃないですよ、五大都市の全公共建築物の中で一番地震で危ない建物だということで、これをどうするのかということを前提として頭に置いてしゃべらんといかんということでございます。後はいろいろ議論が出てくると思いますが、某 NHK に出ていらした某大学教授が、法隆寺から日本の木造建築の大きなものが始まりましたが、名古屋城天守は法隆寺から続く日本木造建築の最高の、究極の到達点だったかな、確か。最高の建物だということで、非常にラッキーなことで図面とか全て残ってるということで。国宝一号が名古屋城で昭和 5 年、国宝二号が姫路城。昭和 7 年から図面を作ることになりまして、今の名工大の先生を中心に名古屋市の職員と一緒に、膨大な素晴らしい実測図が残っている、そんなのは世界中を見ても名古屋城しかない、ということでございます。その辺を基礎的に頭に置いていただいて、いろいろご意見をいただければと思います。今日はようおいでいただきまして、サンキューベリーマッチ。ありがとうございました。

② 名古屋市からの説明

司会

それでは、名古屋城総合事務所所長西野より名古屋城天守閣木造復元事業に関して説明いたします。お願いいたします。

西野名古屋城総合事務所所長

皆さんこんばんは、ただ今ご紹介いただきました、名古屋城総合事務所所長の西野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ではこれからですね、名古屋城天守閣の整備につきまして、少しお話をさせていただきますと思いますのでお願いいたします。

まず、これまでの経緯でございますけども、平成27年12月に天守閣整備事業の事業者を公募型プロポーザルにより募集を開始いたしました。翌年28年の3月に優先交渉権者として竹中工務店さんを決定したということでございます。平成29年5月に、それまで1年間議会においてご審議をいただきまして、天守閣木造復元についての基本設計、その他の予算をお認めいただきましたので、竹中工務店と総事業費、上限を505億円とし、また天守閣木造復元の竣工期限を2022年12月とする基本協定さらに基本設計等業務契約を締結しまして、事業に着手したということでございます。その後7月には、天守台石垣の調査を開始いたしまして、また同じく7月に天守閣木造復元の寄附、金シャチ募金という名前を付けましておりますけども、そちらの方を開始いたしました。昨年末までおよそ1年半の期間に、市民の皆様をはじめ多くの方々からご協力をいただきまして、3億2千万円弱の寄附をしていただいているという状況でございます。平成30年度に入りまして、4月に実施設計業務契約を締結いたしました。5月には木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針を発表しております。同年7月には、柱とか梁、土台などの主要な構造部材となる木材の手配・製材の契約を締結いたしております。元々の計画では、昨年10月に文化庁文化審議会にこの事業について諮問していただきまして、11月には事業を進めるための現状変更許可をいただく、そういうことを予定しておりましたけれども、現在、有識者から天守台石垣の保存に対する対応が不十分だというふうに言われておるため、10月の諮問には至らなかった、という状況でございます。

基本設計その他業務の内容でございますが、大きく4つに分かれておりまして、まず基本設計業務では、史資料に基づきまして天守の姿の作成、すなわち通し柱の位置や木材の樹種、仕口・継手や屋根、壁の仕様などについて検討を行い、また防災避難や構造解析、付加設備について検討も行いました。続きまして、法的手続き書類作成業務ですけれども、こちらは現状変更許可手続きに必要な資料ですとか、あるいは消防法の手続きに必要な資料の作成をいたしております。その他設計業務につきましては、仮設建築物等の設計図の作成、またその他の調査業務としまして、史実の調査、ボーリング等の地盤調査、天守台の石垣調査や発掘調査を行っておるところでございます。

実施設計業務の内容でございますが、今年度、昨年4月から始めておりますけれども、大きく分けて設計業務と調査業務になりますけれども、設計業務につきましては天守閣木造復元のために必要な設計図の作成、構造解析、現状変更許可を始めとする法的手続きに必要な書類の作成、積算業務などを行っております。調査業務としましては、史実調査や現天守閣記憶伝承調査、地盤調査などを行っております。

今年度に実施しております有識者会議の開催状況ですけれども、天守閣部会を5回、石垣部会を3回行っております。有識者の方々からご意見を伺いながら実施設計、それから石垣の調査を進めているという状況でございます。

入場者数の推計でございますけれども、こちらは昨年度実施いたしました調査に基づいたものでございます。この調査では、平成28年度の入場者数実績192万人を基に、名古屋城への訪問意向等のアンケートや、リニア開業などの社会情勢の影響を踏まえ入場者数を推計しております。名古屋城内において、来場魅力が上昇するイベントなどの開催効果を見込んだ高位シナリオというものによりますと、2022年の木造復元直後の2023年には422万人を見込んでおります。その後、入場者数は減少いたしますけれども、リニアの名古屋までの開業の効果、また全線開業効果で増加いたします。その後微減となりますが2071年までに346万人前後で推移すると、そういうふうな結果となっております。

天守閣木造復元の基本的な考え方でございますけれども、この事業は歴史時代の建築物等の遺跡に基づき、当時の規模・構造等により再現する歴史的建造物の復元、そういうふうなものでございます。名古屋城の天守閣は、先ほども市長がお話ししましたが、法隆寺の頃から始まった日本の木造建築物の1つの到達点、究極の木造建築物とも言われ、豊富な歴史資料を基に外観の再現にとどまらない、史実に忠実な完全な復元を行おうというものでございます。また、市民の皆様にはですね、「一旦焼失しているので復元しても本物の天守ではない」と、そういったご意見もございますけれども、やはり名古屋城天守閣につきましては市民の精神的支柱であり誇りである、悲しい歴史的事実を経て昭和実測図や、それから金城温古録など豊富な資料に基づいて、戦災で焼失する前の本物の姿に復元し、世界に広く発信をしていこうと、そういう趣旨でございますので、大変意義の大きい事業だというふうに考えております。

天守閣木造復元の基本的な考え方の中で、復元案の検討ということですが、今申し上げた歴史資料がたくさん残されております。これらが復元の根拠となる重要な資料ですので、史実に忠実な復元案の作成のためには、この根拠資料を紐解いて検討を進めております。その状況は、後ほど竹中さんのお話の中にもありますけれども、通し柱の位置や柱や梁の樹種、屋根や壁の仕様、復元するための基準となる寸法、屋根の勾配や仕様、建具の配置や畳が敷かれていた場所などの検討も進めてまいっております。今後とも復元の根拠となる資料をしっかりと検証して、史実に忠実な復元のための検討を続けてまいります。

それから新たに付加する現代技術ですけれども、原則として史資料に基づき、当時と同じ材質、量、工法の復元を行います。しかし、復元する建造物の構造または復元後の管理活用の観点から、防災上の安全性の確保が必要となってまいります。この方針については、文化庁の史跡等における歴史的建造物の復元に関する基準の中で歴史的建造物の復元として定められておりまして、言い換えればこれに従わなければ復元することはできない、というものでございますので、ここに掲げたようなことに関して、一部現代技術での対応が必要になるということでございます。

続きまして、昨年5月に木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針を公表しております。まずエレベーターの設置ですけれども、内部エレベーターは柱、梁などの主要な構造材を切断しない場合、小型のエレベーターしか設置できません。通常の車いすや電動車いすが利用できないから、設置をしないこととしております。また、外部エレベーターについては、都市景観条例を定めて優れた都市景観の形成を進めてい

る中で、景観計画により名古屋城の眺望景観の保全を図ることにしていますので、設置しないことにしております。付加設備の方針の中の基本方針はここに掲げている通りですけれども、史実に忠実な復元をするためにエレベーターを設置せずに、新技術の開発などを通してバリアフリーに最善の努力をするというふうにしております。また、可能な限り上層階まで昇ることができるよう目指し、現状よりも天守閣の素晴らしさや眺望を楽しめることを保証するというふうにしております。

また新技術の開発には、国内外から幅広く提案を募る。協議会を新たに設置し、障害者団体等当事者の意見を丁寧に聞くことにより、誰もが利用できる付加設備の開発を行う、などを掲げているところでございます。

この方針を公表した後にいくつかの動きがございますが、まずは新技術につきまして7月と11月の2回、企業が現在保有しております技術について直接説明をしていただく説明会を開催いたしました。また、その他にも新技術の公募を行うということで、そのスキーム案の検討も行っておりまして、昨年12月末にバリアフリー検討会議を開催いたしまして、ご出席いただいた各方面の有識者の皆様から様々なご意見をいただいております。この公募につきましては今年度中に公募条件を固めて、来年度のできるだけ早い段階から公募を始めていきたい、そういうふうに考えているところでございます。

先ほど申しました、7月と12月に説明会を行いました。そこで参加された皆様からいただいたご意見ですけれども、ここに掲げております。障害には色んなものがあり全ての人が安心安全に昇れるようにしてほしい、現時点ではエレベーター抜きではバリアフリーとは言えないのではないか、など昇降技術に関する課題についてご意見をいただいているところでございます。

それからバリアフリーに関する関係法令として、障害者差別解消法がございます。この法律の中では、環境の整備が努力義務、合理的な配慮が義務になっております。建築物に昇降設備を設置することは、環境の整備にあたり努力義務というふうになります。従って天守閣の木造復元では新技術により昇降に関する環境の整備を行っていくと、その上で実施に伴う負担が過重でない範囲において、必要かつ合理的な配慮により障害者の方々にも楽しんでいただけるように、というふうに考えているところでございます。

新技術の開発に向けた公募スキームの案ですけれども、こちらにつきましては現在、段階的に審査するコンペを考えておりまして、2022年に天守閣木造復元を目指しておりますので、それまでの4年計画と、1年目である来年度のできる限り早い段階で公募を開始し、2年目、3年目に試作審査を行いまして、4年目である2022年に実用化を行うというイメージで考えております。先ほどの有識者の検討会議での意見も踏まえて、現在具体的に公募のあり方を検討しているところでございます。

木材の調達でございますが、今回調達を予定しております木材につきましては、柱がヒノキ材で878本、梁材が松またはヒノキ材で1181本、その他大小天守の出入口部分の御門柱や冠木がケヤキ材で12本、土台がヒバまたはベイヒバで252本というふうになっております。土台部分において外国産のベイヒバを使用することを予定しておりますけれども、現在、株式会社竹中工務店の方からは、できるだけ国産材であるヒバとなるように調整しているというふうに聞いております。また昨年の11月にテレビ等で取り扱われました岩手県の松材の月山松が、これにつきましてはベイヒバを使用すると予定していました最も長い梁材を国産の松材で賄うと、そういうふうに考えているところでございます。また、現在木曽ヒノキを集

めることは非常に難しいと聞いておりますけれども、名古屋城の築城にあたりましては木曾ヒノキが使われていたという記録がございますので、できるだけ木曾ヒノキを特に主要な部分である柱にですね、木曾ヒノキを使っていく、そういうふう調整をしていると竹中工務店の方からは伺っております。

それから名古屋城の下石垣である天守台、この石垣の調査、保存方針の検討ですけれども、天守閣の整備を進めるにあたりましては、特別史跡名古屋城跡の本質的価値を構成する天守台石垣の現在の状況を調べ、それを適切に保存していくための方針、具体的にどのようなスケジュールで方針を実現していくかという保存計画を立案・策定する必要があります。本市では、平成29年度よりそうした目的に立って天守台石垣についての各種の調査を行っております。平成29年度には歴史的な資料を調べる史実調査、根石と呼んでいる石垣の一番下の基礎の部分の状況を調べる発掘調査、測量調査を行っております。今年度もそれに引き続きまして、発掘調査、測量調査、足場をかけて石垣の石の状況を調べ、石垣のカルテを作成する現況調査、さらには石垣の裏の状態を調べるためにレーダーによる探査や、石垣の間にビデオスコープを入れて中の様子を調べる調査を行ってきたところでございます。

調査の例でございますが、左側の写真をご覧くださいますと、小天守台の南側の地点になりますが、写真中央の深く掘り下げているところの石がおそらく石垣の最も下の基礎になる根石と呼ばれるものだと考えております。これは天守が創建されました慶長の時代、1610年頃ですね、に据え付けられた石だと思われれますが、当時の位置を保っており変化はしていないというふうに判断しております。また右側の写真ですけれども、これは小天守の西側で行った発掘調査ですが、少し掘り下げたところで石垣の前面に小さな石が敷き詰められたような状況が確認されております。この遺構がなぜ築かれたかは今後検討していくこととなりますけれども、江戸時代を通じて天守台石垣が管理されて手を加えられたということがこの遺構から分かるというような状況でございます。

石垣カルテの作成、石垣カルテと言いますのは、石垣の各面の状態、石垣を構成するそれぞれの石の状態を調べてまとめている、そういった調査結果でございます。このスクリーンで映させていただいておりますのは、大天守の北側の面の石垣カルテになりまして、上の方に積み直しライン（昭和期）と書いてありますが、この赤い線がありますけれども、これは現在の天守閣を再建する時に石垣を積み替えたと思われる範囲を示しております。また中央の下の方に赤い網をかけた部分がありますけれども、こちらは石垣が前面に大きく前に膨らんでいる範囲を示しております。石垣を保存していく上で変化の度合いが大きい部分をどのように対処していくか、そういう方法を検討していく必要がある、というふうに考えているところでございます。

それから背面の調査ですけれども、上段にお示しておりますのが天守台石垣の西面と北面をレーダー探査した結果ということになります。今後こういったデータを分析して、孕み出しの実態や原因などを検討していきます。下の段は、石の間にビデオスコープを差し込んで石垣の裏側を映した写真です。石垣の現況を知るためには裏側の部分もよく調べる必要がありますので、こういう調査を行っております。

そしてこういった調査を進めまして、その成果を取りまとめて天守台石垣の保存のための方針、そしてそれを実現していくための具体的なスケジュールを盛り込んだ保存計画を策定しています。そういうふうに進めてまいりましたので、調査の成果を整理した上で、おおよその計画を示しました天守台石垣の保全

と安全対策というものを取りまとめました。その中では、今までの調査の結果ですね、昭和の現天守閣建築時に大規模な手が加えられているということ、戦時中の天守閣焼失時に石垣も火を受けており、そのため石が劣化していること、天守台北側に顕著な孕み出しが見られることの3点を問題点として把握しております。そしてそれに対応するための保存・修復の方針、それに従った手順などを整理いたしました。

そして今申し上げました石垣の保全と安全対策につきまして、天守閣整備事業の基本計画書の中にそれを盛り込みまして、文化庁の方に提出していく、そういう方針としておりました。それで文化庁に提出するに先立ちまして、有識者会議の方にお諮りしたんですけれども、しかしながら調査の方がまだ不十分であるということで指摘を受けましたので、この時点で文化庁への提出は断念しておるところです。その後、7月から9月に再検討を行いまして石垣部会ともう一度打合せを行いました。しかしその段階でも、了解が得られませんでしたので、基本計画書は提出はしませんでしたので、先ほど申しましたように10月に開催された文化審議会に諮問されるに至らなかったということでございます。その後、石垣部会の方からは、文化財石垣保存技術協議会に相談して保存方針等を再検討するようにと提案をされましたので、現在その保存の方針について再検討を行っている、そういう状況でございます。

今後の進め方ですけども、今申し上げましたように石垣保存方針について文化財石垣保存技術協議会に相談しながら適切な助言を受けながら調査研究方法等を再検討し、石垣保存方針について検討していくというふうに考えております。それから文化庁の方に提出いたします基本計画書につきましては、具体的な天守台石垣の保存のための検討を石垣部会の方に諮りまして、石垣保存に対する了解を得て、提出してまいりたいと考えております。木造天守の竣工につきましては、文化庁の技術的な助言をさらに受けながら、現状変更許可の見通しを立て、優先交渉権者である竹中工務店様と協議をして、2022年12月に竣工できるよう努力してまいりたいと考えております。そのためにも、できるだけ早く文化庁から現状変更許可を取得できるよう努めてまいりたいというのが今の状況でございます。

最後に、名古屋城の現状ですけども、昨年5月に今の天守閣の耐震性が低いということで入場禁止といたしました。しかしながら、6月には本丸御殿の完成公開をいたしまして、11月からは西南隅櫓を常時公開しているというようなところでございます。名勝二之丸庭園の保存整備や、搦手馬出石垣の修復保全なども行っておりまして、さらなる魅力づくりに努めてまいりたいと考えております。それから昨年3月には皆様ご承知のとおり、金シャチ横丁ということで飲食店がオープンしておりますので、定番・老舗の名古屋めし、あるいは気概溢れるお店などが出ております。こういったものもお楽しみいただければと思います。名古屋城といたしましては、天守閣木造復元を進めるとともに、名古屋城の魅力アップに努めてまいりたいというふうに考えております。どうもご清聴ありがとうございました。

③ 株式会社竹中工務店からの説明

司会

ありがとうございました。それでは引き続きまして、株式会社竹中工務店の末永より設計についてご説明申し上げます。それではよろしくお願いいたします。

竹中工務店

竹中工務店の末永と申します。よろしくお願いいたします。

名古屋城木造復元について、現在までの進捗をトピック的に紹介します。まずは1分20秒ほどのムービーからご覧ください。

(CG ムービーを投影)

現在、設計契約と木材調達契約の一部を締結いたしまして、設計情報、木材情報を詳細に検証し特定しています。資料に遺された史実を収集し、それらの中から建築情報を掘り起こし、その建築情報を検証・特定しています。

名古屋城については豊富な資料が残っています。江戸時代後期から編集された金城温古録、昭和7年から継続的に実測され、戦後の昭和27年に完成した昭和実測図、昭和15年度から記念事業として撮影されたガラス乾板写真、その他の古文書も含めて史実を掘り起こしています。様々な資料を比較検証して史実を特定していく事例を紹介いたします。

小天守地階、東南側の内観写真です。扉と壁はこの写真には写っていません。昭和実測図にも土間と金蔵との境には扉や壁の姿は見られません。しかし金城温古録の御蔵之間図には、二重線で扉のようなものが描かれています。

赤く囲んだ部分が扉だと思われます。

金城温古録の御金蔵の所に「三口ある」、つまり3つ入口があったとの記述から、扉と壁があったことが分かります。開き戸の記述があり、施錠されていたことが分かります。御蔵之間図の赤線部分が御金蔵につながる引き戸の位置だと思われます。また図には、小天守上り口にも同じく扉の表現がされています。緑線の部分です。

一方で、昭和実測図には一筋の敷居が描かれています。青線の部分です。扉の内側にさらに引き戸があったことが分かります。

ガラス乾板写真を子細に見ていきますと、御金蔵入口の柱の両側には上下3か所に金物が残されていることが分かります。この金物に開き戸が取り付けられていたものだと思います。階段入口部分は、柱中ほどの高さに蝶番が残っています。ここは敷居から梁まで達する大きな扉があったと思われます。

また柱内側の敷居と鴨居に溝が彫られているのが分かります。青線の部分です。扉の後ろにさらに引き戸があったことが確認できました。

扉、引き戸、壁を新たに昭和実測図に書き込むようになります。

このようにして複数の資料から掘り起こされた史実は、様々な角度から検証し特定していきます。建具の形状や材種などが分かる資料はありませんので、他城郭や名古屋城に現存する櫓などを参照し特定していきます。そして天守閣部会において有識者の先生方に確認していただきます。

次は井戸についての検証事例です。これはガラス乾板写真、大天守地階井戸です。左側の昭和実測図の1階平面図には井戸の記載はありません。右側の宝暦の修理後に描かれた名古屋城御天守各層間取之図には井戸が描かれています。この2つの図を子細に見比べてみると、昭和実測図には井戸の穴を塞いだ跡と排水溝を塞いだ跡が描かれています。

下の図は、金城温古録にある井戸の絵2点です。左側が地階井戸の絵、右側が1階井戸の絵と思われます。昭和実測図には記載のない1階井戸は、撤去されていたものと考えられます。私どもは、1階の井戸も復元する設計を進めています。

このようにして検証し特定された情報は、3次元モデルとして立体的に整合性を確認します。3次元モデルでは、平面と断面の整合性が視覚的に判断できます。大天守の3次元モデルです。3次元モデルは任意の箇所で切り取ることができます。黄色の線は3次元モデルの断面線となります。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込み、重ね合わせます。

階段のある部分で拡大して見てみます。これは昭和実測図です。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込むと立体的に確認ができます。このようにして史実を特定して書き起こした3次元モデルの整合性を確認しています。

昨年11月に名古屋城天守で使われる最も大きな木材である松の伐採を行いました。大天守3階の梁に使われる長さ約16メートル、太さ60センチを超える松です。

床面から約6.5メートルの高さにある、二部屋にまたがる丸太の梁です。

岩手県奥州市の月山神社の山にある月山松です。地元の方々が長らく大切に見守られてきた樹齢330年の大きな松ですが、名古屋城のためにぜひ使っていただきたい、との決心をされて地元の方々の見守る中で伐採を行いました。

史実を掘り起こし、様々な角度から検証・特定して、史実に忠実な名古屋城天守閣木造復元を目指します。ご清聴ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。

それでは、ステージを整えますので、皆様そのまましばらくお待ちください。

④ 質疑応答

司会

お待たせいたしました。ここからは、名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問、ご意見をいただきたいと思います。

最初に会場の皆様からのご質問にお答えする職員等をご紹介します。

まず、名古屋市長河村たかしでございます。

続きまして、名古屋市観光文化交流局局長の渡邊でございます。

先ほど説明いたしました、名古屋城総合事務所所長の西野でございます。

主幹の蜂矢でございます。主幹の荒井でございます。

主幹の村木でございます。主幹の服部でございます。

向かって右側のゾーンでございますが、株式会社竹中工務店の皆様でございます。

それでは、ただ今よりご質問、ご意見を伺いたいと思います。ご発言につきましてはできるだけ多くの方からいただきたいと考えておりますので、恐れ入りますがお1人様3分で簡潔にご発言いただきますよう、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。2分30秒くらいになりましたら私から合図するなりいたしますので、残りの30秒でお考えをまとめていただきたく存じます。どうかよろしくお願いいたします。また、手を挙げていただきますと、係の者がマイクをお持ちいたします。ご発言はマイクを通してお願いしたいと思います。今日ご参加の皆様の老若男女、前後左右、バランスよくご指名していきたいというふうに思います。

これまで説明会は熱田、土曜日に中区で開催させていただきましたが、今日初めて来られた方で、初めて発言したい方をまずは優先したい、また順番は回ってくると思いますので、その方から挙手をお願いします。いかがでしょうか、初めての方。一番最初に手が上がった方、マイクをお持ちしますので、しばらくお待ちください。

市民A

私（個人名）と申しますがよろしくお願いします。予備知識として、名古屋城検定の中級は受かっているが上級は残念ながら滑りました。こういうものを造る場合、完全に修復するとなると、現在の科学と、現代の情勢についてというのが別に出てきますから、完全修復というのは正直言って私はどこまでが完全修復なのか分かりません。例えば、先ほど画面に映りましたが非常に暗い。なぜかという照明が1つありません。私はそういった時に付属品としてLEDの間接照明をつけてもいいのではないかとというのが第一点、石垣の修復については、完全に江戸時代の状態を忠実に復元となると年数もかかるし、技術的には竹中工務店さんは優秀なので石垣の建設には中にコンクリートを打って鉄筋を入れて造っていると思うんですわ。江戸時代はそういうことやらずに栗石入れて、その中にまた小さい石を入れてやった場合には地震があるとゆさゆさ揺れて、それが徐々に下がってくるもんだから石垣の中が空洞になってしまう。それは報道陣の方は常識的に分かっているんだけど、完全に完全に修復するとなると文化庁の許可を取れないだとか、最近はなくなってきて文化庁でも歩み寄りをされて良い方向に持っていこうとしていると思います。そこらへんは、どうなっているのかという疑問もあるし、私が一番思うのは、なんとか皆さんが楽に天守閣一番最上階まで行けるように、それを何とかしてほしいと思います。私は対抗馬として姫路城に負けたくない、名古屋はあくまでも観光の都市にしたいという持論をもっておりますので、そこらへんがどうなのかなと思っていますので、よろしくお願いします。以上です。

司会

ありがとうございました。完全復元と言われているが時代に合わせて変えていく必要があるんじゃないか、現状城の中に入ると暗すぎるのでLEDをつけてもいいんじゃないか、石垣の積み方も現代の最新技術をうまく活用したらいいんじゃないかというお話でした。どこまで完全復元をやっていくのか、最上階まで人がちゃんと行けるようにしてほしいし、姫路城に負けたくないような城にしてほしいというお話でした。どなたか、お願いします。

荒井名古屋城総合事務所主幹

ご質問いただきありがとうございます。史実に忠実にということで我々の方では進めているところではありますが、そればかりではやはりダメということも当然あります。先ほど画面の方で説明させていただいて、資料でみますと5ページのところに、新たな付加する現代技術として挙げさせていただいておりまして、史実に忠実に復元することだけではなく、中に皆さんに入っていただくということも考えるということを前提とすると、耐震補強、防災避難設備、あるいはバリアフリーということの現代の技術を取り込むことによって復元する必要がある、それが文化庁が掲げる基準に合うような形でないと復元はできないので、現代の技術も入れながら復元をしていきたいというふうに考えております。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

それからもう1点、石垣の修復についてもお話をいただきました。石垣につきましては、特別史跡に指定されている本質的な価値を構成する1つとなっておりますが、ご指摘があったように、地震等で崩れることは可能性としては否定できません。今回の事業については、過去の地震の影響でどのように石垣に変状をきたしているのかという点について資料を調べまして、それに基づいて事実を工学的な解析だとか調査で確認をします。その上で最適な形で修復をしていきたいというふうに考えております。あともう1点、楽に天守閣を昇れるようにしてほしいというご要望もいただきました。これにつきましては、基本的には史実に忠実な形で木造階段を復元させていただいて、その上で名古屋市としましては、エレベーターを設置せず新しい技術を以て昇降していただこうと考えおりまして、現時点におきましては皆様にお示しできるような新技術というものはございませんが、これから国内外からそういったものを公募していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

司会

では続きまして、初めて発言したい方いらっしゃいますか。では奥の方に。よろしくお願いいたします。

市民B

(個人名)と申します。竹中さんに技術的な話をお伺いしたいんですが、これからどれだけの技術者、熟練した職人さんを確保して2022年までに可能ですか。先だって熊本のお城を見に行ったときに、地元のボランティアの人から案内を受け石垣の修復の話を聞いてきたんです。簡単じゃなかったんです。年数がかかるんです。職人さんもないという話でした。名古屋城でそれをおやりになるのに、どれだけの職人さんを確保ができるか。色んな神社仏閣の修復でも、相当な年数とそれだけの職人さんを必要としているはずなので、今後何年間で職人さんを集めて、新しくできる可能性は本当にあるんですか。職人さんの件をお尋ねしたい。それともう1つ、地震に対するシミュレーションは終わっていますか。この話は全然今の映像の中では触れられてなかったと思いますし、皆さんが中に見学にみえて、いざ地震が起きたときに、どれだけの状態になるかというのも、やはり我々にきちんと説明していただかなければ、名古屋城が市民の誇りだとは言えないように思いますので、その2点について教えてください。

司会

ありがとうございました。竹中工務店さんにご質問ですけど、どれだけの職人さんを確保できるのか、目標の年次までに完成が可能かどうか、地震のシミュレーションは終えているのか、という質問でした。

竹中工務店

建設における職人ですが、現状色んな施工条件に合わせて全国から集めて対応していきたいと考えております。石垣については最終的にどのような形で修復するのか決まっていないので、その形が決まった段階で手分けをしていきたいと思っております。木造につきましては、提案書でも書いておりますけれども、伝統的な宮大工の力と、私どもが持ってます最新の施工技術を合わせて生産をすることによって、工程的な満足をしたいと考えております。

(会場より)

不誠実ではないか。

司会

ちょっと待ってください。答えてから。地震について回答お願いいたします。

竹中工務店

木造加工につきましては、シミュレーションを進めております。ただし、それはある前提条件を持って行っております。それは天守台におけるボーリング調査を実施できていないという状況ですので、想定した地震で木造加工についてシミュレーションを行っているという状況です。

(会場より)

それはマグニチュードいくつを想定しているのか。

司会

色々意見はあると思いますが、お待ちください。

竹中工務店

南海トラフ地震を想定して検討しております。マグニチュード7から8というところであります。

(会場より)

震度ではいくつなのか。

竹中工務店

震度ではまた別の話になってきますが、6強から7にかけての地震度になると。

(会場より)

震度7では行っていないのか。

竹中工務店

地震度については、地震度の加速度で来ますので、それが震度に換算した時に6から7となるという話になりますので、震度いくつというシミュレーションは行っていません。

(会場より)

何でやってないんだ。

司会

震度7という設定でのシミュレーションではないということですね。

竹中工務店

建築基準法そのものについても、地震力については震度いくつという設定ではありません。

(会場より)

現行の建築基準法の基準でやってみえるんですか。

司会

すいません。それを最後にしてください。他の人も意見あると思いますんで。

竹中工務店

現行の基準レベルということですか。それはまず中小地震に対して被害が起こらないということです。

(会場より)

回答になっていない。現行の建築基準法に適合する解析が行えていますか。

竹中工務店

解析は行っております。

司会

不規則発言はやめてください。

(会場より)

回答になってないじゃないか。

司会

順番にいきます。その時また質問してください。その時当てますから。当てられるかどうかは分かりませんが、順番にいきますので待ってください。不規則発言がバンバン出たら、それこそ収集つかないじゃないですか。

(会場より)

回答しないからじゃないか。

司会

それはそういう回答の仕方ということです、今の部分は。では、続いてまだ発言されていない方お願いいたします。マイクをお持ちします。

市民C

瑞穂区の(個人名)というのですが、今日初めてお邪魔したんです。逆に質問者がすごく高い話をされるのすごく感心しています。私は、名古屋市と竹中工務店さんが契約された以上、そんなに無責任なものを造るとは思えない、市民感覚で。だからそれをイチイチ、ここがどうだと言っている前にも進みませんよ。私はそう思う。それを決めたのであれば、堂々と河村市長は木造復元だともう一歩二歩三歩進めてください。私はそう思います。極端なことを言いますが、これは誤解されてはいけないのであれですが、完全に復元と言っても、じゃあ昔お城って一般人が入れてたかっていう話になってしまう。お城って一般人入れないですよ。今の復元の技術を以てすれば、そんな質問に対してね、あっちがこうだって言われても誰も答えづらい。僕もその1人です。それが普通の市民の感覚だと思う。それを長けている人がこの場で竹中さんどうなんですか、市長どうなんですかと言えるけど、多くの市民はそうじゃないと思う。これは意見ではなく、申し訳ないけど感想です。質問にはなってないけど、こういう意見もあると聞いてください。お願いします。

司会

では他に。では後ろの方。

市民D

申し訳ありませんが腰を痛めておりますので座ったままで。河村たかし市長さん、竹中工務店さん誠にありがとうございます。感謝しております。名古屋城は世界に誇るお城です。空襲で燃える前から世界一ですよ。熊本城にも、松本城にも負けない、立派なお城です。名古屋城をお造りになった過去の武将、私は知りません、木材といたしましてはヒノキを中心にしたそうです。立派な松を献上していただいた皆様にも感謝いたします。これは、色々と理屈を言ったらキリがない。前向きに善意に解釈する。すべてポジティブであると。ネガティブではない、マイナス思考ではなくてね。エレベーターでも、私前に河村たかし市長に申し上げたんですけど、エレベーターは様になりません、不可です。むしろエスカレーターをベターな形で、お城の中に、木に合うように、金属ですがメタリックを出さずに、印刷を貼るなどして健常者も障害者も共に気持ちよく利用できるということであれば、色んな施工があると思います。最終的には上まで昇りつけるとなると、エスカレーターがベターではないかと、以前河村たかし市長に申し上げました。ですから、この辺のところも竹中工務店さんの力量によって完全に克服できます。日本の竹中工務店、清水建設、これはどこにも世界にも負けません。

司会

すみません、そろそろ。

市民D

いずれリニアも名古屋を通る、名古屋が中心になる。その辺のところを検討していただいて、最終的にはエスカレーターを健常者も含めて、エスカレーターを1つ、優しく、木造に合うような形で以てね、木目を貼ってあるような形で、皆さんにご利用いただきたい。まだありますがここで終わります。

司会

ありがとうございます。ご意見でしたが、世界一誇れる城を造る、最上階まで昇れるように、エレベーターじゃなくてエスカレーター木造のようなエスカレーターをとのことでしたが。それではお願いします。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

貴重な意見ありがとうございます。木造天守閣の付加設備の方針という中では、エレベーターを設置せず、新技術により多くの皆様に天守閣を楽しんでいただきたいという方針を打ち出しております。また、新技術につきましては国内外から幅広く募集していきたいと考えておりますので、もしかすればそういったエスカレーターを製造している企業さんから提案があれば是非ご検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

司会

ありがとうございました。では続きまして、初めての方。一番奥の方。今マイクをお持ちします。

市民E

さきほどは少し不規則発言をしてすみませんでした。

司会

いえ、どうぞ。

市民E

前の方も発言されていましたが、竹中工務店さんが職人さんということで、それ相応の手当てをしますという話でしたね。私がなぜ不誠実だと言ったのかというと、去年も名古屋市のお城に関して説明会があって、会社の側だから名東区にお邪魔しました。その時も木はどういうふうに手当てするのかと聞いたら、非常に何にも答えがなかったのに、でも今大木切りしましたよね。だから、なんかあるんですよね。市民の税金使ってやってる仕事で、結構金額大きいですよ。造ってもええと先ほど意見がありましたが、私は造らんでもええと思ってるんで。そんなお金があったら他の事にお金回してもらいたいと思ってるんですけど。それでも造るとおっしゃるなら、ちゃんと市民に分かっていることを誠実にお話ししていただきたい。地震の話もありましたが、今ここで見れば熊本の益城町の震度は7、それ以上のものを造らなければ、壊れること前提で造るんですか。もう一度誠実に、質問にきちんと答えてください。私は東区に住んでいるので久屋大通の時に凝りてます。何にも名古屋市のまちづくりの人は説明をしない。業界業者も何も言わない。限定して30人しか見学会に入れない。何にも公開してないじゃないですか。にも関わらず、私たちのお金を使っているじゃないですか。だから色んな意見言いますけど、不誠実なら不誠実で、市民の中でもお城できたら良いという人は段々減ってっちゃう。それはもったいないと思います。ちゃんと答えてください。

司会

ありがとうございます。まず職人について具体的な内容について、現時点でどうなっているんでしょうか。誠実に答えてほしいとの要望がございましたがいかがでしょうか。

竹中工務店

すみません、誠実に答えるとしますとですね、現時点では名古屋市様とは木材の調達部分についてのみ契約をさせていただいてますので、そういう中で木材については現状、お約束した部分について5割以上の材料を集めて各業者さんが荒製材をして、それを弊社で検品をしている状態になります。それ以外については、まだ契約をさせていただいておりませんので、そういう状態なので、具体的な話はここでは差し控えさせていただきます。

司会

はい、ということで現状はそういった状態であるということでした。

(会場より)

何にもないわけではない、あてはあるのか。

司会

それで最後にしますね。それでは何かあてはあるのでしょうか。

竹中工務店

あてはありますが、ここで具体的にお話しする状態ではない、まだ契約してないからです。

司会

では初めての方優先します。マイクをお持ちします。

市民F

私はネガティブなことを聞きますけど、それは名古屋城を愛しているからです。前の名古屋城もそうですし、今の名古屋城もそうです。数字に関して聞きます、1つは竹中さん、1つは名古屋市の担当者、数字ですので市長さんはいいです。いつもよく話聞いているから。400 年前に造られた立派な西南隅櫓が公開されてますけれども、びっくりしたのは収容人数は全体で45名、3階の一番上のところはスタッフを含めて9名、随分待たされる。定員9名の理由は、中消防署に聞いたら、消防法の規定から3階建て以上の木造建築で階段が1つしかない場合は、10名以上入場するときは避難器具が必要だと。設置が難しいから9名制限にしたと、そういう回答をいただきました。計画中の木造建築は地下1階地上5階ですね。5階に上がる階段は1つだけ、普通に考えて3階より5階の方が危険に決まってますね。竹中さんに聞きます。現在の計画では5階に一度に上がれる人数は最大何人ですか。当然そのことは押えていますよね。またその時の法的根拠は何ですか。避難器具はどこに付けるんですか。去年7月の天守閣部会における資料では、1時間に2500人の来場者で、在館者密度が最上階は136人と試算したとされています。スタッフも含めて入場制限の計画があるのかも含めて教えてください。次に、名古屋市の担当者に質問。1日1時間当たりの平均入場者数、最大入場者数をどのくらいと見込んでいますか。その場合、入場料収入と収支計画がどうなるのか教えてください。ちょっと難しいことかもしれませんが、当然押さえていると思います。

司会

すいません、そろそろ。

市民F

はい。私が何でもこういう質問するかというと、このでっかい名古屋城、木造天守、危険な違法建築だと思います。ここに不特定多数の人を入れる。各階平均500人入れる、非常用エレベーターも避難階段もない。火事が起きたら逃げ場ないですよ。あの狭くて急な階段に人が殺到したら大事故になる。そういうこ

とを心配している。ネガティブかもしれないけれども、そういうこと、お答えください。

司会

それでは竹中さんから行きましょうか。今回の城、最上階5階に最大何人入る計算になっているのか、法的根拠等いかがでしょうか。市の方には、1日の平均入場者数、最大入場者数どれくらいを想定しているのか、分かりますでしょうか。

竹中工務店

今の質問でございますが、確かに5階建ての大規模な木造建築ということで、当然建築基準法の適用除外を受けるという説明はプレゼンテーションの中でもあったかと思います。そういった中で、日本で初めてこういったところでの避難安全をどういうふうに解決していくかということ、日本を代表する避難安全検証に関する有識者の先生から、こういった避難時間の中で、全員が安全に避難できる、中には燃えぐさは極力いれない、消防設備としてのスプリンクラー、屋内消火栓、やはりそういったものをパッケージにした上で、安全かどうか確認していただいております。人数につきましては、概ね時間当たり2500人を想定して、仮に火災が起こった時にも今2本ある階段の中にも防衛区画を設けて、その階段を使って下に避難していただく、かつですね消防隊の方が避難に駆け付ける際には、弱者や体の弱い人は階段の区画の中に退避していただき、速やかに消防隊が救出をします。実際に火災が起こった時に、煙が建物の中にどういう形で充満していくかというシミュレーションもさせていただいて、そういった諸々の検証を有識者の先生方と共有した上で、今の安全性は確保しているという方向性で最終的には認定をとるという形になります。やはりこれは、今までの日本の建築基準法、消防法で整備ができないジャンルの建物になりますから、先生方と協議を積み重ねながら実施していくということでございます。そして5階の人数ですが、おっしゃる通り階段は1本ですので、人数制限というソフト面の対応したうえで避難を整理していこうという考えです。確かその時の人数ですが、若干記憶が飛んでいる部分もありますが、概ね100人程度で先生方と話をさせていただいている状況です。今回の名古屋城は平面的に大きな建物ですから、収容人数も多いんですけど、いかに避難時、非常時に速やかに逃げれるかというのを具体的なシミュレーションをさせていただいたうえで整備をしていくということです。

(会場より)

根拠法は。

竹中工務店

それは建築センターから防災関連の先生方が招集されて、中身について検討していただき、現行の消防法、建築基準法以上の性能を有していると判断していただきオッケーをいただいていると。避難器具についても、避難器具のためのスプリンクラープラス屋内消火栓という、これは消防法以上のものを設置することによって、そういった避難器具の減免をしていこうということで協議をさせていただいております。

司会

それでは市の方はどうでしょうか。

荒井名古屋城総合事務所主幹

今竹中工務店さんの方から説明もありましたように、防災の関係の評定を取るというようなことで進めている中で、今の我々が計画しています木造復元の中にですね、1時間当たり最大2500人の方が入ると前提で、避難関連の検討をしているところでございます。ですので、1日当たり約2万人を最大と想定としていということでございます。

(会場より)

虚偽だ。

司会

あと2、3人ということで、ここで決めさせてください。不規則発言が多いですよ。分かりました。簡潔にお願いしますね。今挙手されている3人でいきましょう。

市民F

まずねえ、虚偽は言いなさんな。いいですか、有識者が建築審査会とか消防の査定をするにしたって、別に有識者が領けばオッケーというもんでもないんですよ。必ず、そこには法的根拠が必要なんだ。あなたは今法的根拠を答えていないじゃないか。およそ100人、そんないい加減な話はない。虚偽が多い。あなたさっき、こちらの方が石垣が危険だと言われた。今石垣部会から、現に今の石垣に空洞があるという報告を受けてますよね。受けてますよね。それをなぜ説明しないんですか。もうすでに現状で石垣には空洞がありますね。で、あなた今、工学的に石垣を解析すると言われましたね。いいですか、石垣を工学的に解析する方法ってどのような方法なんですか。無いです、そんなのは。石垣を工学的に安全だと言える方法は工学的にはありません。あるようなことを言うのは嘘です。でね、私入ってきてこの表を見ました。入場者推計の表を見ました。いいかい、この入場者推計も嘘っぱちだ。この入場者推計は人口について国立社会保障人口問題研究所の全国の人口の将来推計結果というのを根拠にしています。その人口推計データの最終の年月日は平成77年、2065年までしかその国立社会保障人口問題研究所では人口推計を出していないんです。ところがこの数字何ですか、平成77年以降もこういうふうに入場者数がありますよと書いてあります。一体何が根拠なんですか。

(会場より)

根拠、根拠って何が言いたいんだ。

司会

ちょっと待ってください。

市民F

この人口推計は、平成 77 年には日本の人口は約 60%に減るとなっているのに、なぜ入場者数推計が変わらないんですか。

司会

そろそろまとめてください。

市民F

要するに、この説明会は嘘ばっかしなんだ。

司会

会場の皆さん静かにしてください。それでは、100 人という法的根拠は何か、石垣の工学的解析はないんじゃないか、入場者推計について 2065 年以降は根拠はないんじゃないか、ということでしたがいかがでしょうか。

竹中工務店

建物の中で、建築基準法、消防法で全て評価できないようなものがあるという説明をさせていただきました。その中で、法律で避難安全検証、いわゆる防災評定を取れば、そしてそこで建築センターの評定を受けて大臣認定取れば、現行の建築基準法と同等以上ということですね許可がいただけるというルールがございます。そういうルールに則って、今は法的な根拠の整理をしているという状況でございます。

荒井名古屋城総合事務所主幹

ご質問ありがとうございます。今現在、石垣の調査と解析を進めております。今お話にありましたように、石垣の裏側に空洞があるんじゃないかと、今お話がありましたが、今現在、我々が把握しているところでは大きな空隙は無いんじゃないか、というようなことで考えております。あと、工学的な解析というものについては、安定性の検証は当然しますけど、安全確保という面で何らかの処置をしなければならないと当然我々も考えておりますので、その対策を練っていきたいと思います。

(会場より)

工学的な解析はない。

司会

ちょっと待ってください。待ちなさい。進まんじゃないですか。

荒井名古屋城総合事務所主幹

工学的解析というのは、今お話がありましたように。今の石垣を正確に解析するというのは…

(会場より)

誰の立てた、どういう解析なのかという根拠を聞いている。

荒井名古屋城総合事務所主幹

解析の方法というのは、日本全国で有識者の方々がやっておられるような解析が現実にはあるんですけど、それがモデル、ある仮定の下で解析をするものでありまして、今の石垣を、石垣は石と石を組み合わせたものでありますので、正確にその状態が安定安全なのかという解析は現実には難しい。おっしゃる通りありません。それをあるモデルを、仮定の下です、解析するというやり方で、相対的な判断はできるというふうに聞いておりますので、そういった方法を使いながら、有識者の先生からご意見いただきながらやっていきたいと考えております。

(会場より)

ないんでしょ。ないんだろ。

司会

続いて、入場者数の推計はいかがでしょうか。

(会場より)

コーディネーターが失礼だ。

司会

そちらが失礼ではないですか。皆が意見を言えないではないですか。それでは最後に入場者数見込みについてお願いします。

服部名古屋城総合事務所主幹

入場者数見込みでございますが、確かに人口減少の傾向はございます。ベースになるデータが無いということもございますが、ある時点までのトレンドをとった部分と、それ以外の部分で社会情勢の変化、例えば経済成長率、外国人観光客の増加、名古屋城の訪問意向のアンケートを関東、関西、中部でとっております。来場者の意向ということも係数に入れながら測定したものであります。

(会場より)

事実関係を確認したいんだ。国立社会保障人口問題研究所では人口推計は平成 77 年までだね。

服部名古屋城総合事務所主幹

おっしゃるとおりでございます。

司会

では次の方。

市民 G

ちょっと風邪で声が出ませんが、時間が無いので端的にご質問しますが、1 点は今回の御殿が寛永期のものであったと、それから城は宝暦のものであると、城は宝暦のモデルで造ろうとしてますよね。御殿の方は寛永で造ってますよね。ここのずれがあると去年も話があったかと思いますが、この辺の整合性はどうかお考えなのか、これは市の方かな。もう 1 点は、今の話にもありましたが、一日 2 万人の入場者で採算が取れるのか、最大 2 万人しか入らなくて成り立つのか。もう 1 点は、今回上物の再建をしてるわけですよね、基本のケーソンの上に建ててるわけですよね。これは竹中さんに聞いた方が良いのかな。こういうケーソンの上に建ててるものを再現と言っていいものなのかと。当然石垣の上に建ってなきゃいけないというのが普通だと思うんですけど、元々の構造が復元ではないんじゃないかと思うわけですけど、この辺りはどう考えられているのか。この 3 点をお願いします。

司会

1 つ目が御殿は寛永、天守は宝暦時代で時代的な整合性はどうか、2 つ目は事業採算について、最大入場者数 2 万人で採算が取れるのか、3 つ目は構造として基礎としてのケーソンの上に建てることは復元と言えるのか、という 3 点でした。

西野名古屋城総合事務所長

ご質問いただきありがとうございます。ご指摘の通り、本丸御殿については寛延期、天守は宝暦期のもので検討しているということでございます。名古屋城の整備にあたりまして、やはり江戸期の風致をここで皆さんに味わっていただきたいと、そういうふうを考えております。そういう中で、やはり史実に忠実に整備していくにあたって、史実が良く分かる、ですからそういう意味で、天守は宝暦前はなかなか分かりにくいところがありますので、宝暦以降の史実が良く分かる時代にしようということで、有識者の方々のご意見をお聞きして、今そういう方針で進めているところです。本丸御殿につきましては、造る際に有識者の方にご検討いただいた上で寛延期のものが適しているということで行っておりますので、確かに名古屋城全体の統一はなかなか図りにくいところではございますけれど、1 つ 1 つ有識者にあたりながら時代の設定はしてまいりたいと考えているところでございます。それから入場者について、3 ページに

お示しした入場者の推計でございますと、多いときに452万人、その後360万人程度で推移するというところでございます。名古屋城はオープン後、361日条例上オープンしておりますので、一日2万人入っていただくと700万人になりますので、もちろん多い日ばかりではないと思っておりますが、私どもの収支はこういった中で対応できると考えております。

竹中工務店

確かにですね、ご指摘の様に、元々の名古屋城の木造天守というのは石垣に荷重が掛かっておりました。現RCの天守は石垣に全く荷重が掛かっていないという状態で、ではどのような形で今回、復元案を作っていくかという整理でございますが、本日の説明の中でもございましたが、現代的な技術、そういったものを取り込みながら、いかに史実に忠実な復元を目指すかということで、我々是有識者の先生からご意見をいただきながら整理をしております。ただし、最終的な復元案として許認可いただけるというのは文化庁さんのジャッジメントになると思います。我々としては、認定がいただけるように今設計を進めているということでございます。

司会

時間が迫ってまいりました。簡潔にすいませんがお願いいたします。

市民H

瑞穂区の（個人名）でございます。質問というよりも、名古屋城の木造復元をなんとか早くやっていたきたいという気持ちで感想や意見を述べさせていただきます。色々あります。でもお城というのは基本的には昇りにくいですよ。まして家の親父は障害者でしてね、そんな人が昇ったら大変ですよ。でもなんとかそういう人に昇ってもらって、しかもかつては戦前は名古屋の市民の誇りだと、今でも誇りかもしれない。ただ鉄筋だからインチキかもしれない。現代においてかつて国宝と呼ばれたものを再度復元するんだと、これは入場者数が何人だとかそんな以前の問題として、日本のレガシーなんだと、僕はそういう観点で見ていきたいんで、1つですね皆さんもそういう目で見て、この名古屋城というものをね、市長が無理やりかもしれないけど推し進めとるのはね、それは私もヒシヒシと感じますよ。本当に取り留めのない話ですけど、1つだけ言っておくと、エスカレーターというのはなかなか難しいです。もしやるとなれば、すぐにはできないかもしれないけどゴンドラで上げるなど、天守閣自体に傷をつけたくない、触りたくないというのが私の希望です。よろしくお願いいたします。

司会

ありがとうございます。あとお一方だけ。申し訳ありませんが、一言でお願いします。

市民I

河村市長はじめ関係者の皆様、ちょっと議論は沸騰しましたがご苦労様でした。市長ねえ、文の象徴

である本丸御殿が木造で復元して、西野さん、飛躍的に入場者が増えましてですね、そして最後は武の象徴、天守閣ですね。その武の象徴たる天守閣を木造で復元する、これはすごい発想ですね。ぜひともやっていただきたいですが、未だかつてない事業ですよ。木造で忠実に復元するというのは。色んな困難があると思いますけど、ぜひとも観光都市名古屋を世界に発信するためにはですね、木造で復元することは、これ以上のことは名古屋にとってないんですよ。木造で復元して皆さんどうですか、燦然と輝く金のシャチホコ、ぜひともですね、当局の皆さんと竹中工務店さん、市長の思いを全面的にバックアップしてほしいと私は強く念願しておりますが、最後に、市長に熱意を披露してもらえませんか。

司会

ありがとうございました。多くの方にご質問いただきありがとうございました。ちょっと司会進行を手間取りまして6分ほどオーバーしました。本当に皆、こういった機会でありますから、賛成であろうが反対であろうが、気持ちよく質疑応答ができる環境を作って行きたいと思っております。色々意見はあると思いますが、その辺のところ今後ともご協力お願いいたします。

閉会の時間が来ましたので、熱意も含めて最後に河村市長ご挨拶をお願いいたします。

河村名古屋市長

ありがとうございます。熱意と言いますか、この今の時代を生きとるわけでしょ私たちは。となるとなんかそれは今の時代で終わるだけなのか、後世に引き継ぐべきなのか、引き継ぐべきではないのか、そんなことはええと、どう考えるかだと思いますよ僕は。かつて国宝一号だったわけでしょ。そういうお城が、尾張名古屋の人の生活は苦しかったと思うけど。しかしまあ、当時は高い建物はありませんから、上に金のシャチホコがあるのを見て誇りに思ったわけですよ。江戸時代には名古屋城しかないですから、でかい建物は。いうことであったとしたら、図面をたまたま残しとってくれたわけですよ。世界で名古屋城しかない。それを復興させて、もう1回、1000年、2000年と自分たちの子供たちに引き継いでいくと。たまに雑巾がけなんか行ってね。そういうのが今を生きる僕たちの使命ではないかと、任務ではないかと僕は思っております。まあ熱い思いかどうかは分かりませんが、ご指名がありましたので。まあ今日はようおいでいただきましてサンキューベリーマッチ。

司会

以上を持ちまして「名古屋城天守閣木造復元 市民説明会」を終了いたします。アンケート用紙は出口で回収しております。また、他にご質問がある場合はアンケート用紙にご記入ください。お車でご来場の方にご案内いたします。当施設は駐車場出口のゲートでは精算ができません。お帰りの際は劇場事務室にお立ち寄りください。劇場事務室で利用証書を受けた上で、入口の精算機で精算が必要です。また、回数券をお持ちの方や、障害者手帳等をお持ちで減免手続きを受けられる方も、劇場事務室にてお手続きをお願いいたします。本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございました。お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りくださいませ。

(4) 説明会（会場：緑文化小劇場）の記録

① 開会

司会

お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を開会いたします。私は、本日の司会進行を務めます、名古屋学院大学現代社会学部の教授をしております井澤知旦と申します。どうかよろしくお願いいたします。

はじめに、本日の市民向け説明会の進行について、ご説明いたします。まず、名古屋市及び株式会社竹中工務店より名古屋城天守閣木造復元事業の状況について説明を行い、その後、会場の皆様からご質問などをお伺いしたいと思います。ご質問のお時間には限りがございますので、進行にご協力の程よろしくお願い申し上げます。説明会の終了は午後8時となっております。

次に、本日お配りした資料についてご案内をいたします。受付で本日の資料、アンケート用紙をお配りしております。説明内容はスクリーンで映写いたしますが、お手元の資料でもご確認いただけます。また、アンケート用紙につきましては、お帰りの際に出口で回収させていただきます。なお、報道機関による取材が入っているほか、記録写真の撮影を行っておりますのでご了承くださいますようお願いいたします。

それでは、はじめに開会にあたりまして、名古屋市長河村たかしより、一言ご挨拶を申し上げます。よろしく申し上げます。

河村名古屋市長

はい、それでは、ようおいでいただきまして、ありがとうございます。サンキューベリーマッチ。色々なご意見があるかと思いますが、遠慮せずどんどん発言していただければと思います。

始めに言うておきますけれども、元々お城の話が出たのは、今の天守の耐震強度が数字で出ていますけれども、Is 値が 0.14 と恐ろしく低い数値だった。これを耐震補強するか、または木造で復元するか、どっちかせなあかと、これだいが前からそういう話になってまして名古屋の場合は、市長選もありまして、議会でも通りまして、木造復元をしていこうとなったわけです。文化庁にも4年程行っていますが、丁寧が上にも丁寧に説明してまいりました。皆さんご承知のように、国宝第一号だったと名古屋城は、第二号が姫路城。NHKの番組である大学の先生が言っていましたが、法隆寺が木造建築として1300年残っている。実は法隆寺は1回燃えとるといふ説があります。法隆寺以降、名古屋城は木造建築物の究極の到達点だといふ話でございます。色々なご意見をたまわればと思います。今日はようおいでいただきまして、サンキューベリーマッチ。

② 名古屋市からの説明

司会

ありがとうございました。それでは、名古屋城総合事務所所長西野より名古屋城天守閣木造復元事業に関し説明させていただきます。お願いいたします。

西野名古屋城総合事務所長

ただ今ご紹介いただきました、名古屋城総合事務所所長の西野でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。ただ今から、スライドをご覧くださいながら、名古屋城天守閣の整備の概要や進捗状況につきまして説明をさせていただきたいと存じます。30分程度になりますが、よろしくお願いいたします。

まず、これまでの経緯でございますけれども、この表にございますように、平成27年12月に、天守閣整備事業における事業者を公募型プロポーザルという形で募集をいたしました。翌年の平成28年3月に優先交渉権者として竹中工務店さんを決定いたしました。その後、議会におきまして天守閣木造復元の基本設計、その他の予算についてご審議を約1年いただきまして、天守閣木造復元の事業を進めていくことになったわけです。それで平成29年5月に株式会社竹中工務店と基本協定及び基本設計等業務契約を締結いたしました。引き続きまして、7月には、天守台石垣の調査を開始いたしました。また、天守閣木造復元の寄附、金シャチ募金と名付けましたが、そちらを開始しました。昨年末でおよそ1年半経ちましたけれども、市民の皆様をはじめ多くの方々からご協力をいただきまして、3億2千万円弱の寄附をいただいたところです。平成30年度に入りまして、昨年4月には実施設計業務の契約締結を行っております。5月には木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針を発表いたしました。同年7月には、主要な構造部材となる木材の手配・製材をする契約を締結いたしております。計画では、昨年10月に文化庁文化審議会に諮問していただいて、11月には事業を進めるための現状変更許可、ここは史跡ですので文化庁の許可が必要で、それを取得するということになっておりましたけれども、現在、有識者の方から天守台石垣の保存に対する対応が不十分だというふうに言われておりますので、10月の諮問には至らなかった、という状況でございます。

基本設計その他業務につきましては、ここに書いているように大きく4つの項目の業務がございます。基本設計業務では、史資料に基づく天守の姿の作成、すなわち通し柱の位置や木材の樹種、仕口・継手や屋根、壁の仕様などの検討を行いました。また、防災避難や構造解析、付加設備について検討も行いました。続きまして、法的手続き書類作成業務ですけれども、復元するために必要な文化庁の現状変更許可を取得するために必要な書類の作成、消防法の手続きに必要な書類作成を行っております。その他設計業務としまして、天守閣復元のために必要な仮設建築物の設計図の作成を行いました。その他の調査業務としまして、史実の調査、ボーリング等の地盤調査、天守台の石垣調査や発掘調査を行っております。

そして、昨年4月に契約しました実施設計業務ですけれども、大きく分けて2つですが、設計業務は天守閣復元のために必要な設計図の作成、構造解析、現状変更許可を始めとする法的手続きに必要な書類の作成、積算業務などとなっております。調査業務としましては、史実調査や現天守閣記憶伝承調査、地盤調査などを行っております。

今年度実施いたしました有識者会議につきましては、ご覧のとおり天守閣部会を5回、石垣部会を3回開催しまして、このような内容でご審議いただいております。有識者の方々からご意見を伺いながら実施設計や石垣調査を進めているところでございます。

それから入場者数の推計ですけれども、こちらにつきましては昨年度実施いたしまして推計を出しております。この調査では、平成28年度の入場者数実績が192万人、これを基にいたしまして名古屋城への訪

問意向のアンケートですとか、リニア開業などの社会情勢の影響を踏まえ入場者数を推計しています。名古屋城内において、来場者魅力が上昇するイベントなどの開催効果を見込んだ高位シナリオ、それによりますと2022年の木造復元直後の2023年に422万人を見込んでおります。その後、入場者数は減少いたしますけれども、リニアの開業効果、リニアが全線開通することで増加します。その後微減傾向となりますけれども2071年まで346万人前後で推移すると、そういうふうに見込んでいますところでございます。

天守閣木造復元の基本的な考え方ですけれども、本事業は歴史時代の建築物等の遺跡に基づき、当時の規模・構造等により再現する歴史的建造物の復元という様なものになります。そして名古屋城の天守閣は法隆寺の頃から始まった日本の木造建築物の1つの到達点、究極の木造建築物とも言われてまして、豊富な歴史資料をもとに外観の再現にとどまらない、史実に忠実に完全な復元を行おうというものでございます。また、市民の皆様方には「一旦焼失しているので復元しても本物の天守ではない」と、そういったご意見もお聞きしますけれども、市民の精神的支柱であり誇りである名古屋城天守閣を、悲しい歴史的事実を経て昭和実測図や金城温古録という豊富な歴史資料に基づいて、戦災で焼失する前の本物の姿に復元し、世界に広く発信していく、そういう大変意義の大きい事業だというふうに考えているところでございます。

それから復元案の検討ですけれども、史実に忠実な復元を行うために昭和実測図ですとか金城温古録、古写真、そういった歴史資料が名古屋城には豊富に残されております。これらが復元の根拠となる重要な資料、これを紐解いて検討を進めております。主な検討項目としまして、通し柱の位置、柱や梁の樹種、屋根や壁の仕様、復元するための基準となる寸法、屋根の勾配や仕様、建具の配置や畳を張替えた場所などの検討も進めております。今後も引き続き、復元根拠となる資料をしっかりと検証して、史実に忠実な復元のための検討を続けてまいります。

その上で、新たに付加する現代技術でございますけれども、復元する建造物の構造、復元後の管理活用の観点から、防災上の安全性の確保が必要となります。この方針につきましては、文化庁の史跡等における歴史的建造物の復元に関する基準というのがありまして、その中で歴史的建造物の基準として定められておりまして、言い換えますとこれに従わなければ復元することはできない。ということで、こちらに挙げておりますように構造補強、防災避難設備等、バリアフリー、こういった観点で付加的な現代技術の導入を考えているところでございます。

それから、昨年5月に木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針を発表いたしております。この中では、エレベーターの設置につきましては、内部エレベーターは柱、梁などの主要な構造材を切断しない場合、小型のエレベーターしか設置できず、通常の車いすや電動車いすが利用できないということから、設置をしないこととしております。また、外部エレベーターにつきましては、都市景観条例で優れた都市景観の形成を進めている中で、景観計画により名古屋城の眺望景観の保全を図るとしてありますので、設置しないことにしております。この方針の中では、史実に忠実な復元するためエレベーターを設置せず、新技術の開発などを通してバリアフリーに最善の努力をするということとしております。また、可能な限り上層階まで昇ることができるよう目指し、現状よりも天守閣の素晴らしさや眺望を楽しめることを保証するというふうにしております。

その他にも、新技術の開発には、国内外から幅広く提案を募る。協議会を新たに設置し、障害者団体等

当事者の意見を丁寧に聞くことにより、誰もが利用できる付加設備の開発を行うことなどを掲げております。

この方針を公表した後の動きとして、まず新技術につきまして、昨年の7月24日と11月15日の2回にわたり、企業が現在保有している、新技術につながる技術につきまして直接説明をしていただく説明会を開催いたしました。また、後ほど公募について説明しますが、公募スキームの案を検討することを行っております。この公募スキーム案につきましては、昨年12月末に特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議を行いまして、各方面の有識者の皆様から様々なご意見をいただきました。そういったご意見を踏まえて公募条件を定めて、来年度のできる限り早い段階から公募を始めていけるよう準備をしているところでございます。

また、先ほど申しました説明会での主な意見といたしましてここに挙げさせていただいております。障害には様々なものがあり全ての人が安心安全に昇れるようにしてほしい、現時点ではエレベーター抜きではバリアフリーとは言えないのではないか、など昇降技術に課題について様々な意見をいただいております。

また、昇降に関する関係法令といたしまして、障害者差別解消法がございます。この法律では、環境の整備は努力義務であり、合理的配慮は義務というふうになっております。建築物に昇降設備を設置することは、環境の整備にあたり努力義務となっております。私どもとしましては、天守閣の木造復元では新技術により昇降に関する環境の整備を行い、その上で実施に伴う負担が過重でない範囲において、必要かつ合理的な配慮により障害者の方にも楽しんでいただく、そういうふうを考えているところでございます。

先ほど申しました公募スキームですけれども、スケジュールにつきましては、現在2022年に天守閣の木造復元を目指しておりますので、2022年までの4年間の計画で、1年目である来年度のできる限り早い段階で公募を開始しまして、2年目から3年目に試作審査、4年目である2022年に実用化というイメージで考えております。先ほども申しましたように、これを元にさらに検討を進めまして、来年度早々の公募につなげていきたいと考えております。

それから木材の調達ですけれども、今回調達を予定しております木材の種類と本数につきましては、柱がヒノキ材で878本、梁材が松またはヒノキ材で1181本、その他大小天守の出入口部分の御門柱や冠木がケヤキ材で12本、土台がヒバまたはベイヒバで252本となっております。土台部分で外国産材のベイヒバを使用する、そういう予定がございますけれども、現在、株式会社竹中工務店からは、できるだけ国産材であるヒバとなるように調整しているというふうに聞いております。昨年の11月にテレビ等で岩手県の松材の月山松が、外国産のベイヒバを使うと考えていました最も長い梁材について、そこで使う予定をしているところでございます。また、木曽ヒノキを集めることは非常に難しいと聞いておりますけれども、名古屋城の築城では元々木曽ヒノキが使われていたという記録がございますので、できるだけ木曽ヒノキを特に主要な部分である柱に使っていくふうに調整をしていると竹中工務店から伺っているところでございます。

続きまして、天守台石垣調査の関係ですけれども、名古屋城は特別史跡でございますので、その中で天守閣整備を進めるにあたりましては、史跡の本質的価値であります天守台石垣の現在の状況を調べ、それ

を適切に保存して行くための方針、具体的にどのようなスケジュールで方針を実現していくかという計画を立案・策定していく必要がございます。本市では、平成29年度からそういった目的で天守台石垣について各種の調査を行ってきております。平成29年度には歴史的な資料を調べる史実調査、根石と呼んでいる石垣の一番下の基礎の部分の状況を調べる発掘調査、測量調査を行っております。今年度もそれに引き続き、発掘調査、測量調査、足場をかけて石垣の石の状況を調べ、石垣のカルテを作成する現況調査、さらに石垣の裏の状態を調べるためにレーダーによる探査や、石垣の間にビデオスコープを入れて中の様子を調べる、そういう調査を行っております。

今ご覧いただいている左側の写真でございますが、これは小天守台の南側の写真でして、写真中央の深く掘り下げているところに見えている石がおそらく石垣の最も下の基礎になる根石だというふうに考えられております。これは天守が創建された慶長時代に整調された石だと思われませんが、当時の位置を保っており変化はしていないというふうに判断しています。また右側の写真ですけれども、小天守の西側で行った発掘調査の様子です。少し掘り下げたところで石垣の前面に小さな石が敷き詰められたような状況が確認されております。この遺構がなぜ築かれたかは今後検討してまいりますけれども、江戸時代を通じて天守台石垣が管理されて手を加えられていた、そういうことが分かる遺構だと思います。

石垣カルテの作成ということで、人間のカルテと同様に石垣の各面の状態、石垣を構成するそれぞれの石の状態を調べて表したものでございます。今ご覧いただいております天守台北側の面の石垣カルテですけれども、上の方に積み直しライン（昭和期）と書かれた赤い線がありますけれども、これは現在の天守閣を造る時に石垣を積み替えたと思われる範囲を示しております。また中央の下の方に赤い網をかけた部分がありますけれども、石垣が前面に大きく膨らんでいる範囲でございます。非常に天守台石垣の中では変状の度合いが大きい部分でございますので、石垣を保存していく上での対処方法を検討していく必要がある、というふうに特に考えている部分でございます。

それから天守台石垣の背面の調査についての調査も行っております。上の方に示しておりますのが西面と北面をレーダーで探査した結果でございます。右側が北面でございます。北面は大きく孕み出した部分がありますけれども、背面の方は他の部分と同様な様子になっております。背面は他の部分と違うと判断できない状況ですので、今後さらにデータを分析して孕み出しの状態や原因などを検討していくこととしております。それから下の方は、石の間にビデオスコープを差し込んで石垣の裏側を映した写真です。石垣の現況を調べるためには裏側の状況もよく調べる必要があり、そういう状況でございます。

昨年には天守台石垣の保存と安全対策の取りまとめを行っております。これは、今までの調査の成果を取りまとめて、天守台石垣の保存のための方針、そしてそれを実現していくためのスケジュールなどを盛り込んだものとして作成しています。特に問題例として、3点、昭和の現天守閣建築時などに大規模な手が加えられていること、戦時中、天守閣が焼失した際に石垣も火を受けておりその石が劣化していること、大天守北側に顕著な孕み出しが見られること、この3点を問題点として把握しております。それに対応するための保存・修復の方針、それに従った手順などを整理したところです。

そして天守閣整備の基本計画書の中に、この取りまとめた方針を盛り込んで文化庁に提出していこうと考えておりましたが、それに先立ちまして、有識者の方にお諮りしたところ、調査がまだ十分に行われて

いない、内容が不十分だということで、文化庁への提出は断念したところです。その後、9月の段階でもう一度打合せを行いましたけれども、了解は得られておりませんので、現在のところ、文化庁の文化審議会に諮問されていないという状況でございます。石垣部会から、今後文化財石垣保存技術協議会に相談して保存方針等を再検討するようという提案をいただいておりますので、そういう助言をいただきながら石垣の保全についての再検討を進めている、そういうところでございます。

今後の進め方ですが、石垣保存方針につきましては、今申しましたように適切な助言をいただきながら調査研究方法を再検討し、石垣保存の方針について検討してまいります。それから文化庁に提出する基本計画書ですが、具体的な天守台石垣の保存のための検討を石垣部会に諮り、石垣保存に対する了解を得て、文化庁に提出してまいりたいと考えております。木造天守閣の竣工として、文化庁の技術的な助言をさらに受けながら、現状変更許可の見通しを立てるとともに、優先交渉権者と協議し、2022年12月木造天守閣竣工を守れるよう努力してまいりたいと考えております。そのためにも、できるだけ早く文化庁から天守閣木造復元のための現状変更許可を取得できるよう努めてまいりたいと考えております。

最後に、名古屋城の現状について少しお話しします。昨年5月に現在の天守閣が耐震性が低いということで入場を禁止しております。しかし、翌月6月には本丸御殿の完成公開を行っておりまして、また11月には西南隅櫓の常時公開を始めておりますので、天守には入れませんが、それ以外でも十分名古屋城を感じていただける。それ以外にも名勝二之丸庭園、あるいは、本丸搦手馬出石垣の修復保全などにも取り組んでいるところでございます。それから皆様ご承知のとおり、昨年3月には金シャチ横丁ということで、定番の名古屋めしをはじめ気概溢れる店などが出店され、飲食面でも楽しんでいただけます。今後とも、我々としては天守閣の整備を進めていくとともに、名古屋城の魅力を高めるよう努力をしてまいりたいと考えております。皆様、どうもご清聴ありがとうございました。

③ 株式会社竹中工務店からの説明

司会

ありがとうございました。それでは引き続きまして、株式会社竹中工務店の末永より設計につきまして説明いたします。よろしくお願いいたします。

竹中工務店

竹中工務店の末永と申します。よろしくお願いいたします。

名古屋城天守閣木造復元について、現在までの進捗をトピックス的に紹介します。まずは1分20秒ほどのムービーをご覧ください。

(CGムービーを投影)

現在、設計契約と木材調達契約の一部を締結して、設計情報、木材情報を詳細に検証し整理しているところでございます。資料に遺された史実を収集し、それらの中から建築情報を掘り起こし、その建築情報を検証・特定しています。

名古屋城については豊富な資料が残っています。江戸時代後期から編集された金城温古録、昭和7年か

ら継続して実測され、戦後の昭和27年に完成した昭和実測図、昭和15年度から記念事業として撮影されたガラス乾板写真、その他の古文書を含めて史実を掘り起こしています。様々な資料を比較検証して史実を特定していく事例を紹介いたします。

小天守地階、東南側の内観写真です。扉と壁はこの写真には写っていません。昭和実測図にも土間と金蔵との境には扉や壁の姿は見られません。しかし金城温古録の御蔵之間図には、二重線で扉のようなものが描かれています。

赤く囲んだ部分が扉だと思われます。

金城温古録の御金蔵の所に「三口ある」、つまり3つ入口があったとの記述から、扉と壁があったことが分かります。開き戸の記述があり、施錠されていたことが分かります。御蔵之間図の赤線部分が御金蔵につながる引き戸の部分だと推察されます。また図には、小天守上り口にも同じく扉の表現がされています。緑線の部分です。

一方で、昭和実測図には一筋の敷居が描かれています。青線の部分です。扉の内側にさらに引き戸があったことが分かります。

ガラス乾板写真を子細に見ていきますと、御金蔵入口の柱の両側には上下3か所に金物が残されていることが分かります。この金物に開き戸が取り付けられていたと思われます。階段入口部分は、柱中ほどの高さに蝶番が残っています。ここは敷居から梁まで達する扉で厳重に閉ざされていたと思われます。

また柱内側の敷居と鴨居に溝が彫られているのが分かります。青線の部分です。扉の後ろにさらに引き戸があったことが確認できました。

扉、引き戸、壁を新たに昭和実測図に書き込むようになります。

このようにして複数の資料から掘り起こされた史実は、様々な角度から検証し特定していきます。建具の形状や材種などが分かる資料はありませんので、他城郭や名古屋城に現存する櫓などを参照し特定していきます。そして天守閣部会において有識者の先生方に確認していただきます。

次は井戸についての検証事例です。これはガラス乾板写真、大天守地階井戸です。左側の昭和実測図には井戸の記載はありません。右側の宝暦の修理後に描かれた名古屋城御天守各層間取之図には井戸が描かれています。2つの図を子細に見比べてみると、昭和実測図には井戸の穴を塞いだ跡と排水溝を塞いだ跡が描かれています。

下の図は、金城温古録にある井戸の絵2点です。左側が地階井戸の絵、右側が1階井戸の絵と思われます。昭和実測図には記載のない1階井戸は、明治以降に撤去されていたものと考えられます。私どもは、1階の井戸も設計しているところです。

このようにして検証し特定された情報は、3次元モデルとして立体的に整合性を確認します。3次元モデルでは、平面と断面の整合性が視覚的に判断できます。大天守の3次元モデルです。3次元モデルは任意の箇所でも切り取ることができます。黄色の線は3次元モデルの断面線となります。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込み、重ね合わせます。

階段のある部分で拡大して見てみますと、これは昭和実測図です。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込むと立体的に確認ができます。このようにして史実を特定して書き起こした3次元モデルの整合性を

確認しています。

昨年 11 月に名古屋城大天守で使われる最も大きな木材である松の伐採を行いました。大天守 3 階の梁に使われる長さ約 16 メートル、太さ 60 センチを超える松です。赤く色を塗った所です。

床面から約 6.5 メートルの高さにある、二部屋にまたがる丸太の梁です。

岩手県奥州市の月山神社の山にある月山松です。地元の方々が長らく大切に見守られてきた樹齢 330 年の大きな松ですが、名古屋城のためにぜひ使っていただきたい、との決心をされて地元の方々の見守る中で伐採を行いました。

史実を掘り起こし、様々な角度から検証・特定して、史実に忠実な名古屋城天守閣木造復元を目指します。ご清聴ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。

それでは、ステージを整えますので、ご来場の皆様はそのまましばらくお待ちください。

④ 質疑応答

司会

お待たせいたしました。ここからは、名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問、ご意見をいただきたいと思います。

最初に会場の皆様からのご質問にお答えする職員等をご紹介します。

まず、名古屋市長河村たかしでございます。

名古屋市観光文化交流局局長の渡邊でございます。

先ほど説明いたしました、名古屋城総合事務所所長の西野でございます。

その後ろでございますが、主幹の蜂矢でございます。主幹の荒井でございます。

主幹の村木でございます。主幹の服部でございます。

皆様から向かって右側のゾーンが株式会社竹中工務店でございます。

それでは、ただ今よりご質問を伺いたいと思います。ご発言につきましてはできるだけ多くの方からいただきたいと思いますと考えておりますので、お 1 人様 3 分で簡潔にご発言いただきますよう、ご協力の程よろしくお願いいたします。なお 2 分 30 秒くらいになりましたら私が何となくお知らせいたしますので、残りの 30 秒でまとめてもらいたいと思います。ご協力よろしくようお願いいたします。

また、手を挙げていただきますと、係の者がマイクをお持ちします。ご発言は皆様に聞こえるようにマイクを通してお願いいたします。老若男女、ホールの前後左右、バランスを考えながらご指名していきますので、よろしくお願いいたします。

最初に、これまで説明会は熱田、中、瑞穂と 3 か所で開催させていただきました。今日は緑で 4 か所目

となるため、まず最初にまだ一度も発言されてない方を優先させていただきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。それではご質問がある方、挙手をお願いします。一番最初に手が上がった方、マイクをお持ちしますので、よろしくお願いします。

市民A

座ったままでよろしいですか。私は木造天守閣が本当に実現するのかわかりませんが疑問に思っておりますので、そのあたりを確認したくてまいりました。なぜそう思ったかという理由を説明させていただきますが、資料の4ページに書いてあるんですね。天守閣木造復元の基本的な考え方の中で、黒丸の2つ目で史実に忠実な完全な復元を行うと書いてあります。さらに黒丸の3つ目で本物の姿に復元するとも書いてあります。これは河村市長の熱い思いだということが分かります。ところが、基本設計のイメージの所を見るとちょっと疑問がわいたんですね。基本設計業務というのがあります、竹中さんの方で進めていますよね、既に基本設計の費用が支払われておるわけですけども。2ページの基本設計その他業務の内容の所に黒丸の2つ目に防災、避難方針の作成というのがありますし、黒丸の4つ目に不可設備の方針の作成というのがあります。既に設計業務が済んでいますから、確定しているわけですよ。その内容は何かと新聞をずっと注意深く読んでいたら、竹中さんの技術提案書にはありました1階から4階の避難階段はなくすと、地階の避難トンネルというのがあったと思うんですけどそれも付けませんよと、方針が決まったんですね。さらにエレベーターは付けませんということですね。これらは決定事項ですか。無くすものがいっぱいあるから、新たに付けるものはないかを見ていたら、資料5ページの天守閣木造復元の基本的な考え方の中にこう書いてあるんですね。新たに付加する現代技術についての3段目にバリアフリーが書いてあるんですが、ここを読むと史実に忠実な復元の範囲内で環境の整備に努めるということで、できなくても叱られないとも見て取れるわけです。ところがその上、防災避難設備等の所を見ると頭を抱えちゃったんです。現代建築物と同程度の防火・避難性能を確保すると書いてありますね。いつか新聞報道で見たんですが、有識者会議だったか防火避難設備等は単なる確保ではなく、建設の前提条件であると確か名古屋さんは答えていたかと記憶しています。

司会

そろそろおまとめください。

市民A

これ前提条件を満たすとすればどうしたらいいかと、現代の建築物と同程度というのを何を基準にしたらいいかと考えたんです。これは現在のコンクリート天守閣と比べるのが一番いいだろう、主な対策の基準になるだろうから。今の天守閣と比べて火災に対する安全性能を同じくらいのものを木造建築で建てられるのかわかるか、一度竹中さんにも名古屋さんにも聞きたい。非常に危険なものしか造れないんじゃないかと思っております。以上です。

司会

ありがとうございました。木造天守、本当に史実に忠実に本物を実現できるのかどうか。幾つか疑問点等ございますが、それらを含めてお答え願います。お願いいたします。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

天守閣を木造復元する際にですね、資料の5ページに書いてありますとおり新たに付加する現代技術についてで説明させていただいております。当然木造復元する際には建築基準法3条の適用を受けまして、建築基準法の適用除外という形を取らせていただいております。ただ、適用除外は受けておりますが、先ほどのご意見にもありましたように危険な建物を造っていいということではありませんので、ここに書いてありますように現代の建築物と同程度の防火・避難性能を確保することを前提に設計をしております。この主な対策の所を見ていただきますと、火災発生の未然防止、火災の早期消火と火災拡大防止、火災発生における階段への煙の流入防止、災害時における避難経路の確保、このようなことを木造で復元した天守に現代技術を付加することで満足していこうと考えております。建築基準法で造る一般の建物につきましては、建物だけで全て安全を確保する法律の体系になっておりますけれども、今回の木造復元につきましては、木造復元に合わせた設備等を確保して、同程度の性能を確保しようと考えているところでございます。

司会

では竹中工務店からもよろしくお願いいたします。

竹中工務店

今ご説明があった内容をどのように検証していくかという話ですが、やはり一般的な建築基準法や消防法では解明できない避難安全性を確保していく必要がある。ということで、避難安全検証という基準を活用しまして、有識者の先生と協議をした上で、様々な対策など具体的な内容をご理解いただいた上で、認定させていただいて進めている次第です。これはハードだけではなくソフトも含めた対策となりますので、ソフト面につきましては名古屋市さんと協議をしながら防災・避難安全性を高めていきたいと考えております。

司会

ありがとうございます。続きまして、まだ発言されてない方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いします。

市民B

今日聞かせていただいて、木造復元よりも石垣がこんなに大変な状況であったことがびっくりしました。素人考えですが、石垣の上に天守が乗るわけですので、何としても石垣を修復しなければならない。石垣

にどのくらい予算があるのか分かりませんが、芸術的な資産という意味では石垣の方が価値はあると思います。名古屋さんが考えていらっしゃる 2022 年の木造復元完成は、普通に考えても無理なんじゃないかなと思います。私自身は木造復元には反対なんです。焼けてしまって何もなくなった所に火に安全だということでコンクリートで建てたので、今の名古屋城は十分博物館として機能しているんですね。今、名古屋市の中で文化施設がどんどん減ってきている中、博物館という形でね、外見は素晴らしい完成度なので、そういうふうに考えた方が私はいいんじゃないかと思います。私自身の考え方としては、石垣を修復して、竹中さんに十分に（現天守閣の）耐震性能を高めて何らかのメンテナンスしていただければ、そちらの方がいいんじゃないかなと思います。

司会

ありがとうございました。木造天守閣以上に石垣の修復をやるではないかと、さらに今の天守閣は外観がよくて博物館としても十分機能しているので、それに対してしっかり耐震等を高めて整備をすればいいのではないかと、こういうことですね。

西野名古屋城総合事務所長

ご意見いただきましてどうもありがとうございます。石垣について、特別史跡の本質的価値ということで、これを大事にしなければならないと我々も考えております。そういう中で石垣についての対策を、方針をきちんと作っていくと、その上で木造復元をしていこうと考えております。ただ、今回の木造天守につきまして、また今のコンクリートの天守もそうですが石垣には直接乗っていないということでございます。ケーソンという大きな基礎の上に乗っております。ですから、石垣が崩れても天守はケーソンで支えられていますので、私どもとしましては木造天守を 2022 年度までにしっかりと復元しまして、石垣については今の計画では 9 年間に渡りまして修復する期間を設けております。石垣についての予算も約 50 億円を見込んでおりますので、そこでしっかりと対応していきたいと考えております。天守を再建する時には燃えないようにということで、先ほど安全な天守で中は博物館というようなお話もございましたが、現在の技術で史実に忠実に復元することができるようになっているのと、実際に木造で復元しますと元々特別史跡名古屋城跡にあった本来の姿を見て感じていただけると私ども考えておりますので、そういう意味で名古屋城の木造復元を進め、博物館機能は近くに設けることを考えているところでございます。どうもありがとうございます。

司会

ありがとうございます。続いて、初めての方いらっしゃいますでしょうか。奥の白い服の方、お願いします。

市民 C

資料 3 ページの人数の件でございます。当初 1 年間 422 万人、他の情報を見ましても 1 年目は高くても、

その後人数は下がってくるということで378万人程となっていますが、これが本当にクリアできるのか。ということと、実際にこのくらいの人数の方々がみえて、オペレーションとして本当に楽しんでいただけるようなご案内ができるのかどうかということ。あともう1点、隅櫓の方が入っていただけるようになっていますが人数制限がされているということで、木造になった場合に人数制限をされるのかどうか。コンクリートの場合は人数制限されずにどんどん入っていたのですが、木造になった場合にそういう制限がされるのかどうかを伺いたいと思います。

司会

ありがとうございます。入場者数、年間300何十万人もの人々をクリアできるか、あるいは受け入れた場合に楽しめるだけのマネジメントが上手くできるか。隅櫓のように人数制限がされるのか、そのあたりをお答え願います。

服部名古屋城総合事務所主幹

お答えします。入場者数の見込みでございますが、昨年度調査しまして、資料にお示ししましたように422万人、その後減衰率がありますので一時期下がりまして、2071年頃まで概ね350万人の予測を立てております。これにつきましては、来場意向についてアンケートを取りまして、木造復元後に名古屋城にお越しになるのがどのくらいあるか、経済の成長率だとか、人口減少の影響、外国人観光客の増減の分等々を見込みまして、算出した結果でございます。ただ、名古屋城自体でも誘客に魅力的な施策を打って、私どもは努力をしながらこの数字をキープしていきたいと考えております。楽しめるようなオペレーションということでございますが、現在のところ時間2500人程の見込みでございますので、観覧環境を整えていかなるべく制限のかからないような方法をとっていきたいと考えております。

司会

隅櫓の制限というのは、

服部名古屋城総合事務所主幹

現在の隅櫓では制限をしていますが、天守の方はなるべく制限をかけない方向でということです。

司会

そういうことですね、すみません。はい、どうもありがとうございます。続きまして、まだ発言をされていない方、よろしくお願いします。

市民D

初めて来ました。先ほど入場者数が時間当たり2500人という発言がございましたが、2500人の方が天守閣の中に入れるのでしょうか。それが私には不思議です。階段を史実に忠実に造られることは非常にい

いことだと思うんですけども、ある程度の階段の角度がありますので、階段の幅がどれくらいで何人上がれるかなど計算は暗算ですぐできると思うんです、竹中工務店さんの力であれば、と思う次第です。それから僕も元々木造化は反対だったんですけども、今河村市長が一生懸命やっておられて史実の問題なども言われました。その点についてはかなり納得してきた方なんです。竹中さんも丁寧に作業やっておられますから、史実に忠実な木造の建物ができればいいなと。

だいぶ変わって来たんですけども、バリアフリー問題につきましては私としては非常に心配している次第です。後世に残る建物としてバリアフリー、ユニバーサルデザインを何も考えないのかと。確かにいろんな技術で上がれるような形ができるかもしれないけれども、端的に言いまして車いすの方を、高齢者の方を移乗してしか上に上がれない方法しか出てこないと思うんです。階段のレールを使うとか、ロボットに上げてもらうとか。自分も河村市長と同じ年なもんですから、必ず2022年に昇りたいのですが、昇れない事が起きるかもしれないと自分でも理解しております。私はエレベーターの者ではないんで損得勘定はありませんが、この前、栄駅からクリスタル広場に行く階段で斜行型エレベーターを見た時に感動したんです。縦型のエレベーターは梁を切ってやる必要があり無理だと思っていますが、何かないかなと思った時に、斜行型エレベーターなら各階にできます。また耐震性もかなり向上すると考えております。素人の考えと思わず、聞いていただければと思います。

司会

ありがとうございます。2点ご質問がございました。時間2500人も天守閣に入れるのか、階段の制約があるはずで大丈夫か。もう1つは、バリアフリーは非常に大きな問題だよと、例えば斜行型エレベーターなら何とかなる気がする。これについていかがでしょうか。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

まず時間2500人も天守閣に入れるかどうかということです。単純に2500人を天守閣の面積で割りますと1㎡あたり0.56人くらいということになります。基本的には天守閣に入るには階段を使用することになりますので、階段を通過できる人数が天守閣を使用できる人数となります。ただ、天守閣木造復元をしますと史実に忠実な復元を目指しておりますので、階段についても一般的な建築物よりは多少急な勾配になりますので、階段の歩行速度を通常の階段では1秒間に60センチ程度進むものとして計算するのですが、それを約半分の30センチ程度にして2500人を算出しております。空間的にも2500人は収容できるものと考えておりますので、よろしくお願いします。

それと、バリアフリーにつきましてはエレベーターを設置せず新技術で対応していきたいと考えております。ご意見いただきましたように栄地下の斜行式エレベーターがあるということも存じ上げておりますが、あくまでも史実に忠実な範囲の中で、復元を阻害しないような形で新技術を募集し、天守が復元する際には新技術で何とか皆様に上がっていただける方策を考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

司会

引き続き初めての方、マイクをお持ちします。よろしくお願いします。

市民E

緑区の（個人名）と申します。新しいお城ができることに楽しみを持っております。今日は新しいお城ができるという話ばかりですが、肝心なところは今あるお城を壊す、壊すのにどうするのかというのが全くないんです。今あるお城も非常に立派なものです。中にはお宝もいっぱいあると、これを廃材にしてしまってはもったいない。壊したものを後どういうふう利用するか、有効的に利用するというのをどのくらいまで考えておられるのかをお聞きしたい、よろしくお願いします。

司会

現存するお城について、新しいお城を造るとなると今あるお城を壊すことになるわけですが、それを何か有効活用する考え方はあるのかということですが、このへんはいかがでしょうか。

服部名古屋城総合事務所主幹

お答え申し上げます。ご提案いただきました現天守を壊したコンクリートそのものを後どうするのか、現時点では廃材になるものをどう活用するかなど細かいところまでは決めておりませんが、そのまま捨てるということではなく何らかの活用を考えていきたいと思えます。

司会

廃材のうち、部品として展示するものなどがありますか。

荒井名古屋城総合事務所主幹

活用については今検討ということではございますが、当然現天守閣は非常に価値があるものだ我々も考えておりまして、例えば金シャチが一番上に乗っておりますし、銅板瓦も名古屋城の特徴として残していきたいと思っておりますので、現天守を解体した後、解体されたものを名古屋城の記憶の伝承という意味で活用していきたいと考えております。

司会

ありがとうございます。あと手を挙げていた方はお一方と思えます。マイクをお持ちします。

市民F

入場者数の件ですが、2016年度192万人、その後新築したことによって382万人くらいとなっておりますけれども、先ほどから皆さんが質問している内容の中で、せっかく天守閣を見たからそれなりの景観を楽しみながら、ある時間観覧したいということだと思います。私が何を質問したいかと申しますと、例えば192

万人、一日に約 200 万人しか入れないとして観覧させた場合に、維持管理費との採算はどうなるのか。そこらはどう見積もってますか。

司会

すみません、今のはええと。

市民F

維持管理費。固定費を賄うために、380 万人は入らないと、我々の市民税がつぎ込まれないとやれないのかどうか。イベントを打ったりして入場者数を確保しようとしていますが、逆に 200 万人程度しか来なくても十分維持管理をしていけるのかどうか、どのように算定してみえますか。

司会

新しいお城の話ですよ。新しいお城を維持管理していく上で、例えば 200 万人くらい、現在の規模くらいに人数になった時も維持管理していけるのかどうか。あるいは先ほどの 400 万人近い人数を前提として維持管理するように採算を取ろうとしているのか、そのへんはいかがでしょうか。

服部名古屋城総合事務所主幹

現在ご指摘のとおり、入場者数の見込み最大値 422 万人、その後 2071 年まで 350 万人の見込みを前提として計算しますと、全体では採算が取れる見込みと算出をしておりますが、ご提案のように年間 200 万人程度というになりますと、全体 505 億円の建設費を含めて返済を考えますと 200 万人という数字では厳しいと見込んでいます。

司会

200 万人よりもっと入場者を入れないと、維持管理費や建設費を含めて返済は難しいと、こういう理解でよろしいですね。

服部名古屋城総合事務所主幹

おっしゃるとおりです。

司会

ありがとうございます。ではこれ以降は 1 回目、2 回目関係なく挙手をしていただいた方にご発言していただきます。

市民G

お願いいたします。特に竹中さんにお聞きしたいことがございます。12 月 28 日のバリアフリー検討会

議の後、西野所長が見通しは立たないが2022年の完成を目指すと思議な言葉をおっしゃいました。見通しは立たないが完成を目指すというのは言葉のあやであって、文化審議会で10月に諮問に至らず断念されました。それ以降のスケジュールは公表されておられません。私は資料2ページの上下を見て、基本設計と実施設計が入り組んでいるように感じます。家を建てる注文を竹中さんにしまして、階段はどうか、エレベーターはどうか、避難する大きい家として避難経路や防火設備はどうか。特にこんな大きい建物はルートCでシミュレーションだけでなく防火区画が要りますが、そういうことは今のぼんやりとした10分間のDVDでは分かりませんし、今までも見たことがありません。防災避難方針が分からないまま木材を買うのは、施主である私達市民のお金の無駄使いで、それはやめていただきたい。お客様に損をかけないように、企業というのは雇われた人じゃなくお金を払う人、私達が損をしないように、設計施工、請負業をするべきではないでしょうか。それが企業のコンプライアンスだと思います。

もう1つ、概算見積でエレベーターはないということを市が明言されました。ということは、概算でお金がすごく変わるはずで。どこでそのお金が変わっているのか。私は素人なので分かりませんが、専門家としての良心は痛みませんか、バリアフリーがないという状態について竹中さんに率直にお聞きしたです。以上です。

司会

バリアフリーなど見通しが立たない中で完成を目指すのはどうかということですが、その中で防災避難方針が具体的にないのではないかと、そのような中で木材を買ったりするのはやめてほしいと。またエレベーターなしという中で、概算費用はどうなっているのか、説明してほしいということだったと思います。よろしくお願いします。

竹中工務店

少し繰り返しの話になりまるかもしれませんが、防災避難に関しまして具体的な火災発生未然防止のためにはどういう体制にするか、例えば入場する時に危険物の持込みをさせないなどの入場規制、あるいは火災の早期消化、拡大防止というところでは感知器とかスプリンクラーとか屋内消火栓など消火に関する設備も設置していく。さらに火災が発生した時には、史実に忠実な階段ということではありますが、そこに防煙区画といいますか煙をそこへ流入させないことをセットしていく。そこで実際に災害が起こった時にはどのような避難経路で安全に避難するかと、実際に煙が充満する時間以内に入場の方が避難できる、そういったシミュレーションをしながら、日本建築センターという民間の審査機関が招集しました避難防災の有識者の先生と度重なる協議をさせていただいて、具体的な内容についてご理解をいただいて進めているということでございます。

さらにエレベーターなしということにつきましては、確かにコストが下がることにはなりますが、基本設計から実施設計に移行している中、どうしても設計というのは新陳代謝するとか、いろんな条件によって変更してくる可能性があります。名古屋市さんとは総額の予算を提示させていただいておりまして、その中で精査していくということを考えております。

司会

ありがとうございます。そろそろ時間が迫ってまいりましたので、あと2、3人の方にご発言をお願いしたいと思います。ぜひ発言したい方、手前の方ともう1人の方とお2人をお願いしたいと思います。

市民H

今日初めて、お城のこういうお話をまとめて聞かさせていただいてどうもありがとうございました。いつも市長がお答えになっているお話は史実に忠実ということで、今話題になっているバリアフリーは江戸時代にはこういう話はそもそもない話です。武士が戦うための住まいですので、バリアフリーは本来ない話だけれども、その後の時代の流れの中で適合するようなものを造っていただくようなことを竹中さんにはご検討いただければと思います。ようは基本方針の中で天守閣の内観の素晴らしさや眺望を楽しめることを保証する、そこが原点ではないかなと思います。眺望を楽しむというのは市民の方が中に入らないとできないので、そのやり方をもうちょっと分かりやすくご説明していただければと思います。名古屋には名古屋城と熱田神宮、しいて言えば明治村と、私を訪ねて来ても連れて行く所がないです。木造で名古屋城を造っていただけますと名古屋城を大いに利用させてもらえるもんですから、ぜひ頑張ってくださいと思います。

司会

ありがとうございます。名古屋城を史実に忠実に復元していく、しかし時代の流れもありバリアフリーにも対応していく。多くの人が眺望を楽しむというのが基本ではないかと。よって眺望の一番いいところにいかに多くの人々に足を運んでもらうか、その対応が必要ではないかということだと思います。それにつきましてどうでしょうか。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

天守の眺望を楽しんでいただくためのバリアフリーについて、分かりやすい説明をというお話でしたが、今は天守の昇降に関する付加設備の方針においてエレベーターは設置しないのご説明させていただきました。基本的にはエレベーターを設置しませんが、新技術の開発により多くの方に天守に上がっていただけるよう進めていきたいと思っております。なお新技術につきましては、順次公募を始めていって、公募で集まった技術につきましては、皆様に分かりやすいようにお伝えしていければと考えておりますので、今後の成り行きを見ていただければと思います。

司会

続きまして、もう1方、お願いします。

市民I

はね出し架構についてお尋ねします。有識者会議の石垣部会は、木造復元について特に基礎構造である

はね出し架構が問題だとしています。耐震性を増すために天守台石垣を取り外し、石垣内部の遺構を破壊した上で、コンクリート製のはね出し架構を設置する予定とのことですが、天守台石垣は名古屋市の調査で最上部まで江戸時代のものである可能性があると判明しました。2018年11月2日の石垣部会で千田奈良大学教授は以下述べました。『今後の進め方で特別史跡の保存に影響を与えない基礎構造の検討を調査研究の結果を踏まえ、必要に応じて見直しを行う』とあるが、考え方が根本的に間違っている。名古屋市の案はどういうものか分からないが、少なくとも江戸時代の遺構を破壊する基礎構造であるはね出し架構は断じて認めないし、一般論として文化庁も認めないであろう」とこのように述べています。「何回も部会などで指摘し、文化庁でも指摘されているのになぜ残っているのか、名古屋市は木造天守閣を建てるつもりはないのか」とまで述べています。そこで質問です。竹中工務店に対し、耐震性を考慮した場合、はね出し架構なしで木造建築が可能だと考えていますか。仮にはね出し架構をつけざるを得ない場合に石垣部会の先日の指摘はどのように考えていますか。それを踏まえた上で、名古屋市に対して竹中工務店の提案であるはね出し架構について、どう思っていますか。耐震性と遺跡を破壊しないことの両立させることを可能と考えていますでしょうか。先ほど西野所長から説明があった、石垣部会が石垣について指摘しているという具体的なことを全く説明していません。石垣部会からの指摘に両者、誠実にお答えいただけますと幸いです。

司会

ありがとうございました。木造復元の城造りにあたって、耐震を踏まえてはね出し架構なしで実現できるのかどうか。それを前提とするなら石垣部会の指摘、あるいは文化庁の指摘との整合性が取れないけれども、それをどう考えていくのかということを含め、どちらかご回答をお願いします。

(会場より)

まず竹中さん。

竹中工務店

ではご指名でございますので、回答させていただきます。石垣の扱い方によって様々な対応の仕方があると思いますが、耐震性と遺跡の保護の両立をさせた案は、可能だと思います。いずれにしても、石垣の調査結果について先生方とよく相談しながら最善の案を作り込んでいきたいと考えています。

(会場より)

はね出し架構がない案も考えられますか。

竹中工務店

そういった案も考えられるということです。

村木名古屋城総合事務所主幹

石垣のことについてお答えいたします。石垣の保全を考える上では穴蔵石垣と言っています、天守台の内部の石垣に関係するかと思いますけども、現在石垣部会の先生方からのご指摘もありまして、天守台の外周と内部の石垣の現況について調査を進めております。その調査の結果に従いまして、天守台の石垣の保全の方針を定めてまいりたいと思います。中でも江戸時代から残るものについては、基本的には手を触れない方向で考えています。

司会

はい、どうもありがとうございました。そろそろ時間がまいりました。本日は9名の方にご発言いただき、ありがとうございました。それでは閉会にあたり、最後に河村市長よりご挨拶をいただきたいと思います。

河村名古屋市長

はい、それではありがとうございました。今日は小学生にも来ていただいて、ありがとうね。まあどう考えるかだけでも、古いもので残さなければならないものは人類にはあるのではないかと、ということですわ。自分が上に上がりたいからだと言いますが、ではなぜ法隆寺はあの状態なんだろうね。1300年木造で持っています。そりゃ地震で倒れるかもしれません、危ない建築かもしれません。それでも残って国宝になっています。人類は金をかけて残すんです。名古屋城は先人が残してきた遺産で国宝一号だったんですよ、図面を残してくれたんです。名古屋にはこんな建物はありません、あるとすれば建中寺の山門が350年、あと荒子観音が古いですが、他はありません。先人が残してくれた最高の木造建築物が、たまたま戦争で燃えたんです、それでも図面が残ってる。僕はもう1回残して、あと1000年、2000年、ちびっこちゃんの孫やその孫、そういう人達もみんな、それこそ、雑巾がけでもして残していく、社会的な使命があると私は思っております。今日はようお越しいただきました。サンキューベリーマッチ。

司会

以上を持ちまして「名古屋城天守閣木造復元 市民説明会」を終了いたします。アンケート用紙は出口で回収しております。また、他にご質問がある場合はアンケート用紙にご記入ください。お車でご来場の方にご案内いたします。当施設は駐車場出口のゲートでは精算ができません。お帰りの際は劇場事務室にお立ち寄りください。劇場事務室で利用証書を受けた上で、入口の精算機で精算が必要です。また、回数券をお持ちの方や、障害者手帳等をお持ちで減免手続きを受けられる方も、劇場事務室にてお手続きをお願いいたします。

本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございました。お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りくださいませ。

（５）説明会（会場：東文化小劇場）の記録

① 開会

司会

お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を開催いたします。私は、本日の司会進行を務めます、株式会社ソーシャル・アクティの林と言います。よろしくお願いいたします。

はじめに、本日の市民向け説明会の進行について、ご説明いたします。まず、名古屋市及び株式会社竹中工務店より名古屋城天守閣木造復元事業の状況について説明を行い、その後、会場の皆様からご質問などをお伺いします。ご質問のお時間には限りがありますので、進行にご協力くださいますようお願いいたします。説明会の終了は、午後８時となっております。よろしくお願いいたします。

次に、本日お配りした資料についてご案内いたします。受付で本日の資料、冊子とアンケート用紙をお配りしております。説明内容はスクリーンで映写いたしますが、お手元の資料でもご確認いただけます。また、アンケート用紙につきましては、お帰りの際に出口で回収いたします。なお、報道機関による取材が入っているほか、記録写真の撮影を行っていますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

はじめに開会にあたりまして、名古屋市長河村たかしより、一言ご挨拶を申し上げます。

河村名古屋市長

はい、それでは、ようおいでいただきまして、ありがとうございます。この問題を考える前提として、頭に入れてもらわなあかんのは、大分前から今のコンクリートの天守閣、あれは耐震補強は著しく低いと。これはIs値の0.14と数字で表れておりますけど、震度6強の地震で倒壊の危険性が高いということで。今名古屋でそれ以外の建物はありません。1個あったんですけれども、中公設という、大須のところの公設市場。もう取り壊しました。今はありません。ただ、全五大都市に押しのけられ、全国の建築物の中で一番耐震強度が低い。このままほっとくってゆうのは、ないですね。それはあると思われまして議論が区切りますので、従いましてコンクリートで耐震補強をするのか、それとも木造にして強度をちゃんと保つのか。どちらかの選択肢しかなかったということでございますけれども。文化庁なんかには、丁寧な上にも丁寧に説明してまいりまして、名古屋の場合は木造で復元しようということになったんです。木造の方が鉄骨より軽いんですよ。3分近く、鉄骨というか鉄筋コンクリートより。文化の問題で非常に重要ですけど、一旦終えてしまったらまあしみやあかと、言うもんで国宝第一号だったんですけれども。その辺含めて頭に入れていただきたいなと。色んなご意見を賜われればと思っております。サンキューベリーマッチ。ありがとうございます。

② 名古屋市からの説明

司会

それでは、名古屋城総合事務所所長西野より名古屋城天守閣木造復元事業に関して説明いたします。

西野名古屋城総合事務所長

皆さん、こんばんは。ただ今ご紹介いただきました、名古屋城総合事務所所長の西野でございます。本日は、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。これより、名古屋城天守閣整備の概要や進捗状況についてご説明をさせていただきたいと思っております。30分程度お話をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、これまでの経緯でございますけれども、平成27年12月に、天守閣整備事業における事業者を公募型プロポーザルという形で募集しました。翌年の平成28年の3月に、優先交渉権者として竹中工務店様を決定いたしました。それに基づきまして、その後約1年間かけて、議会において、基本設計、その他の予算についてのご審議をいただきまして、審議を経て平成29年5月に株式会社竹中工務店と基本協定、および基本設計業務委託契約の締結を行っております。その内容としては事業費の上限が505億。それから、天守閣木造復元の竣工期限を2022年12月という前提で建設するところでございます。その後7月には、天守台石垣の調査を始めました。また、同じく7月に天守閣木造復元の寄附、金シャチ募金と名付けましたけれども、こちらも開始しております。開始から約1年半経った昨年末におきまして3億2千万円弱のご寄附をいただいたというところです。平成30年度に入りまして、4月には実施設計業務の契約締結をしております。5月には木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針を発表いたしました。7月には、柱や梁、土台などの主要な構造部材となる木材の手配・製材の契約を締結しております。元々の計画では、昨年10月の文化庁文化審議会に諮問していただいて、11月には事業を進めていくための現状変更許可をいただくということになっておりましたけれども、現在、有識者から天守台石垣の保存に対する対応が不十分だというふうに言われておりまして、10月の諮問には至らなかったという状況でございます。

基本設計その他業務について内容でございますけれども、大きく4つの項目がございます。まず基本設計業務では、史資料に基づく天守の姿の作成、すなわち通し柱の位置や木材の樹種、仕口・継手、屋根、壁の仕様について検討を行いました。また、防災避難や構造解析、付加設備についての検討も行っております。続いて、法的手続き書類作成業務でございますけれども、復元するために必要な文化庁の現状変更許可を取得するために必要な書類の作成、また、消防法の手続きに必要な書類作成を行っております。その他設計業務としまして、天守閣復元のために必要な仮設建築物等の設計図の作成を行いました。そして、調査業務としまして、史実の調査、ボーリング等の地盤調査、天守台石垣調査や発掘調査を実施しております。

続きまして、今年度契約締結いたしました実施設計業務の内容でございますが、昨年4月に契約を締結いたしましたので、大きく分けまして、まず設計業務ですけれども、天守閣復元のために必要な設計図の作成、構造解析、現状変更許可を始めとする法的手続きに必要な書類の作成、積算業務などを行っております。調査業務としては、史実調査や現天守閣記憶伝承調査、地盤調査などを行っています。

今年度実施してきた有識者会議の実施状況ですが、天守閣部会は5回、石垣部会は3回実施しております。主な内容はご覧いただいている通りですが、有識者の方々からご意見をいただきながら実施設計や石垣調査を進めているところでございます。

続きまして、昨年度実施しました調査に基づいた入場者の推計ですけれども、本調査では、平成28年度

の入場者数 192 万人を基にいたしまして名古屋城への訪問意向などのアンケート、リニア開業などの社会情勢の影響を踏まえて入場者数を推計しています。名古屋城内において、来場魅力が上昇するイベントなどの開催効果を見込んだ高位シナリオによりますと、2022 年の木造復元直後の 2023 年に 422 万人の入場者を見込んでおります。その後、入場者数は減少しますが、リニアの名古屋開業の効果、その後の全線開業の効果で増加いたしまして、その後微減傾向となりますけれども 2071 年までに 346 万人前後で推移すると、そういうふうに見込んでおります。

天守閣木造復元の基本的な考え方ですけれども、本事業は歴史的建築物の遺跡に基づき、当時の規模・構造等により再現する歴史的建造物の復元を行う。そして名古屋城の天守閣は法隆寺の頃から始まった日本の木造建築物の 1 つの到達点、究極の木造建築物と言われ、豊富な歴史資料をもとに外観の再現にとどまらない、史実に忠実に完全な復元を行う。それから、市民の皆様から「一旦焼失しているので復元しても本物の天守ではない」と、そういったご意見もお聞きしますけれども、名古屋城天守閣は市民の精神的基柱であり誇りである、この天守閣を悲しい歴史的事実を経て昭和実測図や金城温古録など、豊富な歴史資料に基づいて、戦災で焼失する前の本物の姿に復元し、世界に広く発信していく、そういうふうと考えておりまして、大変有意義な事業であると考えているところでございます。

復元案の検討ですけれども、今申し上げた昭和実測図など歴史資料が非常にたくさん残されております。これらが復元の根拠となる重要な資料になります。これを紐解きまして、検討を進めております。主な検討項目は、ここに挙げた通し柱等になりますけど、こういった項目の検討を進めております。今後も引き続き、復元根拠となる資料等をしっかりと検証して、史実に忠実な復元のための検討を続けてまいりたいと考えております。

それから、新たに付加する現代技術でございますけれども、もちろん史実に忠実に復元するのですけれども、復元する建造物の構造、復元後の管理活用の観点から、防災上の安全性の確保が必要になります。この方針は、文化庁の史跡等における歴史的建造物の復元に関する基準の中で歴史的建造物の復元として定められています。言い換えますとこれに従わなければ復元することはできないことになります。ご覧いただいておりますように構造補強、防災避難設備等、バリアフリーの観点で現代技術により付加することを考えているところでございます。

昨年 5 月発表いたしました木造復元天守の昇降に関する付加設備の方針ですけれども、まずエレベーターの設置につきましては、内部エレベーターは柱、梁などの主要な構造材を切断しない場合、小型のエレベーターしか設置できません。通常の車いすや電動車いすが利用できないことになりますので、設置をしないことといたしました。また、外部エレベーターについては、都市景観条例を定めて優れた都市景観の形成を進めている中で、景観計画により名古屋城の眺望景観の保全を図るとしていただきますので、設置しないことにしております。そうした考え方にに基づきまして、基本方針では、史実に忠実に復元するためエレベーターを設置せず、新技術の開発などを通してバリアフリーに最善の努力をする。また、可能な限り上層階まで昇ることができるよう目指し、現状よりも天守閣の素晴らしさや眺望を楽しめることを保証するなどとしています。

また、新技術の開発には、国内外から幅広く提案を募る。協議会を新たに設置し、障害者団体等当事者

の意見を丁寧に聞くことにより、誰もが利用できる付加設備の開発を行う、などを掲げているところでございます。

この方針を公表した以降の動きですけれども、まず新技術について、7月と11月の2回にわたり、企業が現在保有する関連技術についての直接企業から説明をしていただく説明会を開催いたしました。また、一方で新技術の公募するにあたりまして、国内、海外等の実例を調査するなど、公募スキームの案を検討してまいりました。昨年12月末に特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議を開催し、各方面の有識者の皆様から様々な意見をいただきました。今年度中には公募条件を固めて、来年度のできるだけ早い段階から新技術の公募を始めたいと、考えています。先ほど説明した企業からの説明会でいただいた意見の主なものを掲げさせていただいております。

障害には色々なものがあり全ての人が安心安全に昇れるようにしてほしい、現時点ではエレベーター抜きではバリアフリーとは言えないのではないかと、といった昇降技術に関する課題についての意見をいただいております。

関係法令といたしまして、障害者差別解消法について話をさせていただきますが、環境の整備は努力義務であり、合理的配慮は義務というふうになっております。建築物に昇降設備を設置することは、環境の整備にあたり努力義務となります。従いまして、天守閣の木造復元では新技術により昇降に関する環境の整備を行い、その上で実施に伴う負担が過重でない範囲において、必要かつ合理的な配慮により障害者の方にも楽しんでいただくよう努力してまいりたいという考えでございます。

続きまして、公募スキームですけれども、公募形式につきましては、段階的に審査をする技術コンペを考えております。スケジュールにつきましては、2022年に天守閣の木造復元の完成を目指しておりますので、2022年までの4年計画としておりまして、1年目である来年度のできるだけ早い段階で公募、2年目・3年目に試作審査、4年目である2022年に実用化というイメージで考えております。

それから木材の調達ですけれども、今回調達を予定している木材の種類と本数ですが、柱はヒノキ材で878本、梁材が松またはヒノキ材で1181本、その他大小天守の出入口部分の御門柱、冠木がケヤキ材で12本、土台がヒバまたはベイヒバで252本、計2323本となっております。土台部分でベイヒバを使用することを予定しています。現在、株式会社竹中工務店からは、できるだけ国産材であるヒバを使うよう調整しているというふうに聞いております。昨年の11月にテレビで扱われた岩手県の松材の月山松で、非常に長い松を取得することができました。外国産材ベイヒバを使うことを予定していた代わりに使おうと考えております。また、現在木曽ヒノキを集めることは非常に厳しいと聞いておりますけれども、名古屋城の築城には木曽ヒノキが使われていたという記録がございますので、できるだけ木曽ヒノキを特に主要な部分である柱に使っていくふうに調整をしていると竹中工務店から伺っているところでございます。

天守台石垣調査の関係ですけれども、天守閣整備を進めるにあたりまして、特別史跡の本質的価値を構成する天守台石垣の現在の状況を調べ、それを適切に保存して行くための方針、具体的にどのようなスケジュールで方針を実現していくかという保存の計画を立案・策定していく必要がございます。本市では、平成29年度からそういった目的に立って天守台石垣についての各種の調査を行ってきております。平成29年度には歴史的な資料を調べる史実調査、根石と呼んでいる石垣の一番下の基礎の部分の状況を調べる

発掘調査、測量調査を行っております。今年度もそれに引き続いて、発掘調査、測量調査、足場をかけて石垣の石の状況を調べ、石垣のカルテを作成する現況調査、さらに石垣の裏の状態を調べるためにレーダーによる探査や、石垣の間にビデオスコープを入れて中の様子を調べる、そういった調査を行っております。

一例ですが、左の写真をご覧くださいと、これは小天守の南側の地点でございますけれども、写真中央を赤い丸で囲っておりますけれども、深く掘り下げているところに見えている石がおそらく石垣の最も下の基礎になる根石だというふうに思われます。これは天守が創建された慶長時代、1610年ごろに据え付けられた石だと思われそうですが、当時の位置を保っており変化はしていないというふうに判断しています。また、右側の写真の小天守の西側で行った発掘調査になりますけれども、少し掘り下げたところで石垣の前面に小さな石が敷き詰められたような状況が確認されております。この遺構がなぜ築かれたかは今後検討していきますけれども、江戸時代を通じて天守台石垣が管理されて手を加えられたことが分かります。

それから石垣カルテ、これは石垣の各面の状態、石垣を構成するそれぞれの石の状態を調べてまとめているものでございます。今ご覧いただいておりますのは大天守台北側の石垣カルテということになります。上の方に積み直しライン（昭和期）と書いた赤い線があります。これは、現在の天守閣を造る時に石垣を積み替えたと思われる範囲を示す線となっております。また中央の下の方に赤い網をかけた部分がありますけれども、こちらは石垣が前面に大きく前に膨らんだ範囲を示しています。天守台石垣の中では変状の度合いが大きい部分でありますので、石垣を保存していく上での対処方法を検討していく必要があると考えております。

それから天守台石垣の背面の調査についてですけれども、上段に示しておりますのが天守台石垣の西面と北面をレーダーで探査した結果でございます。右側の方が北面になります。北面には大きく孕み出した膨らんだ部分があります。背面につきましては、他の部分と同様な様子で、明確な違いがあるとは判断できていない状況でございます。今後さらにデータを分析して、孕み出しの実態や原因などを検討していく予定になっております。下は石の間にビデオスコープを差し込んで石垣の裏側を映した写真です。石垣の現況を知るためには裏側の状況もよく調べる必要があり、このような調査を行っております。

本市では、今まで申し上げたような調査を実施してまいりました。それに基づきまして、天守台石垣の保全と安全対策というのを取りまとめました。この中には、昭和の現天守閣建築時などに大規模な手が加えられているとか、戦時中、天守閣が焼失した際に石垣も火を受けておりその石が劣化している、天守台北側に顕著な孕み出しが見られる、この3点を問題点として把握しております。それに対応するための保存・修復の方針、それに従った手順などを整理したところです。

整理したものを含めまして天守閣木造復元の基本計画書を作成しまして、それを文化庁に提出していると考えておりましたが、それに先立ちまして天守台の保全と安全対策につきまして、有識者に報告をいたしました。その結果、7月の段階で調査が不十分であるということを指摘されております。その時点で文化庁に提出することを断念しました。さらに、9月に再検討しまして有識者の会議である石垣部会と打合せを行いましたけれども、了解は得られませんでしたので、基本計画書の提出には至らなかったということです。この場において石垣部会の構成員から、文化財石垣保存技術協議会に相談して、保存方

針等を再検討することを提案されておりますので、保存の方針についての再検討を進めているところでございます。

今後の進め方ですけれども、文化庁からの現状変更許可を受ける必要でありますので、石垣保存方針につきましては、今申しましたように文化財石垣保存技術協議会の助言を受けながら、再検討を行っております。また文化庁に提出する基本計画書につきましては、具体的な天守台石垣の保存のための計画を石垣部会に諮りながら、石垣保存に対する了解を得て、提出してまいりたいと考えております。

木造天守の竣工につきましては、文化庁の技術的な助言をさらに受けながら、現状変更許可の見通しを立てるとともに、優先交渉権者と協議をし、2022 年 12 月木造天守竣工を守るよう努力してまいりたいと考えております。そのために、できるだけ早く文化庁から現状変更許可を取得できることが重要であると考えております。

最後に、現在の名古屋城について少し話をさせていただきますけれども、現在の天守閣は耐震性が低いということで昨年 5 月に天守閣への入場を禁止しました。しかし、翌 6 月に本丸御殿を完成公開しております。11 月からは西南隅櫓を常時公開しております。名勝二之丸庭園の保存整備や、搦手馬出石垣の修復保全などにも取り組んでいるところでございます。それから皆様ご存知のとおり、昨年 3 月には金シャチ横丁という定番老舗の名古屋めしのお店や気概溢れるお店などの飲食店街ができておりまして、大変賑わっております。こういった飲食面でも楽しんでいただければと思います。今後、名古屋城といたしましては、天守閣木造復元を進めるとともに、さらに魅力を向上させ、皆様に楽しんでいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。ご清聴いただきまして、誠にありがとうございました。

③ 株式会社竹中工務店からの説明

司会

ありがとうございました。次に、株式会社竹中工務店の末永より設計について説明いたします。

竹中工務店

竹中工務店の末永と申します。よろしくお願いいたします。

名古屋城天守閣木造復元について、現在までの進捗をトピック的に紹介します。まずは 1 分 20 秒ほどのムービーをご覧ください。

(CG ムービーを投影)

現在、設計契約と木材調達契約の一部を締結して、設計情報、木材情報を詳細に検証し特定しています。資料に遺された史実を収集し、それらの中から建築情報を掘り起こし、その建築情報を検証・特定しています。

名古屋城については豊富な資料が残っています。江戸時代後期から編集された金城温古録、昭和 7 年から継続して実測され、戦後の昭和 27 年に完成した昭和実測図、昭和 15 年度から記念事業として撮影されたガラス乾板写真、その他の古文書を含めて史実を掘り起こしています。様々な資料を比較検証して史実を特定していく事例を紹介いたします。

小天守地階、東南側の写真です。扉と壁はこの写真には写っていません。昭和実測図にも土間と金蔵との境には扉や壁の姿は見られません。しかし金城温古録の御蔵之間図には、二重線で扉のようなものが描かれています。

赤く囲んだ部分が扉だと思われます。

金城温古録の御金蔵の所に「三口あり」、つまり3つ入口があったとの記述から、扉と壁があったことが分かります。開き戸の記述があり、施錠されていたことが分かります。御蔵之間図の赤線部分が御金蔵につながる開き戸の位置だと推察されます。また図には、小天守上り口にも同じく扉の表現がされています。緑線の部分です。

一方で、昭和実測図には一筋の敷居が描かれています。青線の部分です。扉の内側にさらに引き戸があったことが分かります。

ガラス乾板写真を子細に見ていきますと、御金蔵入口の柱の両側には上下3か所に金物が残されていることが分かります。この金物に開き戸が取り付けられていたと思われます。階段入口部分は、柱中ほどの高さに蝶番が残っています。ここは敷居から梁まで達する扉で嚴重に閉ざされていたと思われます。

また柱内側の敷居と鴨居に溝が彫られているのが分かります。青線の部分です。扉の後ろにさらに引き戸があったことが確認できました。

扉、引き戸、壁を新たに昭和実測図に書き込むようになります。

このようにして複数の資料から掘り起こされた史実は、様々な角度から検証し特定していきます。建具の形状や材種などが分かる資料はありませんので、他城郭や名古屋城に現存する櫓などを参照し特定していきます。そして天守閣部会において有識者の先生方に確認していただきます。

次は井戸についての検証事例です。これはガラス乾板写真、大天守地階井戸です。左側の昭和実測図の1階の平面図には井戸の記載はありません。右側の宝暦の修理後に描かれた名古屋城御天守各層間取之図には井戸が描かれています。2つの図を子細に見比べてみると、昭和実測図には井戸の穴を塞いだ跡と排水溝を塞いだ跡が描かれています。

下の図は、金城温古録にある井戸の絵2点です。左側が地階井戸の絵、右側が1階井戸の絵と思われます。昭和実測図には記載のない1階の井戸は、明治以降に撤去されていたものと考えられています。1階の井戸も復元する設計を進めています。

これら検証し特定された情報は、3次元モデルとして立体的に整合性を確認します。3次元モデルでは、平面と断面の整合性が視覚的に判断できます。大天守の3次元モデルです。3次元モデルは任意の箇所で切り取ることができます。黄色の線は3次元モデルの断面線になります。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込み、重ね合わせます。

階段のある部分で拡大してみます。これは昭和実測図です。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込むと立体的に確認ができます。このようにして史実を特定して書き起こした3次元モデルの整合性を確認しています。

昨年11月に名古屋城天守で使われる最も大きな木材である松の伐採を行いました。大天守3階の梁に使われる長さ約16メートル、太さ60センチを超える松です。赤く色づけした部分です。

床面から約6.5メートルの高さにある、二部屋にまたがる丸太の梁です。

岩手県奥州市の月山神社の山にある月山松です。地元の方々が長らく大切に見守られてきた樹齢330年の大きな松ですが、名古屋城のためにぜひ使っていただきたい、との決心をされて地元の方々の見守る中で伐採を行いました。

史実を掘り起こし、様々な角度から検証・特定して、史実に忠実な名古屋城天守閣木造復元を目指します。ご清聴ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。

それでは、準備のためステージを整えますので、ご来場の皆様はそのまましばらくお待ちください。

④ 質疑応答

司会

お待たせいたしました。ここからは、名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問をいただきたいと思います。

最初に会場の皆様からのご質問にお答えする職員等をご紹介します。

名古屋市長河村たかしでございます。

名古屋市観光文化交流局局長の渡邊でございます。

名古屋城総合事務所所長の西野でございます。

主幹の蜂矢でございます。主幹の荒井でございます。

主幹の村木でございます。主幹の服部でございます。

株式会社竹中工務店でございます。

それでは、ただ今よりご質問を伺います。ご質問につきましてはできるだけ多くの方からいただきたいと考えておりますので、お1人様3分以内で簡潔にご発言いただければと思います。2分30秒になりましたら私からお知らせいたしますので、残り30秒でお考えをまとめてもらいたいと思います。また、手を挙げていただきますと、係の者がマイクをお持ちいたします。ご発言はマイクを通してお願いします。ご協力をお願いいたします。

それでは、ご質問のある方いらっしゃいますでしょうか。では一番前の女性の方お願いします。

市民A

中区からまいりました（個人名）と申します。今回初めて説明会に参加しましたので、繰り返しの質問になってしまうかもしれませんがご容赦ください。私の意見としましては、結論から申しますと木造建て直しには反対で、現在の天守閣を耐震補強して保存していくほうがいいのかという考えです。ま

ず、文化庁から現在の天守閣は戦後都市文化の象徴として文化財としての価値が高いのでそれを取り壊すことはどうなのかと、耐震補強して保存していくことを考えてみてはという意見が出されたのに対し、おそらくあまり検討されることなく、取り壊し、木造化という方向性に進んでしまっているように見えてならない。もともと市長の方から、木造化ありきで進めているようで、それ以外の意見は無視して、まともに検討されていないんじゃないかと思われて非常に残念でなりません。私は、先般の市長選挙で河村たかし市長に一票を投じましたが、それは木造化に賛成しているわけではなく、当然市長の仕事は名古屋城のことだけではなく、全体的に見て1票を投じたわけで、現在の天守閣の取り壊しには反対です。市長が再選されたからと言って、市民の総意を得たわけではなく、反対の人もおり、十分な議論を尽くすことが必要ではないかと思います。

司会

あと30秒で。

市民A

私は名古屋城の城下である丸の内に生まれ育ち、名古屋城は非常に心の拠り所です。文化財として非常に価値が高いものとして、耐震補強すればおそらく立て直すより非常に安い値段で、おそらく木造化すれば500億円、耐震補強であればおそらく100億円ぐらいであと100年持つものになると思います。大阪城も耐震補強であと100年持つと言われているので、そのような方向性で考えてみてはいかがでしょうかと思います。

司会

ありがとうございます。文化庁から今のまま耐震して保存してどうかと言われているんだけど、それについて十分な検討はされたんでしょうか、ということと、耐震した方が安いんじゃないですか、ということかと思われそうですが、その点についていかがでしょうか。

西野名古屋城総合事務所長

ご意見いただきましてありがとうございます。この天守閣の木造復元事業、実は市長が最初に挨拶で申しましたように、現天守閣の耐震性が低いという問題がありますので、それについてどう対応するかということで、実は平成27年度にタウンミーティングを16区で開かせていただいたり、あるいは竹中工務店さんの優秀提案が決まりましたから、市民説明会、2万人アンケートによりまして、金額については耐震改修すると約29億円ということです。ただ、木造復元をできますと、元々名古屋城は江戸時代の史跡でありますから名古屋城の本来の機能をそのまま木造で史実に忠実に復元することで、その機能に合わせた本来の史跡のものが復元できますので、どちらがいいか皆様にご説明をし、アンケートの結果などに基づいて木造復元という方針に決定したという過程がございます。もちろん私どもも、現在の天守につきましては戦後の1つの近代建築の価値のあるものであると考えておりますので、価値の伝承をしっかりと考えて

いきたいと考えております。また文化庁につきましても、耐震改修の検討はどうかと言われますけれども、文化庁が木造復元を否定しているわけではありませんので、付け加えさせていただきます。どうもありがとうございました。

河村名古屋市長

僕の名前が出ましたんで言っときますけれども、コンクリートの建築、具体的に言っとくと旭丘高校の校舎があつたり、あるいは戦後何年だったかな、戦前から建つとりますけど、時代の象徴として60年だったと思いますけど、経つとるものは登録有形文化財に成り得るという、一般的になつとるんです。旭丘高校の校舎もそうだったんです。文化庁はそれ以後文章出しませんけど、旧制中学の建物であんだけあるものはないということで、50年60年以上、昭和12年だったと思いますけど、登録有形文化財に成り得ると文章で書いたんですけど、結局壊れてまった。その場合とどうなんだということになるんですけども。名古屋のお城の場合は壊すというより、もともとのものに復元するということ。こういうものを文化庁が認めとります。その代わり要件があります。なんでもかんでもではないです。第一要件は、元々国宝とか重要文化財等がなくなったもの、もう1つはその真上に造ること、もう1つは色んな資料等で本物を造ること、この3つが兼ね備えられると、これは復元となります。いっぺんあつたものがなくなってしまうと、何にもなしではないんです。皆さんの考え方ですけど、私たち今生きる人間は何を残すべきなのか、何も残さんでもええのか。いいですよ、色んな考え方があつて。だからまあ、そこをどう考えるかということで、何で法隆寺はあるのかと。あんな危ないものが。ほんなもん地震で五重塔倒れてきたら修学旅行生とか危ないですよ。それから保存にもものすごい金がかかります。だけど人類が残すじゃないですか。やっぱり国宝とか色んなものを。それと同等の価値があると、いわゆるオリジナルと言つていいものだ、名古屋のお城は。というふうに私は考えとって、要するに、生きる人間が次の世代に対してすべき義務だと、社会的な、僕はそういうふうに考えとって、過去の人類の叡智を残すと。それから耐震補強30億でやりましても普通はだいたい50年、旭丘の建物も昭和12年に造つたものを壊しましたから。持たないんです。法隆寺は1300年持つております。以上です。

司会

では次の方。

市民B

緑区から来ました（個人名）と申します。私は、大賛成なんです。ここまで来た以上、反対が少々あつてもゴーサインでどんどんやってほしい。もともと名古屋は観光の街ではないという沈んだ状況にあります。私の生きている間に観光の街にしたいという、強い希望があるんです。例えば東京で美術が展示されたら、名古屋飛ばしで大阪まで行っちゃうわけです。現在は、名古屋は口下手だからなかなかそういうことが主張できないというけれど、人間だから京都であろうが大阪だろうが東京だろうが一緒なんですわ。私は地下鉄に非常に興味を持って、地下鉄なんか優秀な文化財になるような壁画がたくさんあるんです

わ。ところが市の職員にしても、市民の皆さんにしても、ほとんど壁画に関心を持たれないために、そういった実際の価値を認めずに飛ばしちゃっている。私は純粋な名古屋人だけど、最近名古屋のことを勉強するようになってね、市政 400 年や名古屋城検定を受けるようになって勉強し出してから、他の街と全然変わらずにね、名古屋でも寺院がものすごくあるし。私としては、賛成 100%、反対 100%、これはあり得ないんですわ。

司会

あと 30 秒で。

市民 B

先ほど河村市長に入れたけれども反対だとは言っても、それは人間だからあるんですわ。河村市長に入っても、100%皆さんが賛成していることをしているわけではなく、立場が違う以上、1 割 2 割は反対することがあっても全体的に 6 割以上は賛成。1 つだけお聞きしたいのは、天守閣の館内に入って土足なのかスリッパに替えるのか。清州はスリッパに履き替えて、岡崎城は土足です。よろしく願いいたします。

司会

名古屋が観光の街になるのであれば大賛成ということですね。名古屋城を核にして観光の街をどんどん広げていきたいということですね。質問については、天守閣は土足かスリッパかという点についてですね。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

ご質問ありがとうございます。名古屋城天守閣を木造で復元した際に、土足で上がれるのか、履き替えるのかというご質問ですが、今実施設計を進めておりまして、土足で上がるのか、履き替えるのかということについては、どこのエリアから履き替えをするのかということや、全部のエリアで土足で上がるのか、という点について今検討しているところでございます。ちなみに、6 月に全面公開した本丸御殿は皆様に上履きに履き替えていただいているところでございますので、建物の仕様がしっかりと決まった時点で、管理運営も含めて履き替えをしていただくのかどうか決めていきたいと思っているのでよろしくお願いいたします。

司会

では次の方。

市民 C

素朴な質問ですけども、市民アンケートで私個人的には木造化してほしいという意見が圧倒的ではなかったというふうに認識しているんですけど、アンケートの結果は木造化に大賛成という意見は沢山あったんでしょうか。それから、今緑区の方がおっしゃっていましたが、観光にするんだったら、多くの方

が見るためにも、エレベーターを付けて、どんな方でも見れるようにするのが観光じゃないかと思います。大変矛盾していると思います。私も木造復元化には反対です。

司会

ありがとうございます。市民アンケートで木造化に賛成が圧倒的に多かったのは本当ですか、ということと、観光の核とするのであればエレベーターはあった方がいいのではないかと、つけるべきだというお話でしたが、まずアンケートの件からお願いしていいですか。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

それではまず、平成 28 年に行いました市民 2 万人アンケートの結果ですが、その時点では木造復元にご賛同いただいているパーセントとしては約 6 割程度となっております。それからバリアフリーの視点でエレベーターを設置するべきではないかというご意見ですが、確かに今の技術でいけば、エレベーターということになるかと思いますが、あくまでも天守閣木造復元については史実に忠実な復元を目指しておりますので、その範囲でエレベーターを設置しようとした場合、非常に小型なものになりバリアフリーに適さないというふうに現状ではなっておりますので、エレベーターは設置せず、新技術によって多くの方に上がっていただけるものを設置できればというふうに考えているところでございますので、よろしくお願いいたします。

河村名古屋市長

エレベーターつけるとどうなるか言うのは、先ほど竹中さんが言われましたように、柱 10 本梁 30 本とらないかん。そうすると内部の構造が持ちませんので、鉄骨で支えないかん。と、そもそも建物の性質が変わっちゃう。木造じゃなくなりますので、そもそも、私の確認しとるところでは、障害者差別解消法というのがありまして、そこはどう言っとるかいうと、合理的に考えてくださいよと書いてあるんです。木造の建物造ろうと思ったら、鉄骨の建物になったということであれば、そもそもそれは合理的ではないということでございます。それと非常に大きなのは、ほいじゃあ車いすの方もそうだけど、必ずエレベーターを付けなあかんと言われる方だと、入ってった所の中身が違う鉄骨建築になる。400 年前のと違う。それこそバリアーではないの。やっぱり本物の 400 年前の姿を文化庁の基準に従って歴史的建造物を復元して、それをみんなで見ると、体の不自由な人には全力で色んな対応するというのが、僕は優しい心だと思いますけど。あんたは足が悪いからエレベーターにしやあ、全然違う建物でもいいというのは、私は冷たい考え方じゃないかと思いますけどね。

司会

では次の方。

市民D

千種区の（個人名）と申します。初めて説明会に出たので教えていただきたいです。まず、3 ページ目の入場者数の推計、今世間はデータや資料が問題視されておりますので、素人ですけれども、入場者数の件で聞きたいと思います。かなりボーンと跳ね上がっている、このデータの根拠を示していただけたらと思います。これに絡んで、先ほど説明の中で本丸御殿やおかげ横丁が出てきましたが、まず本丸御殿を復元した際に以前の見学者からどのくらい増えたのか、その次にプラスおかげ横丁でどれだけ増えたのか、そういう推計から、示されたデータの様にピーク時 452 万人、安定期 330 万人となっていますが、これほんまかいな、と思いますのでデータ根拠をお示しいただけたらと思います。

まだ時間があれば。石垣保存について、技術協議会がノーと言われており、検討します検討しますと書いてありますが、見通しはあるんですか。これが狂うと、どんどん工期が遅れてくるし、その辺の見通し。あと、新技術についてバリアフリー云々と言われますけれども、本物を残すのがいいのか、障害者や我々高齢者に我慢しろというのか、どっちか、これこそ公共の利益がどちらにあるのか考えなければならないと思います。そういう意味で、個人的には最初は木造が良いかなと思ったが、やはり木造でなくてもいいと思います。皆がお城昇って、だいたいお城は外から写真撮るものですので、中にエレベーターがあろうがなかろうがどちらでもいいのではないかと。むしろ城を取り巻く歴史的なことが大事ですので、木造復元化を再検討していただけたらなと思います。

司会

ありがとうございます。大きく 3 つ、データのこと、石垣に関する見通しのこと、新技術のバリアフリーという話があるのだけれども公共の利益は一体どこにあるのかということ、というお話だったかと思います。まず順を追ってデータの根拠について回答をお願いします。

服部名古屋城総合事務所主幹

お答え申し上げます。入場者見込みの推計のデータ根拠ということでございますが、お示ししました 2023 年で最大値 422 万人でございますが、これにつきましては昨年度調査をいたしまして、データについては社会情勢の変化、他城郭の状況、名古屋城が木造になった場合にご来場されるのかどうかのアンケート意向調査、関西・関東・中部のリピート率も含めて調査をし、そこから係数を割り出して算出したものでございます。それ以降、2071 年まで約 350 万人が続くということでございますが、これにつきましてもリニアの開業効果、訪日外国人の増加という点を加味して計算されたものでございます。

司会

本丸御殿と金シャチ横丁でどれくらい増えたか、というのは今お分かりになりますか。

河村名古屋市長

だいたいですが、初年度 3 倍になります。2 年度から下がつて倍くらいになります。全部とは言えませ

んが。そんな傾向があります、実績で。名古屋城は今 200 万人ですから、まあ実際には 3 倍で 600 万人とそんなには入りませんが、江戸城が復元したいんですけど 400 万人と想定している。何で 400 万人が電話かけて聞いたんだけど、物理的にそのくりあでにやあかと、言っていました。もっと来るでしょうと、江戸、東京だったら。ということでございますので、色んなお城見ていただくと、だいたい初年度 3 倍、次から 2 倍ぐらいだと思いますので、名古屋城だと 400 万人くらい。あんまり言うと感じ悪いけど、めっちゃくちゃみえると思います。皆さんがびっくりするほど世界から。世界にありませんから、こんな木造復元は。この間、フランスの建築家でしたかね、桐朋学園のセミナーに行ったときに、こんなことができたならいいことですよ、と言っていました。驚くべきほど世界中から来るだろうと言っていました。ということは事実です。プロの設計者が言っていました。

西野名古屋城総合事務所長

本丸御殿の入場者について、本丸御殿ができて金シャチ横丁ができて、昨年度に比べて 20% 弱の入場者が増えているということはありますが、本丸御殿は段階的にオープンしてきたということもありますので、本丸御殿を造り出す前は 110 万人くらいでしたので、約 2 倍くらいになっているのではないかと思います。現時点で 220 万人には及ばないが、今のペースは昨年と比べて 20% 程度増えているという状況です。

司会

昨年と比べて 2 割増、本丸御殿を造る前と比べて 220 万人に及ぶペースであるということでした。では、石垣について回答をお願いします。

村木名古屋城総合事務所主幹

石垣の件についてお答えいたします。天守台の石垣については、事業に先立ちまして現状をよく調べて、現状に応じて保存策を考えていくところが求められております。これまで調査をずっとやってきているのですけれども、調査の不足について言われておりましたが、調査もある程度進んできております。それに加えて文化財石垣保存技術協議会からご紹介いただきましたコンサルタントの方からご助言をいただきながら、それをどのように分析していくのか、それを踏まえてどういった保存の策を講じていくかという点について、考え方をまとめております。できるだけ早くまとめて、認めていただけるように今努力しております。

河村名古屋市長

石積みのプロってあんまりいないんです。具体的に言うのはあれなんですけど、その社長から名古屋城のこれほど丁寧に石垣を調査したのは初めてだと言っていました。竹中さんの 505 億の中に、45 億が石垣の調査として入っている。こんなの初めてですという評価をいただいている状況でございます。

司会

バリアフリーについてはいかがですか。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

バリアフリーに関する新技術ですが、一定の条件を定めて利用する方を制限するような形の新技術を公募するということは考えておりません。できればエレベーターと同様に、様々な人に活用していただけるような新技術を公募していきたいと考えております。これから公募する条件等定めていくところでございますので、今いただいたご意見のように、色々な方が使えるようなことを条件として新技術を公募してまいりたいというふうに考えております。

司会

では次の方。

市民E

北区の（個人名）です。山ほど質問したいことはありますが、とても3分では質問しきれないので端折ってお伺いしたいんですけど、先ほど法隆寺は危ないよ、でも残せよと言われましたが、だったら名古屋城も今のまま残していいんじゃないですか。危ないけど残してもいいんじゃないですか、耐震補強して。戦争で燃えたことも歴史ですよ。それから、危ないから入場を禁止したと、去年の5月に穴蔵の石垣を調査するということで入場禁止にしたのではないかなと記憶しているんですけどもどうなのでしょう。折角入場禁止にしているので、調査していると思うんですけども、どんな調査をしてどんな結果になっているか教えていただけませんか。それから、復元しなきゃいけないということで、昔のまま復元すると間違いなく違法建築になると思います。そこで建築基準法の適用除外をしようということになってくると思いますが、適用除外の中に、原形を再現する建築物で特定行政庁は建築審査会の同意を得てその原形の再現がやむをえない建築物、とあるのですがこれにどうあてはまるのか。特定行政庁というのは名古屋市のことですよ。名古屋市が勝手にやってもいいものなのでしょうか。建築基準法や消防法はなんのためにあるんでしょう。国民の安全や財産を守るための最低基準じゃないかと思います。

司会

あと30秒です。

市民E

それを守らない建物を建築していいんでしょうか。建築基準法に関する法律について、竹中工務店さんと名古屋市さんに考え方をお伺いしたい。それから今後のスケジュールについて、今年の3月にはエレベーターを解体、秋には本体の解体に入ると、当然その前に文化庁の許可も必要かと思います。いつそういったものを出して、許可されるのかお伺いしたいと思います。

司会

ありがとうございます。大きく6つありましたが、まずは法隆寺についてお願いします。法隆寺は危ないと言ってるけど残しているから名古屋城もそれでよいのではということ、

河村名古屋市長

法隆寺は何で残すのか、ということですが、ほらやっぱり1300年前の、記録によると論争もありますが建てた100年以内の間にどうも一度焼けたようですね、確定ではないですが。だけどその時の人類の叡智と、木造建築としてあれほど巨大な建物を造った人類の先輩の造ってきた叡智を、これはやっぱり僕らの世代で引き継ぐべきだと、そういう義務感で残すんです。社会的責務で。僕はそういう責任があると思います。今を生きる人類にとって。では名古屋城はどうなんだと。空襲で焼けてしまったんです。333年間も大事にしとったのに。しかし、誠にありがたいことに非常に詳細な図面を残してくれた、先輩は。世界中で名古屋城しかないですよ。金城温古録や写真も、こんなものはないですよ。すなわち、理論的にはあれですけど、文部省や名工大の学長、名古屋市の役人が図面を残したんですけど、たぶん空襲は予見しとらんかったと思うけど、火事とかでなくなった時に、またこれでもう1回本物に戻してくださいよという気持ちであったと思いますよ。そういう先輩の叡智を残していくことは、私たちの時代の使命ではないだろうかね。僕はそう思っています。

司会

ありがとうございます。次に、今入場禁止になっているが、元々危ないから入場禁止になっていたのではないかというお尋ねでした。

西野名古屋城総合事務所長

ただいまのご質問につきましては、耐震性が低いということがありまして、入場禁止にするかどうかについて、私どもとしては非常に熟慮し検討した上で入場禁止にしております。入場禁止のタイミングにつきまして、明日から閉めますということでは、色んな意味で影響が大きいと考えまして、計画の中では穴蔵の石垣を調査することを定めておりましたので、そのタイミングに合わせてで入場禁止にすると、半年前に発表した経緯がございます。穴蔵の石垣の調査について、外側の石垣の調査が今のところ不十分であると有識者から指摘されており、穴蔵の石垣の調査に入るのはどうかということで、現時点で穴蔵の石垣の調査には入れていないという状況です。

司会

ありがとうございます。次に、違法建築になるのではないかというご質問でした。適用除外にするための条件に当てはまっているのでしょうかというお尋ねだったと思います。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

建築基準法第3条についてご説明させていただきます。建築基準法第3条第1項につきましては、文化財などの歴史的建築物について、建築基準法の規制をそのままを適用することは必ずしも適当ではないということで、国宝や重要文化財等に限定してその適用を除外しております。その中の第4号の中に、国宝、重要文化財等の建築物の原形を再現する建築物について、特定行政庁が建築審査会の同意を得て、その原形の再現がやむを得ないと認めたものを掲げておりますが、これによって滅失した国宝や重要文化財をそのまま再現することが可能となっております。名古屋城につきましては、戦争で燃える前に国宝の指定を受けておりましたが、それは旧国宝保存法による指定でした。合わせて名古屋城全体が史跡として指定されておりまして、戦災で焼失した時点におきましては、一旦国宝の指定が外れておりますが、史跡として指定されていた状況については新しい文化財保護法に引き継がれておりまして、特別史跡に指定された段階でそれを構成する建物として天守閣、本丸御殿等も含まれておりましたので、3条を適用することが可能になると考えております。また、3条を適用すると危険な建物になるのではないかというお話もありますが、3条を適用する際には、特定行政庁である建築指導部から構造安全性の確保への配慮や、出火防止・火災拡大防止、避難安全の確保について十分に検討するよう求められております。これは一般的な建築物のように評価することができませんので、基本的には高度かつ専門的な知識を持っている第三者評価機関等の評定を受けることで、これらの検証を行った上で同等の安全を確保していきたいと考えております。以上でございます。

司会

ありがとうございます。最後に今後のスケジュールについてお願いいたします。

西野名古屋城総合事務所長

文化庁の現状変更許可について、昨年10月の文化審議会を経て11月に取得する予定でございましたが、現時点で石垣の調査検討が不十分であるということで、今のところいつ取得できるかは申し上げることはできませんので、これから検討協議を進めてできるだけ早く取得してまいりたいと考えております。

司会

ありがとうございます。お時間が来てしまいましたので、あとお1人とさせていただきます。この場に初めて来たという方いらっしゃいますか。ではよろしく願いいたします。

市民F

私は今回の復元事業に賛成で、史実に忠実に再現をしてほしいと思っています。説明でもありましたが、他の焼失した城と名古屋城が違うところは完全な復元ができるところで、やはり今復元したとしても、現存12天守に負けないくらい価値はあると思いますし、それは全名古屋市民の利益だと思います。今思っているのが、エレベーターの問題で、エレベーターを付けろというのは僕には若干乱暴に思えて、今回の事業

の目的を考えれば名古屋城の復元であって新しく観光施設を創出するわけではないと思います。誰もが楽しめるというのであれば、史実に忠実な復元で当時の天守を体感できるというのが絶対であると思います。そこで障害者も高齢者も等しく安全に利用できるには、やはり今進めていращやる新技術の開発であると思いますが、2022 年完成予定ではありますが、10 年でも 20 年でも私が死んだあと 100 年かかってでも、新しい技術できちんとした実測図通りの名古屋城を復元してほしいと思っているんですが、2022 年というのはなぜなのでしょう。時間をかけて、下手に対立を煽ってイメージが悪くなったり、エレベーターを付けるようなことがあるのは怖いと思っているので、両者が折り合えるように時間をかけてでも確実に新技術で上げられるような名古屋城にしてほしいです。以上です。

司会

ありがとうございます。2022 年を目標としているのはなぜか、エレベーターに関する対立があるが時間をかけて折り合ったらどうか、時間をかければ新技術ももっといいものができるではないか、というご意見でした。

西野名古屋城総合事務所長

ご質問いただきましてありがとうございます。2022 年を目指すということで、私どもはこの事業を計画する中で、この事業に関してできるだけ早く、もともとは 2020 年の東京オリンピックまでにとも考えておりましたが、その後の進捗の中で 2022 年が最速となっております。やはり早く木造天守を皆様にご観覧いただきたいという気持ちで、そしてそういう条件で技術提案交渉方式で募集をかけてプロポーザルで優秀な提案が挙がってきたということがありますので、計画に基づいて進めてまいりたい。しかし、だからといっていい加減な形で進めていくわけではなくて、しっかりとした内容を積み重ね、文化庁の許可を取って進めていく、それは当然のことでございますので、そういったことについてはしっかりと努力していきたいと思います。新技術につきましても、確かに 2022 年よりもっと先により良い技術ができるかもしれませんが、私どもとしては竣工時に皆様にバリアフリーを実現するという考えのもと、募集してまいりたいと思いますが、その後の状況に応じてより優れた技術に改良していくとか、そういったことも考えられるのではと思っています。ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。進行が上手くいかず、折角手を挙げていただいたのに、今回ご発言できなかった皆様には申し訳なかたと思っています。色々なご質問をいただきありがとうございました。それでは閉会の時間となりましたので、最後に河村市長より一言ご挨拶申し上げます。

河村名古屋市長

ようおいでいただきましてありがとうございます。先ほど旭丘高校の話をしてしましたが、あれを壊すというときに、チェーンでぐるぐる巻きにして座り込んどったんですけど、アメリカの歴史的建造物の学者が

来まして、東海寺でタウンミーティングをやりまして、歴史的建造物について今を生きる人間が壊す権利はないと、そう言いました。びっくりしました。そういう考え方もあるんだと。その場合、それを上回るだけの道路を造るだとかね、なんかあれば別だけど、そもそも今の時代に昔から引き継いできたものを壊す権利がないと考えますと、名古屋のお城なんかは完全な図面が残っておりまして、333 年間大事にしてきて、歴史の中からつい最近、70 年前に失くしたものは、本物の姿で次の時代に引き継ぐことが、私河村さんももうすぐ死にますけど、これは責任でないかと思います。先ほど建築基準法の話が出てましたが、何を適用除外とするのかと、なぜ古いものを残すのか、コンメンタールという注釈書に書いてあります。任務だと書いてあります。私は、そういう気持ちで、今を生きる、私らの寿命はそうありませんから、過去の人類の叡智を次の時代に引き継いでいくことが仕事なんだという気持ちでやっとな、ということでございますので、僕からすれば皆さんそういう気持ちになっていただいて、折角図面がありまして、こんな巨大な木造建築物は世界中に無いですから。国宝一号だということ忘れんでくださいよ。二号は姫路城。こういう建物を 1000 年も 2000 年も残してって、孫の孫のその孫になりますけど、先祖ってこんなことやってきたんだなということを残していきたいと思います。今日はどうもサンキューベリーマッチ。ありがとうございます。

司会

以上を持ちまして「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を終了いたします。アンケート用紙は出口で回収しております。また、他にご質問がある場合はアンケート用紙にご記入いただければと思います。

当劇場がございますカルポート東の駐車場をご利用の方は、お帰りの際に駐車券の認証が必要となりますので、4 階ロビーの認証機で認証いただくか 3 階の劇場事務室までお越しください。認証された後は 15 分以内にお車の出庫が必要となりますのでご注意ください。なお回数券をお持ちの方や、障害者手帳等をお持ちの方で、減免手続きをされる方は劇場事務所にてお手続きをお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りください。

（６）シンポジウム（会場：鯉城ホール）の記録

① 開会

司会

お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより「名古屋城天守閣木造復元 シンポジウム」を開催いたします。私は、本日の司会進行を務めます、株式会社ソーシャル・アクティの林と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、本日のシンポジウムの進行について、ご説明いたします。まず、中京大学文学部教授の白根孝胤様より「写真史料で読み解く幕末維新の名古屋城」と題しまして講演をいただきます。講演につきましては録音、録画、撮影をご遠慮いただいております。予めご了承ください。次に名古屋市及び株式会社竹中工務店より名古屋城天守閣木造復元事業の状況について説明を行い、その後、会場の皆様からご質問などをお伺いいたします。ご質問のお時間には限りがございますので、進行にご協力くださいますようお願いいたします。シンポジウムの終了は、午後４時半となっております。

次に、本日お配りした資料についてご案内をいたします。受付で本日の資料とアンケート用紙をお配りしております。名古屋市、株式会社竹中工務店からの説明内容はスクリーンで映写いたしますが、お手元の資料でもご確認いただけます。また、アンケート用紙につきましては、お帰りの際に出口で回収いたします。なお、報道機関による取材が入っている他、記録写真の撮影を行っておりますので、ご了承くださいようお願いいたします。

はじめに開会にあたりまして、名古屋市長河村たかしより、一言ご挨拶申し上げます。

河村名古屋市長

はい、それでは、ぎょうさんの方においでいただきまして、サンキューベリーマッチ。今日は中京大学の白根先生の話でございます。今ここでしゃべっとりましたら、中京大学なんかには三英傑のへんの古文書がぎょうさんあるらしいです。河村さんもいっぺん勉強にいりゃあと話がありまして、これはありがたあこって。今日はなんか幕末の尾張藩と名古屋城の話が出てくると思います。有名なのは城山三郎さん、作家がおるでしょう。あの人、名古屋の人ですけど、「冬の派閥」というのを書いてござる。幕末に、御三家筆頭だで、本当は最後まで幕府を守って戦わないかんのに、ころっと薩長同盟の方に変わるわけです。その時の有名な青松葉事件と言うのがあって、今県の体育館がある横に碑が建つとりますけど、突然、何人だったな、切腹を申し付けるの。３人か４人かだったかな。家老ですね。朝命により…ちょっと言葉は忘れましたが、切腹申し渡すということで。これは切腹ですけど、打ち首にした人も入ると14、5人だったですね。突然。尾張藩はなんやしらん、突然と官軍の錦の西郷さんの方に付いたということで、そのおかげで、内戦が食い止められたと、そのへんですこれ。これは言われてますけど。どえりゃあ悲しい出来事だったという話は有名だった、有名というより秘密にされていましたね。きっとこれは。そんな話も聞きながら、城の中で突然の切腹だったもんで。城山三郎さんも書いてありますけど、戦国時代と違うから、首を落とすと言ってもいっぺんで落とせなかったということで、大変だったらしいです。ということがありましたと。そんな話も大いに楽しみにしながら。ということでサンキューフォーカミングトゥデ

イ。ありがとうございます。サンキュー。

② 講演「写真史料で読み解く幕末維新の名古屋城」

中京大学文学部歴史文化学科教授 白根孝胤氏

司会

続きまして、「写真史料で読み解く幕末維新の名古屋城」と題しまして、中京大学文学部教授の白根孝胤様より、ご講演をいただきます。白根先生は日本近世史をご専門とされており、徳川將軍家と大名家との関係に着目し、尾張藩正史の展開をテーマに研究を行っていらっしゃいます。皆様、拍手でお迎えください。

(白根孝胤氏 講演)

③ 名古屋市からの説明

司会

白根先生、誠にありがとうございました。皆様、改めて拍手でお見送りください。

それでは続きまして、名古屋城総合事務所所長西野より名古屋城天守閣木造復元事業に関し、説明いたします。

西野名古屋城総合事務所長

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。ただ今ご紹介いただきました、名古屋城総合事務所所長の西野と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。これから、名古屋城天守閣の整備の概要、それから進捗状況について、ご説明をさせていただきますと思います。

まず最初にこれまでの経緯でございますけれども、平成27年12月に天守閣整備事業の事業者の募集を公募型プロポーザルという形で行いまして、翌年の3月には優先交渉権者として竹中工務店様を決定させていただきましたというところでございます。それから約1年間かけまして、議会においての審議をいただきました。その中で天守閣木造復元の基本設計、その他の予算をお認めいただきまして、平成29年5月に竹中工務店と基本協定、そして基本設計業務等委託契約の締結を行ったというところでございます。そして7月には、天守台石垣の調査を開始いたしました。また、天守閣木造復元への寄附、金シャチ募金と名前を付けましたが、こちらを開始しました。昨年12月までのおよそ1年半の期間で、市民の皆様をはじめ多くの方々からご協力をいただきまして、約3億2千万円の寄附をいただいているところでございます。平成30年度に入りまして、昨年4月に基本設計に引き続きまして、実施設計の契約を締結しております。また、5月には木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針、こちらの方を発表いたしました。7月には主要な構造部材、柱や梁あるいは土台、そういった部材の木材の手配・製材をする契約を締結しております。こういった木造復元の計画では、昨年10月に文化庁文化審議会に諮問していただいて、11月には事業を進める

ための現状変更許可を文化庁からいただく、そんなふうに考えておりましたが、現在、有識者の方から天守台石垣の保存に対する対応が不十分だというふうに言われておりまして、10月の諮問には至っていない、そういう状況でございます。

続きまして、基本設計その他業務の内容ですが、大きく4つの項目がございます。まず基本設計業務ですけれども、史資料に基づく天守の姿の作成、すなわち通し柱の位置や木材の樹種、仕口・継手や屋根、壁の仕様について検討を行いました。また、防災避難や構造解析、付加設備について検討も行っております。続きまして、法的手続きに必要な書類の作成業務ですけれども、復元するために必要な文化庁の現状変更許可を取得するために必要な書類の作成や、消防法の手続きに必要な書類作成を行っております。また、その他設計業務といたしまして、天守閣復元に必要な仮設建築物の設計図の作成を行っております。その他調査業務としまして、史実の調査、ボーリング等の地盤調査、天守台の石垣調査や発掘調査を行っているところでございます。

そして、昨年4月に締結しました実施設計の業務ですけれども、大きく設計業務と調査業務に分かれています。設計業務としましては、天守閣復元のために必要な設計図の作成、構造解析、現状変更許可を始めとする法的手続きに必要な書類の作成、積算業務などを行っております。また調査業務としまして、史実調査や現天守閣記憶伝承調査、地盤調査などを行っております。

今年度実施いたしました有識者会議の開催状況が、こちらのご覧のとおりでございます。天守閣部会を5回、石垣部会を3回、ご覧いただいている内容で行っております。有識者の方々の意見をお伺いしながら実施設計、それから石垣調査を進めております。

入場者数の推計ということで、これは昨年度実施いたしまして調査に基づきまして、まとめたものでございます。この調査では、平成28年度の入場者数実績192万人、こちらを基にしまして名古屋城への訪問意向のアンケートや、リニア開業などの社会情勢の影響を踏まえまして入場者数を推計しています。名古屋城内において、来場魅力が上昇するイベントなどの開催効果を見込んだ高位シナリオによりますと、2022年の木造復元ができました直後の2023年に422万人を見込んでおります。その後、入場者数は減少しますが、リニアの名古屋までの開業効果、また全線開業効果などで増加いたします。その後微減傾向となり2071年まで346万人前後で推移すると、そういうふうに見込まれるという結果でございます。

天守閣木造復元の基本的な考え方でございますけれども、本事業は歴史時代の建築物等の遺跡に基づき、当時の規模・構造等により再現する歴史的建造物の復元を行う。名古屋城の天守閣は法隆寺の頃から始まった日本の木造建築の1つの到達点、究極の木造建築物とも言われ、豊富な歴史資料をもとに外観の再現にとどまらない、史実に忠実に完全な復元を行おう。そして市民の皆様の中には「一旦焼失しているので復元しても本物の天守ではない」というご意見もいただいておりますけれども、名古屋城天守閣というのは、市民の精神的基柱であり誇りでありますので、悲しい歴史的事実を経て昭和実測図あるいは金城温古録など豊富な歴史資料に基づいて、戦災で焼失する前の本物の姿に復元し、世界に大きく発信してまいりたい、大変意義の大きな事業であるというふうに考えているところでございます。

復元案の検討ですけれども、今申し上げましたように名古屋城については昭和実測図や金城温古録、先ほどの講演にもありましたけれども古写真、そういう歴史資料が大変多く残されております。こういった

資料が復元の根拠となる重要な資料になりますけれども、史実に忠実な復元をするために復元根拠資料を紐解いて復元案を検討しているところでございます。主な検討項目といたしまして、通し柱の位置、柱や梁の樹種、屋根や壁の仕様などご覧のような項目を検討しております。今後も引き続き、復元根拠となる資料をしっかりと検証しまして、史実に忠実な復元のために検討を続けてまいりたいと考えております。

新たに付加する現代技術ということですが、今申し上げたように史資料に基づきまして当時と同じ材料・工法により復元を行いますけれども、復元する建造物の構造、復元後の管理活用の観点から、防災上の安全性の確保が必要となります。このことは、文化庁の史跡等における歴史的建造物の復元に関する基準の中で歴史的建造物の復元として定められているものでございます。言い換えますとこれに従わなければ復元することはできない、そういうことになります。そこで今ご覧いただいています区分、構造補強、防災避難設備等、バリアフリー、こういった観点から現代技術による対策を検討しているところでございます。

それから、昨年5月に発表いたしました木造復元天守の昇降に関する付加設備の方針でございますけれども、まずエレベーターの設置につきまして、内部エレベーターは柱、梁などの主要な構造材を切断しないと小型のエレベーターしか設置できない、通常の車いすや電動車いすが利用できないということから、設置をしないこととしております。また、外部エレベーターについては、都市景観条例を定めて優れた都市景観の形成を進めている中で、景観計画により名古屋城の眺望景観の保全を図るとしておりますので、設置しないこととしております。そういったことで、この基本方針としましては、史実に忠実に復元するためエレベーターを設置せず、新技術の開発などを通してバリアフリーに最善の努力をする。それから可能な限り上層階まで昇ることができるよう目指し、現状よりも天守閣の素晴らしさや眺望を楽しめることを保証する、そういったことも掲げております。

また新技術の開発につきまして、国内外から幅広く提案を募る。協議会を新たに設置し、障害者団体等当事者の意見を丁寧に聞くことにより、誰もが利用できる付加設備の開発を行う、などを掲げているところでございます。

この付加設備の方針を公表しました後ですけれども、昨年の7月と11月の2回、企業が現在保有する、この関連する技術について、直接説明をしていただく説明会を開催いたしております。また、この後ご説明しますが、新技術についての公募を検討しておりますが、公募スキームを検討するにあたりまして、国内、国外の実例等を調査を行った上で案を作成しているところでございます。昨年の12月末にバリアフリー検討会議を開催しまして、お越しいただいた各方面の有識者の方々から様々なご意見をいただきました。できるだけ早く公募条件を固め、来年度のできる限り早い段階から新技術の公募を始めたいといふように考えております。

それから、先ほど申しました企業の説明会に出席された方からいただいている意見の主なものを掲げております。障害にはいろいろなものがあり全ての人が安心安全に昇れるようにしてほしい、現時点ではエレベーター抜きではバリアフリーとは言えないのではないか、など昇降技術に関する課題についてご意見をいただいているところでございます。

それから、この昇降の関係の法令といたしまして、障害者差別解消法がございまして、ここでは、環境の

整備は努力義務でありまして、合理的配慮は義務というふうになっております。建築物に昇降設備を設置することは、環境の整備にあたり努力義務というふうになっておりますので、私どもは天守閣の木造復元におきまして、新技術により昇降に関する環境の整備を行い、その上で実施に伴う負担が過重でない範囲において、必要かつ合理的な配慮により障害者の方にも楽しんでいただく、そういうふうを考えているところでございます。

それから公募スキームですけれども、木造天守閣の復元は2022年に目指しておりますので、それまでの4年間で段階的にコンペを行っていきます。来年度のできる限り早い段階で公募を開始しまして、2年目から3年目に試作審査を行い、4年目である2022年に実用化というイメージで考えているところでございます。

木材の調達でございますが、今回調達を予定しております木材の種類と本数ですが、柱がヒノキ材で878本、梁材が松またはヒノキ材で1181本、その他大小天守の出入口部分の御門柱や冠木がケヤキ材で12本、土台がヒバまたはベイヒバで252本、計2323本となっております。土台部分につきましては外国産材であるベイヒバを使用することも予定しておりますが、現在、竹中工務店からは、できるだけ国産材でやっていくということで、国産であるヒバを使えるよう調整しているというふうに聞いております。また昨年の11月にテレビ等で取り扱われました、岩手県の松材の月山松という非常に大きな松材を提供していただきました。元々は外国産のベイヒバを使う予定しておりましたところでございますけれども、それを国産材で対応できるのではないかとというふうに考えております。また、現在木曽ヒノキを集めることは非常に難しいというふうに聞いておりますけれども、名古屋城の築城には木曽ヒノキが使われていたという記録がございます。そういったことから、できるだけ主要な部分には木曽ヒノキを使っていくように、今調整していると竹中工務店より伺っているところでございます。

それから、天守台石垣の関係ですけれども、名古屋城は特別史跡でございますので、ここで整備を進めるためには、本質的価値を構成する天守閣の下にあります天守台石垣の現在の状況を調べ、それを適切に保存して行くための方針、具体的にどのようなスケジュールで方針を実現していくかという計画、そういったものを立てていく必要がございます。私ども平成29年度からそうした目的に立って各種の調査を行っております。平成29年度には歴史的な資料を調べる史実調査、根石と呼んでおります石垣の一番下の基礎の部分の状況を調べる発掘調査、測量調査を行っております。今年度もそれに引き続きまして、発掘調査、測量調査、足場をかけて石垣の石の状態を調べ、石垣のカルテを作成する現況調査、さらには石垣の裏の状態を調べるレーダーによる探査や、石垣の間にビデオスコープを入れまして中の様子を調べる、そういう調査をやってまいりました。

今年度調査の一部でございますけれども、左側の写真をご覧くださいますと、小天守台の南側の地点になりますが、写真中央、赤丸で囲んでおりますが、掘り下げているところに見えている石がありますが、おそらく石垣の最も下の基礎になる根石だと思われます。これは天守が創建されました慶長の時代、1610年頃になりますがその時に据え付けられた石だと思われますが、当時の位置を保っておりまして変化はしていないというふうに判断をしております。また右側、これは小天守の西側で行った発掘調査ですけれども、少し掘り下げたところで石垣の前面に小さな石が敷き詰められたような状況が確認されております。

この遺構がなぜ築かれたかは今後検討が必要ですが、江戸時代を通じて天守台石垣が管理され、手を加えられた、そういうことが分かる遺構となっております。

石垣カルテ、カルテは人間の体の状態を管理するカルテがございまして、その石垣版ということになりますけれども、石垣の各面の状態、石垣を構成するそれぞれの石の状態を調べてまとめていっているものでございます。今ご覧いただいておりますのが大天守台の北側の面の石垣カルテとなります。上の方には積み直しライン（昭和期）と書かれたところがございますけれども、この赤い線、これは現在の天守閣を再建する時に石垣を積み替えたと思われる範囲を赤い線で示しております。また中央の下の方に赤い網をかけた部分がございます。こちらは石垣が前面に大きく前に膨らんでいる範囲を示しております。天守台石垣の中では最も変状の度合いが大きい部分だというふうに考えておまして、石垣を保存していく上での対処方法を検討する必要がある部分だというふうに考えております。

それから背面調査でございますけれども、上段に示しておりますのは天守台石垣の西面と北面をレーダーで探査した結果になります。皆様からご覧いただきまして左側が西面、右側が北面になります。北面は先ほど申しましたが大きく孕み出した部分がありますけれども、ここでお示したレーダー探査でちょうどその部分を調べておりますけれども、孕んでいるところも背面は他と同様な様子であったということがこの調査からは見ることができます。今後さらにデータを分析して孕み出しの実態や原因などを検討してまいります。下の段は、石の間にビデオスコープを差し込みまして、石垣の裏側を映した写真でございます。今後石垣の現況をしっかりと調べていくために裏側の状況もよく調べる必要がある、そういうふうなことでございます。

今申し上げたような調査を行いまして、昨年ですね。天守台石垣の保全と安全対策というものを取りまとめました。この結果としましては、ここに3点に掲げておりますが、昭和の現天守閣建築時などに大規模な手が加えられていること、戦時中、天守閣が焼失した際に石垣も火を受けておりその石が劣化していること、大天守台北側に顕著な孕み出しが見られること、以上の3点を問題点として把握しております。そして、それに対応するための保存・修復の方針、それに従った手順などを整理いたしました。

そして、整理した天守台石垣の保全と安全対策、これを盛り込んで天守閣整備の基本計画書として文化庁の方に提出していこうというふうにしてまいりました。それに先立ちまして、有識者の会議にお示しをいたしました。7月13日の会議、石垣部会の中では、石垣の保存方針が不十分であるということを指摘されておまして、この時点で文化庁への基本計画書の提出は断念しました。その後、さらに石垣の評価や保存対策について再検討を行いまして、9月1日にもう一度打合せを行いましたけれども、石垣部会の了解は得られていないということでございまして、基本計画を提出することができず、最初に申し上げましたように10月に開催された文化審議会には諮問されるには至らなかったということでございます。9月の時に石垣部会の構成員から、文化財石垣保存技術協議会に相談し保存方針等を再検討することを提案されておりますので、現在も石垣保全についての再検討を行っているというところでございます。

文化庁の許可の取得に向けまして、今度どう進めていくかということでございますが、石垣の保存方針につきましては、今申し上げましたように文化財石垣保存技術協議会と相談しながら検討をしてまいりたいというふうに考えております。それから文化庁に提出する基本計画書につきましては、天守台石垣の保

存のための検討を石垣部会に諮り、石垣部会の了解を得て、文化庁に基本計画書を提出してまいりたいというふうに考えております。木造天守閣の竣工でございますが、文化庁の技術的な助言をさらに受けながら、現状変更許可の見通しを立てて、優先交渉権者と協議をした上で2022年12月末の天守閣竣工を守れるよう引き続き努力をしてまいります。そういう意味でも、できるだけ早く文化庁から天守閣木造復元のための現状変更許可をいただけるように努めてまいりたいというふうに考えております。

最後に、現在の名古屋城についてでございますけれども、天守閣ですけれども、現在の天守閣は耐震性が非常に低いということがございまして、それに伴い昨年の5月に入場を禁止というふうにいたしております。しかしながら、その翌月6月には本丸御殿が完成いたしました。また11月には西南隅櫓を常時公開してるというふうなことで、皆様に新しい名古屋城の魅力を楽しんでいただいております。また、さらに魅力を高めるために、名勝二之丸庭園の保存整備、それから搦手馬出石垣の修復整備、ちょうど先ほど埋門の話が出てましたけれども、その近くに搦手馬出というところがありますが、そちらの石垣の修復も今行っています。そういったことを引き続き進めてまいります。それから、皆様よくご存じのように、昨年3月に金シャチ横丁というのがオープンいたしまして、定番の名古屋めしですとかあるいは気概溢れる店などが出店されておまして、名古屋城では飲食面でも楽しんでいただけるふうになっておるところでございます。名古屋城といたしましては天守閣の木造復元を着実に進めるとともに、今申し上げたような新しい魅力を1つ1つ充実させて皆様に楽しんでいただきたいというふうに考えております。ご清聴ありがとうございました。

④ 株式会社竹中工務店からの説明

司会

ありがとうございました。それでは引き続きまして、株式会社竹中工務店の末永より設計について説明いたします。よろしくお願いいたします。

竹中工務店

竹中工務店の末永と申します。よろしくお願いいたします。

名古屋城天守閣木造復元について、現在までの進捗をトピックス的に紹介いたします。まずは1分20秒ほどのムービーからご覧ください。

(CG ムービーを投影)

現在、設計契約と木材調達契約の一部を締結して、設計情報、木材情報を詳細に検証し特定しています。資料に遺された史実を収集し、それらの中から建築情報を掘り起こして、その建築情報を検証・特定していきます。

名古屋城については豊富な資料が残っています。江戸時代後期から編集された金城温古録、昭和7年から継続して実測され、戦後の昭和27年に完成した昭和実測図、昭和15年度から記念事業として撮影されたガラス乾板写真、その他の古文書を含めて史実を掘り起こしています。様々な資料を比較検証して史実を特定していく事例を紹介いたします。

小天守地階、東南側の内観写真です。扉と壁はこの写真には写っていません。昭和実測図にも土間と室との境には扉や壁の姿が見られません。しかし金城温古録の御蔵之間図には、二重線で扉のようなものが描かれています。

赤く囲んだ部分が扉だと思われます。

金城温古録の御金蔵の所に「三口ある」、つまり3つ入口があったとの記述から、扉と壁があったことが分かります。開き戸の記述があり、施錠されていたことが分かります。御蔵之間図の赤線部分が御金蔵につながる開き戸の部分だと推察されます。また図には、小天守上り口にも同じく扉の表現がされています。緑線部分です。

一方で、昭和実測図には一筋の敷居が描かれています。青線の部分です。扉の内側にさらに引き戸があったことが分かります。

ガラス乾板写真を子細に見ていきますと、御金蔵入口の柱の両側には上下3か所に金物が残されています。この金物に開き戸が取り付けられていたと思われます。階段入口部分は、柱中ほどの高さに蝶番が残っています。ここは敷居から梁まで達する扉で厳重に閉ざされていたものと思われます。

また柱内側の敷居と鴨居に溝が彫られているのが分かります。青線の部分です。扉の後ろにさらに引き戸があったことが確認できました。

扉、引き戸、壁を新たに昭和実測図に書き込むようになります。

このようにして複数の資料から掘り起こされた史実は、様々な角度から検証し特定していきます。建具の形状や材種などの分かる資料はありませんので、他城郭や名古屋城に現存する櫓などを参照に特定していきます。そして天守閣部会において有識者の先生方に確認していただきます。

次は井戸についての検証事例です。これはガラス乾板写真、大天守地階井戸です。左側の昭和実測図の一階平面図には井戸の記載はありません。右側の宝暦の修理後に描かれた名古屋城御天守各層間取之図には井戸が描かれています。2つの図を子細に見比べてみると、昭和実測図には井戸の穴を塞いだ跡と排水溝を塞いだ跡が描かれています。

下の図は、金城温古録にある井戸の絵2点です。左側が地階井戸の絵、右側が1階井戸の絵と思われます。昭和実測図には記載のない1階の井戸は、明治以降に撤去されていたものと考えられます。

このようにして検証し特定された情報は、3次元モデルとして立体的に整合性を確認します。3次元モデルでは、平面と断面の整合性が視覚的に判断できます。大天守の3次元モデルです。3次元モデルは任意の箇所でも切り取ることができます。黄色の線は3次元モデルの断面線となります。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込み、重ね合わせます。

階段のある部分で拡大して見ますと、これは昭和実測図です。3次元モデルの中に昭和実測図を取り込むと立体的に確認ができます。このようにして史実を特定して書き起こした3次元モデルの整合性を確認しています。

昨年11月に名古屋城天守で使われる最も大きな木材である松の伐採を行いました。大天守3階の梁に使われる長さ約16メートル、太さ60センチを超える松です。赤く塗った部分です。

床面から約6.5メートルの高さにある、二部屋にまたがる丸太の梁です。

岩手県奥州市の月山神社の山にある月山松です。地元の方々が長らく大切に見守られてきた樹齢 330 年の大きな松ですが、名古屋城のためにぜひ使っていただきたい、との決心をされて地元の方々の見守る中で伐採を行いました。

このように史実を掘り起こし、様々な角度から検証・特定して、史実に忠実な名古屋城天守閣木造復元を目指します。ご清聴ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。

それでは、準備のためステージを整えますので、ご来場の皆様はそのまましばらくお待ちください。

⑤ 質疑応答

司会

お待たせいたしました。ここからは、名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問をいただきたいと思います。

最初に会場の皆様からのご質問にお答えする職員等をご紹介します。

皆様から向かって左側、前列の右より、河村市長です。

名古屋市観光文化交流局の局長の渡邊でございます。

名古屋城総合事務所所長の西野でございます。

主幹の蜂矢でございます。主幹の荒井でございます。

主幹の村木でございます。主幹の服部でございます。

そして右側ですが、株式会社竹中工務店でございます。

それでは、ただ今よりご質問を伺います。ご発言につきましてはできるだけ多くの方からいただきたいと思っておりますので、お 1 人様 3 分で簡潔にご発言いただきますようお願いいたします。なお 2 分 30 秒になりましたら私の方からお知らせしますので、残りの 30 秒でお考えをおまとめいただきたいと思います。

また、手を挙げていただきますと、係の者がマイクをお持ちします。ご発言はマイクを通してお願いいたします。それでは、どなたかご質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。

ありがとうございます。こちらの女性の方からお願いします。

市民A

本日のシンポでございますが、今までの 5 回の説明会と違うと思って来ましたが、講演会が加わっただけであとは全く同じでした。これではシンポと言えないと思います。5 回の説明会を通して思うことは、様々な意見が積極的に出されましたけれども、それに対し、かみ合った回答がほとんどなく、市長さんのまずは木造復元を期限までにやらなければならないんだという話を押し付けられるばかりで、長々

と聞かされ続けました。一応市民の意見は聞くが、そちらの決めたとおりにやらせていただくという説明会でしかありません。まず、その姿勢を改め、市民のまじめな質問にきちんと答える誠意と、問題点があれば後戻りし、市民に隠さず情報公開をすべきと思います。とても民主的なやり方に思えません。木造化復元の押し付けに私は反対します。市民の税金をもっと大切にに使っていただきたいと芯から思います。

司会

何回も来ていただいたようで、ありがとうございます。今いただいたお話は、ずっと5回も説明会をしてきたけれどもずっと答えが同じだったというお話だったと思います。どなたかお答えいただけますか。

河村名古屋市長

誠実にやらさせていただいてますが、名古屋市民のため日本のため、また世界が文化財というのをどういうものを私達の今生きる世代が残していくべきなのか、またそんなことやらんでいいのかというところへの重要なポイントについて、いろいろ僕は精一杯お話をさせていただいているというふうに思っております。

司会

今日はたくさんの方がおみえで、私の方でミスってしまって申し訳なかったのですが、できる限り、今まで5回やってきましたけれども、今日初めて質問したいんだけどという方を優先してお話いただければと思います。よろしくお願いします。では、他にどなたかいらっしゃいますでしょうか。そちらの後ろの方、お願いします。

市民B

3つの点を指摘したいと思います。1つは市長さんの公約と市民の声との関係ですね、これは大阪の場合の都構想というのがありまして、市長さんも府知事さんも都構想を公約して当選されております。圧倒的多数で当選してしまけれども、実際に市民の本当の意見を調べますと、反対だったわけですね。都構想、都構想と言っているうちはよかったんですけども、実際に考えますと、大阪市がなくなるとなると皆さん考え込むわけですね。今回の名古屋の木造についても木造、木造と言っているうちはついていきますけども、今の城を壊してそれから新しく建てるとなると、おやおやということになる。市民の意見というのは上澄みの所から一番下のマグマまでいろいろありますので、マグマのところまできちんと意見を、市民の声を聞いてほしいというのが、まず1つあります。

それから、今のお城を建てるにあたって、準備委員会というのが発足しまして、たくさんの方々が方針を決めて実行された。私の手元にある資料でいきますと、準備委員には当時の桑原知事、小林市長はもちろんですけども、市議会議長の鈴木脇蔵さんとか名古屋商工会議所会頭の神野金之助さん、名古屋工業大学と名古屋大学の学長さん、中日新聞の社長さんとか、そういう人が集まって、今度は燃えない城、メラメラと燃えない城を造るんだと決めたんです。それが1つです。

司会

すみません、あと 30 秒くらいでお願いします。

市民 B

オール名古屋で呼びかけてお金を集めて、できたわけです。

それから 3 番目に指摘したいのは、その方針に基づいて当時の文部省の文化財保護委員会事務局というのがありまして、その市川せいさくさんという技監の方が名古屋城担当と辞令が出まして、名古屋に来てやりました。

司会

すみません、もう 3 分経っちゃったんですけど。

市民 B

このようにみんなの力でやりましたので、これを壊すとなるとそれだけの討論をしないとまずいと思います。それをお願いしたいと思います。

司会

ありがとうございます。今のはご意見ということでしょうかと思いますが、公約・選挙結果と実際の市民の声がちょっと違うのではないかと、少し聞いてほしいというお話と、今のお城もオール名古屋で造ったんだよというお話だったかと思います。

西野名古屋城総合事務所長

ご意見いただきまして、どうもありがとうございます。今の天守閣はお話がありましたように、戦争で焼けてしまいまして、多くの皆さんの力で再建されたというのは我々も十分認識しております。そして近代の建築物として 60 年の歴史を持っておりますので、一定の評価ができる建築物であるとうふうに考えております。しかし、耐震性能が低いというのがございましてこのまま放置することができないということが明らかになっております。その中で平成 29 年度にタウンミーティングなどを 16 区で開くなど、耐震改修をするのか、あるいは木造復元をするのか皆さんにもお話を申し上げてきた。そして 2 万人アンケートをして、木造復元に 6 割の賛同をいただいたという経過の中で事業を進めてまいっておりますので、私どもとしましては皆様の意見をお聞きしながら木造復元を着実に進めてまいりたいと考えております。よろしくをお願いします。

司会

次の方をお願いします。こちらの前の眼鏡をかけた方。

市民C

（個人名）と申します。ちょっとあがり症なのですみません、5 つ質問をしたいと思います。早口になるかもしれませんが、会場の方、今からクイズを出しますので考えてみてください。加藤清正が石垣を造って、大小天守が建っていて戦争の火災で燃えて、昭和 30 年代に鉄筋コンクリートで建てたお城はどこだか分かりますでしょうか。この会場の方だと名古屋城と思うかもしれませんが、もう 1 つお城があります。熊本城、あそこも全く同じです。2016 年に熊本地震で熊本城の天守は石垣が崩れまして、今工事をやっています。名古屋城も熊本地震と同じ地震が今来たら、名古屋城も同じ被害が出るはずで。同じ本丸内に木造で建てられた当時から残っている宇土櫓というのがあり、これはそのまま建物も石垣も見事に残っています。河村市長は予言者みたいで、熊本地震が起きる前に名古屋城は木造でとご発言されております。ぜひとも竹中工務店さんもやってみえるかもしれませんが、宇土櫓についてもうちょっと調べていただいて、耐震性能について、今度の天守に取り入れていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。昭和 2 年に鉄骨補強もしたらしいですので、そのあたりを調べられて、今度の天守の参考にしてください。

2 番目に行きます。天守を昇る階段は、現存の松本城や犬山城は急で昇りづらいと思われる方がいらっしやると思います。あれは城主が最後、敵に攻められて、最上階で自害する際に、敵がすぐに上がらないようにするためにやっております。

司会

あと 30 秒くらいでお願いします。

市民C

わざと上がりづらくなっております。階段の部分は今は平和な世の中ですので、簡単なスロープの角度は昔の状態ではなく、上がりやすい状態にさせていただいて、できれば 4 階までは昇り降りのエスカレーターをつけていただくなどして、エスカレーターだと車いすが上がることもできます。

司会

3 分経ちました、すみません。

市民C

あとすみません、瓦が乗っていますけども、この間鑑定団で 300 万円のが出ましたけれども、是非とも今のお城を壊した後に瓦を販売するようにしていただくと 2 億円くらい儲かると思います。よろしくお願いいたします。以上です。

司会

ありがとうございました。すみませんでした。3 分経っちゃいました。今のお話ですが、宇土櫓という

のがあってその耐震など調べながら参考にしてやっていただけないだろうかというお話が1つ。

河村名古屋市長

熊本城との大きい違いは、熊本城は図面がないんですわ。エレベーターつけるということですが、市長に聞きましたら、「河村さん、うちは図面も実は何もないんだ、ということで名古屋城とは全く違うから自信もってやってください。皆さんにそう言っていただけたらええよ。」と熊本の市長がそう言っておりました。石垣の崩落も、熊本城の大天守の石垣は無傷というか12センチ下がっただけです。熊本城も大天守は8本のコンクリートパイルが実は打ったって、それに支えられとるんですわ。名古屋城もご承知かどうか知らんけど、どえらいコンクリートの固まりが中に入っておりましてそれで支えとる、ということでございます。加藤清正建設の社長が造った石垣は相当大きなものだった。明治時代の濃尾地震、国内最大級の。あの時にもほぼ無傷だったというふうに聞いております。丁寧にやらないかんけど。あと宇土櫓は竹中さん、何ぞ知つとりやあす。

竹中工務店

宇土櫓をはじめ熊本城はご承知のように重要文化財の建物がたくさん残っております。その中の代表格の建物だというふうに理解しておりますが、基本的には熊本地震でのダメージをどのように耐震補強していくか、正に今そういったことを実施しているというふうにお聞きしておりまして、ご指摘のように、もしそういった情報があれば手前どもとしても、それを勉強させていただきながら、さらに今の耐震安全性の向上につなげるようなアイデアがあれば、それを取り入れていきたいなというふうに思っております。ありがとうございました。

司会

ありがとうございます。

西野名古屋城総合事務所長

続きまして、階段の関係でございますけども、先ほど私どもご説明させていただきましたが、歴史的建造物の復元ということになります。史跡の中で行うことですので復元ということになりますと、やはり史実に忠実に造らなければならないと。ですから階段も当時あった階段の形、それによって名古屋城というものが一体どういう性格のものかというのを、来ていただいた方にしっかりと体感していただける、ということもあると思います。そういう中で新技術によって階段を昇ることがご不便な方も昇っていただけるようにしようということで、私どもは一生懸命努力してまいりたいというふうに考えております。あと瓦の話もありましたけども、現在の天守閣のものをどういうふうに、この後に伝承していくか、また今あるものをどういうふうに多くの皆さんに還元していくかということにつきまして、私ども真剣に考えてまいりたいと考えておりますので、皆さん、よろしくお願い。どうもありがとうございました。

司会

ありがとうございました。では、そちらの赤いお洋服を着ていらっしゃる方、お願いします。

市民D

（個人名）でございます。千種区からまいりました。この復元のことについてなんですけども、前にも1回集会に出たんですけども、文化庁の方から許認可がまだ下りていないというフレーズがすごく耳に止まりまして、この辺の進捗状況と、今名古屋市中で集会をやっている状況がどんなふうになっているんでしょうか。河村市長は市長になる前は国会議員でいらっしゃったはずで、中央省庁の許認可の仕組みを十分心得ていらっしゃるかと察しますけども、なぜ文化庁が許認可を出さないんでしょうか。行政の長としてもぜひ手腕を発揮していただいて、許認可に向けてもう1歩前進としていただきたいと思いますんですけども、許認可を巡る進捗状況について、もう少し踏み込んだコメントを出していただけるとありがたいんですが。お願いします。

司会

はい、ありがとうございます。文化庁の許認可の状況ですね。

河村名古屋市長

それではご指名でございますので。今まで丁寧が上にも丁寧に文化庁には説明してきました、もう4年くらいになるのかな。私が直接行っておりますので。文化庁はとにかく丁寧にやってくださいよと。最近盛んに言われるのは、コンクリートで復元した城は、よおけあるわけですよ。それがみんな、もう寿命がちょうど同じことなんですけど、みんな来ると。だから名古屋城はどうなるかと、ものすごいでかいわけですよ。なんとそこに国宝一号であった最大の名古屋城が一番最初のリーディングケースになってきたということで、丁寧にやってちょうということは言っておられますので、最大限やっております。ただし先ほど所長も言いましたが、地震で危ないもんでね。だから工事やっとする人も危ないわけです。ただ地震だもんで、そんなもん来れせんわと言えはそんだけのことです。Is値0.14と数字がありますけど、あれより低い建物は、名古屋において大須の中公設というのがあったんですが、あれはもう取り壊しました。そういう状況ですので早く着手して、木造の方が耐震性は、やり方もありますけど、いいんですわ実は。軽いから、やっぱり。そういうことでいろいろ話をしております、市民の願いだともう1つでかいのは、国のものなのかと、やっぱり市民のもの、尾張名古屋のものじゃなかったのかと。そもそも僕は、どちらか単独ということはないと思いますけど、両方でもいいですけど。そう言われますとそうですわなと。私はここまで、いろいろ皆さんの民意を受けて、先がたのアンケートでも6割が賛成でありますし、ものすごい決意を持って当たっていきます。ご安心をいただきたいと思います。

司会

ありがとうございます。では、一番前の若い方。

市民E

6 ページの木造天守閣の昇降について書かれていて、それはいいんですけども、そこにつながっていく8 ページでは新技術による昇降の計画を2022年に実用化できる。これを河村さんが2020年にエレベーター方式をやめますわと言って、代わりに前倒しでこういう方向でいきますよということを発表できるのかできないのか。河村さんが言うのか次の人が言うのか選挙が関わってくるのでどうとも言えませんけれども、期間を早めにして、いつも「エレベーターを付けろ」と言っている障害者に対して早めに安心を持たせることができないのかどうか。それから、次の項目にそれがかかってくるのですが、毎回出てくる石垣部会の方というのか承認というのか、それがとにかく早く出せるようにできないのか、それを市側に聞きたいです。

竹中さんが出番がなくてただいるだけなので聞きたいのですけれども、市長が2022年までにできますと言っていることに関して、竹中さんは2020年6月までに合意できなかったら間に合いませんよなどリミットをどういうふうに認識しているのかということと。今ある名古屋城の瓦などで使えるものがあるんだとしたら、再利用とかして、市が出す505億円を例えば450億円くらいに削減していく方向でお願いしたいという意見です。お願いします。

司会

ありがとうございます。今のは新技術について2年目の2020年試作品審査とありますが、早い段階でエレベーターに代わる新技術というのがこんなものですよというのが市民に対して説明できるのでしょうかということと。それから先ほどから出てます石垣の方の調査、あと文化庁の承認の方は状況はどんなでしょうかということ名古屋市側にということですね。

それから竹中さんの方には、2022年までに名古屋は実用化できるよ、と言っていますが本当にできますかという話と、今ある名古屋城の部材について使えるものがあれば再利用していただいたらどうでしょうかというご提案でした。最初の所からよろしいですか。

蜂矢名古屋城総合事務所主幹

まずは新技術のことについてご意見いただきました。新技術につきましては8ページの資料に書いてあるように、公募形式につきましては段階的に審査する技術コンペというのを考えております。当然2年目、3年目の試作品審査につきましては、できる限りオープンな形で皆様にお伝えできるような形でやっていきたいというふうに考えております。今新技術について、障害者団体の方だとか色んな方からエレベーターに代わらないんじゃないかというご不安な意見をいただいておりますが、これはひとえに新技術というものが今目に見える形でないものから、不安な気持ちになってみえるものだと考えておりますので、できる限り皆様の目に見えていただくような形でやっていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。

村木名古屋城総合事務所主幹

それでは石垣についてご説明させていただきます。石垣につきましては、名古屋城天守台の石垣について現在の状態をよく調べて、それに対してどのような保存のための処置をしていくかという方針というか考え方をまとめなさい、という所が問題になっているかと思います。調査につきましては、今年度今も足場が天守台にかかっていますけどもかなり調査を進めておりまして、ある程度のところまで調査が進んできたと認識しております。その現状をどのように把握して、それに対してどのような考え方で保存していくかということにつきましては、先ほどの説明の中にもありましたけれども文化財石垣保存技術協議会という所の役員のコンサルタントの方からご助言をいただきながら方針等をまとめております。そういったものをまとめておりますので、石垣部会にお諮りしてご承認いただくという手続きになるかと思いますが、できるだけ早く認めていただけるように今努力しております。

司会

ありがとうございます。では、竹中さん。

竹中工務店

竹中工務店といたしましては、昨年の春に名古屋市さんと基本協定を結びまして仕事をやっておりますが、その中で2022年の12月に木造復元を目標としてやるということで現在まで来ております。現状、文化庁の許認可等が下りておりませんので、着手についてまだ具体的にどう変えるかというようなお話しはしておりませんが、色んな工法等がありますので、現状はできる限り2022年12月を順守できるよう頑張っていきたいと考えております。

司会

よろしいですか。

竹中工務店

あともう1つ、現状の天守閣の中で再利用できるものはないかというご意見ということで承りました。現在、確かに現天守の価値は非常に高く、皆さんご承知のように思われているということで、色々と調査を進めております。そういった中で、ご意見いただいたようなものがある場合にはしっかり活用させていただこうというふうに思いますから、よろしくお願いいたします。

司会

ありがとうございます。では、次の方をお願いします。前のお隣の方。

市民F

東区から来た（個人名）ですけども、先ほどの石垣について非常に一市民の目から見ると遅々として進

んどらんというのが正直な感想で、作業が中断しておるなという感じで、計画通り進むんだらうかという不安が非常にあって、中断しとるから次に進めないという感じで、そういう意味で不安は正直言ってありますね。毎年。

それと先ほど言ったエレベーターの件ですけども、身障者の方にもし失礼になったらお詫びしますが、そもそも名古屋城の天守閣や櫓というのは軍事施設でありまして、そもそも上がれないようになってるわけで、攻めれないようになっているわけです。自衛隊の戦車に簡単に乗れないのと同じですね、それはある程度何らかの新技术でやるというのは当然のことで、逆に言うと大事な部分を変えてしまったら、こちらと見たら見る意味がないし、お金の無駄遣いになるだけです。単なる東山動物園とかそういうものとはちょっと性格が違うよな、という気が私はします。法律が今と昔ではだいぶ違いますが、できるだけ元に近い形でやるというのが一番のこちらの期待なんですよね。それが明らかに全然違うものだというものに、果たして楽しいかな、見る価値があるのか、そんなところでございます。失礼しました。

司会

ありがとうございます。今のは、石垣の作業を中断しているけれど大丈夫ですかというお話と、それから天守閣のエレベーターの件で元々普通の人は上がれなかったんだよね、元々あったものの形にしてくれるからこそ見る意味があるんじゃないの、というお話でした。ありがとうございます。それでは石垣のことについて、またすみません。

村木名古屋城総合事務所主幹

石垣のことをご指摘いただきました。作業が進んでいない、中断しているように見えるということでご心配をおかけして大変申し訳ありません。調査をして方針をまとめるということをやっておるわけですが、先ほどのご説明と重なる所も多いんですけれども、調査の方につきましてはかなり進んでまいった所でございます。特別史跡の本質的価値という所を構成する石垣ですので、丁寧にやらせていただいております。時間がかかっております。大変ご心配をおかけしております。先ほど申し上げたとおり、少しでも早く作業が進みますよう努力しておりますので、よろしくお願いします。

司会

ありがとうございます。

河村名古屋市長

エレベーターについて僕はおっしゃる意見と同じで、エレベーターつけますと柱 10 本梁 30 本取らないかん。それを取りますと中の構造が弱くなるから鉄骨建造物にしなければならない。となりますと、元々と違う建物となります。私達はこれから後 1000 年、2000 年の子どもさん達に何を残すのかと。何も残さんでもいいのか、全く新しい物でいいのかと。本質的な問題がありまして、私らは過去の人類の叡智で造ってきたものを残していく。車いすでも車いすでなくても、目が不自由な方でも、なんとか上がっていた

だくよう努力する。そこは本物であるものを楽しんでいただく、ということなんで、何でもええで上がってまっつと。完全に変えてしまうのは、僕はこの方がバリアを造ることになるのではないかと思いますね。そう思えてならんのですけども。

司会

ありがとうございます。あと3人ということでお願いします。真ん中から後ろの方と、あと2人ですけど、今挙げられた方と、女性の方と、今の3人の方でお願いします。

市民G

今市長が耐震性のことをおっしゃったんですが、現在のコンクリート天守は戦後市民の精神的基柱であり、もはや歴史的建造物になっている。耐震性、長寿命化というのは大阪城や、ましてや今度テレビ塔、これが改修することでテレビ塔の社長さんが100年持つとおっしゃっている。これは竹中さんがおやりになるのだからそうでしょうね。それからまず石垣の問題ですが、現在の搦手馬出の修復工事、これこそ遅々として進んでおりません。学芸員の方がおっしゃるには予算がないから、これ何年もずっとおやりになってます。ましてや二之丸庭園の悲惨さ、草ぼうぼうの状態、木もろくに育っていないような状態。ご存知かと思いますが、江戸城の和田倉門から入った二の丸庭園、同じ名前ですが全然レベルが違います。こんな状態なことを放っておける名古屋市が、新しい木造天守を造って管理ができるのか、非常に疑問です。

それから質問ですが、エレベーターがなくなった、避難コアがなくなったということによって505億円の予算が減ってきますよね、それが果たして幾らくらい減っているのか。ましてや基本設計を出された段階で概算見積を出されていると思いますので、そのへんのあたりの所を具体的にどのような形にされているのか、まず竹中さんにお答えいただきたい。第二は名古屋市さんに関しては、先ほど申し上げたようにいったい今の管理の状態でこれから新しい建物を造ることによって新しい管理ができるのかと、それから耐震性等々が今のコンクリート天守で持つことは明らかなわけですから、改めて考え直していただきたいというのが僕の意見です。

司会

はい、ありがとうございます。まずはご希望に沿って竹中さんから、エレベーターがないと505億円の予算が減るんですか、どのくらい減るのでしょうかというお話と、名古屋市さんの方にはできてからの管理の問題を今どのように捉えていらっしゃるかとということと、先ほどから出ていますが耐震性についてご確認いただきたいということでございます。竹中さんからお願いします。

竹中工務店

現在、基本設計が完了して実施設計をやっております。ご指摘のように技術提案書を作成した段階では、耐火ガラスで囲まれた避難階段、そして現在エレベーターは中止とお話をちょうだいしております。ただあくまで、基本設計が完了した段階で、1つ1つ予算については実施設計をまとめた上で各工事項目ごと

に名古屋市様と価格交渉をしながらコストをセットしていくということで、今全体の総枠という観点の中ではこの段階ではご説明することができない状況でございます。ただ全体の枠としての505という数字の中では収めるべく努力をする所存でございます。

司会

ありがとうございます。次は名古屋市さん、お願いします。

西野名古屋城総合事務所長

現在の名古屋城についてご指摘いただきまして誠にありがとうございます。おっしゃるとおり名古屋城の管理の中で、植栽の手入れですとかそういったものにつきましてはなかなか十分にできていなかった、そういう面がございまして、私どもとしましては、今年度予算で、名古屋城の中及び周辺の植栽をより頻度を上げて剪定などを行う予算をお認めいただいて、今執行しております。以前よりも良い環境を保つよう改善をしているところでございます。今後とも皆様のご意見をお聞きしながら、よりよい管理運営になるように努めてまいりたいというふうに思っております。

それから、耐震性、長寿命化のお話でございます。確かに大阪城は長寿命化というふうなことを行っております。私どもとしては長寿命化をした場合に何年持つかということが明確には言い切れないということとを認識しております。大阪城の場合は図面が残っているわけではありませぬので、私どもが今やろうとしている復元ということはなかなかできない。そういうこともあってそういう道を選ばれていると思います。私どもは耐震化かあるいは残された図面、史実に忠実な復元かということを検討してまいりまして、皆様のご意見も聞いた上で木造復元ということで進めていることですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

司会

ありがとうございます。では前のブロックの通路側の眼鏡の男性の方。

市民H

守山区の（個人名）と申します。本日はありがとうございました。一市民として本丸御殿、世界の金シャチ横丁は非常に満足しているんですけども、歴史的な景観という意味で行くと、石垣の上に本来多聞櫓があるべき所に、植栽というか木が植わっていますよね。そうするとどうしても石垣自体の強度が弱くなるという話を以前伺ったことがあったんですけども、その部分で名古屋市の方どういうふうに。全体的的な名古屋城の景観としてみた場合に多聞櫓の再現は不可能なのかということが1つ。

あと金シャチ横丁ができて、ものすごく食事をするのが便利になったんですけども、あとテレビ塔がホテル化されるというお話を聞いたんですけども、宿泊施設がやっぱりないんですよね。そうした場合に多聞櫓の部分の部分を少しでも防犯面ですとか防災面でいろいろ問題があるかもしれないんですけども、多聞櫓を外見的に復活させて中に宿泊施設を設けたりだとか、今後の構想というか発展的な部分をもしお聞かせ

いただければと思ってお質問させていただきます。

司会

ありがとうございます。多聞櫓を外周りは昔のもので、中は宿泊施設したらそうかということと。

市民H

石垣の強度について

司会

はい、ありがとうございます。多聞櫓の所の石垣の強度と、それから再現と活用ということですね。

西野名古屋城総合事務所長

ご質問いただきましてありがとうございます。石垣の所に松が埋まっていますが、当然根は張りますので石垣に対して悪影響はあるというふうに思います。今多聞櫓のお話がございましたけれども、私も実は今年度の4月、名古屋城全体の保存活用計画を作りました。その中で多聞櫓につきましては復元の声もいただいておりますので、今後復元も検討していくというふうにしております。松を外して多聞櫓を復元する、そういったことについては検討してまいりたいというふうに思います。ただどういう利用の仕方をするかということにつきましては、この史跡の中でどういう活用ができるか、それも併せて検討したいと考えております。ありがとうございました。

司会

ありがとうございます。では最後の方で、そちらの女性の方、よろしくお願いします。

市民I

西区から来ました（個人名）と申します。よろしくお願いします。何かおしゃべりするという程は何も考えていなかったんですけども、私は単にお城マニアで色んな所に見に行きます。やっぱり名古屋城の隅櫓よりも小さなお城ばかりで、日本一大きなお城というのをお城の番組でシルエットで映した時に、名古屋城ってなんて大きいんだろうと思いました。これ以上大きなお城が今現存していて、しかも河村市長が木造にしてくださいというこんなチャンスがあり、こんな時に生きてられるのはすごく幸せなことだと思います。これは実現して欲しいと思いますし、日本中の人、世界中の人に名古屋にはこんな城があるんだというのを見てもらえたら、本当に素晴らしいことだと思います。だから何かしてくださいとか、質問とかはございません。本当に実現してください、よろしくお願いします。

司会

ありがとうございます。

(会場から)

もう1つだけ質問させてください。

司会

ちょっと時間ですので、ごめんなさい。今のご意見をいただいて何かコメントありますか。締めでいきますか。今のお話をいただいたのも含めて最後のご挨拶をお願いします。

河村名古屋市長

最後のご挨拶を兼ねまして、ずっとタウンミーティングをやっている、ようおいでいただきました。ありがとうございます。私が言っているのは、今ありがたい話をいただいて、若作りしておりますがまあ私も70で、近いうちに八事に行かなかんわけですね。生きとる人間というのは何か伝えていくのか、伝えていいのかということは考えないかんとおもいますよ。自分がただどうのこうのということではなくて、任務があるんです。色々考えますと、国宝一号だったわけですよ。それも戦争で燃えちゃったわけです。333年間も大事にしてきた建物。それと詳細な図面が残っている、大阪城とか熊本城の話もありましたけどないんです。本当に残した人達はどういう気持ちで残したのかなと。昭和5年に国宝一号に指定されて、昭和6年が姫路城で二号。昭和7年から20年かけて戦争後も含めて詳細な実測図を書いてくれた。僕はやっぱり、まさか空襲でとは、まさかと思ってますけど、火事で燃えてまったり。そういうことがあるか分からんで、その時はもう1回、江戸時代を通じてあんでか城は名古屋城しかなかったんです。1600年代に大阪城も江戸城も両方とも燃えてますから。国宝一号になったようなお城をですね。もう1回、何かあった時に同じものをきちんと造って、1000年、2000年と尾張名古屋の子ども達に残してきやあよと、そういう気持ちでやってくれたんじゃないかと、僕はそう思いますけどね。その気持ちを受けて、残していくために自分達の世代で精一杯やると。僕は社会的任務でないかなと、毎晩酒飲まなやとれん人間ですけども。やっぱり僕は名古屋の人間として、本物のお城をちゃんと造って、これは世界に1つしかありませんから、こんな巨大な木造建築物で図面が残るとるようなのは。それをずっとあと1000年、2000年引き継いでいくと。それが名古屋の私達の仕事じゃないかと、任務、英語で言うとミッションです。そんなふうに思っております。色んなご意見がありましたら、どうぞお寄せいただいて。サンキューベリーマッチ。ありがとうございました。

司会

多くの方にご質問いただき、ありがとうございました。お手を挙げられたのにご指名できなかった方、申し訳ございませんでした。では、閉会の時間がまいりましたので、これにて閉会とさせていただきますと思います。皆様どうもありがとうございました。

以上を持ちまして「名古屋城天守閣木造復元 シンポジウム」を終了いたします。アンケート用紙は出口で回収しております。また、他にご質問がある場合はアンケート用紙にご記入ください。

本日は誠にありがとうございました。お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りください。

3 当日のアンケート結果

(1) アンケート集計

① 回収数

	件 数
熱田区役所講堂	28
中区役所ホール	104
瑞穂文化小劇場	26
緑文化小劇場	27
東文化小劇場	25
鯨城ホール	92
合 計	301

② 居住地

	件 数	構成比 (%)
名古屋市内	267	88.7
市外	27	9.0
無回答	7	2.3
合 計	301	100

③ 年齢

	件 数	構成比 (%)
10 歳未満	1	0.3
10 歳代	3	1.0
20 歳代	2	0.7
30 歳代	15	5.0
40 歳代	28	9.3
50 歳代	54	17.9
60 歳代	95	31.6
70 歳代	78	25.9
80 歳以上	19	6.3
無回答	6	2.0
合計	301	100

④ 説明会・シンポジウムにおける名古屋市・竹中工務店からの説明の理解度

	件 数	構成比 (%)
理解できた	189	62.8
理解できなかった	34	11.3
どちらでもない	41	13.6
無回答	37	12.3
合 計	301	100

⑤ 説明会・シンポジウムにおける名古屋市・竹中工務店からの説明の理解度
(年代別)

	理解できた	理解できなかった	どちらでもない	無回答	合計
10 歳未満	0	1	0	0	1
10 歳代	1	0	2	0	3
20 歳代	1	0	1	0	2
30 歳代	13	1	1	0	15
40 歳代	20	1	6	1	28
50 歳代	36	5	8	5	54
60 歳代	59	13	13	10	95
70 歳代	46	10	6	16	78
80 歳以上	11	0	4	4	19
無回答	2	3	0	1	6
合計	189	34	41	37	301

⑥ 名古屋城に対する理解度

	件 数	構成比 (%)
理解が深まった	71	77.2
理解が深まらなかった	5	5.4
どちらでもない	7	7.6
無回答	9	9.8
合 計	92	100

⑦ 名古屋城に対する理解度 (年代別)

	理解が深まった	理解が深まらなかった	どちらでもない	無回答	合計
10 歳未満	0	0	0	0	0
10 歳代	2	0	0	0	2
20 歳代	1	0	0	0	1
30 歳代	6	0	0	0	6
40 歳代	11	0	2	0	13
50 歳代	11	1	1	2	15
60 歳代	22	2	2	1	27
70 歳代	14	2	2	4	22
80 歳以上	3	0	0	2	5
無回答	1	0	0	0	1
合計	71	5	7	9	92

(2) 説明会におけるアンケート内容

① 説明会 アンケート用紙

名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会 アンケート

○ 本日の説明会について理解できましたか。

・理解できた ・理解できなかった ・どちらでもない

○ 本日はご来場ありがとうございました。ご意見・ご感想を、ご自由にお書きください。

【あなた自身についてお答えください】

年 代	1. 10 歳未満	2. 10 歳代	3. 20 歳代	4. 30 歳代	5. 40 歳代
	6. 50 歳代	7. 60 歳代	8. 70 歳代	9. 80 歳以上	
居 住 地	1. 名古屋市内		2. 市外		

ご協力ありがとうございました。本アンケート用紙は、出口で回収させていただきます。

② 熱田区役所講堂

※空欄は無回答

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	今の名古屋城では価値がない、木造復元によって歴史に残るものにしなければという事が理解できない。戦後、何もない時代に市民が寄附で燃えない城にしたいと作られたのが今の城です。耐震化して残してほしい。今日の説明会、2022 年に造りたいというだけで何の説明にもなっていない。階段の角度について史実に忠実に正しいながら検討するといふ。石垣部会の理解も得られない。そんな状況で文化庁に申請できるのか、それも不明。バリアフリーも不明。市民を納得させるものがなにもない。
名古屋 市内	30 歳代	理解できた	国宝だった名古屋城に(限定で)天守閣から眺めてみたい人達も、日本国民が「国宝」なのにてっぺんまで行けないのは、なんとか障害者様 etc が納得できる名古屋のシンボルをこれから生まれてくる人々のために、訪問される世界中の沢山の方たちに美しいナゴヤをバーチャルでなくて「魅せて」あげて欲しいのです。よろしくお願い致します。
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	2022 年までにつくるという期限つきの理由が分かりません。経済効果があるという根拠は全くありません。市長はやるべきことをやらず、福祉・教育・医療など予算を削り、切実な市民の要求をタナあげにして観光や名古屋城のことばかりです。地域の店が閉店され、シャッター通り多いなかで、まずやることの優先が何もわかっていない！こんな人が市長なんだとひとりでも多くの人に知らせたい。事実も知らされずハダカの王様のようにのぼせている。市長失格！名古屋城私物化するな！自分の財産でキフでやって下さい。
名古屋 市内	40 歳代	理解できた	木造復元には賛成だが、スケジュールの遅れが気になる。早く 2022 年は無理と表明すべきではないか。年に 1 度この説明会に来ているが、発言者にかたより(毎回同じ人)があるのではないか。本物復元による経済効果を数字で説明することは必須なのではないか。持ち合わせていないではまずいと思う。
名古屋 市内	30 歳代	理解できた	数年前から何度も説明会が開かれる職員さんのご苦勞を考えてしまいました。おつかれさまです。入場料は寄付として現時点でも値上げしてよいと思います。(「〇円のうち〇円は再建に利用します」等)。500 円は安いです。城再建自体は反対ではありませんが、市

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			長が城のことばかりで他の政策は大丈夫なのかと心配しています。人気かせぎではなく、(唐突に子どものことを気遣ったりして、本当に考えているのか疑問です。)名古屋圏の経済の活性化にも目を向けて欲しいです。
名古屋市内	30 歳代	理解できなかった	木造再建には賛成だが、現状では不可能。部会理解も文化庁の許可も実際の費用便益も実現の見込みがない。市長は民意を得たというが、それに納得している人間はいない。2 万人アンケートにおいて、もっとも多数派だったのは期限を定めない木造化である。当時 2020 年再建を希望していた民意は最も少なかった。もし民意というのであれば、再度現状の進捗と課題の状況をさらけ出した上で、再び 2 万人でも 5 万人でもアンケートをとればよい。事業を進めるのはそれからでも遅くはない。また名古屋市、竹中工務店だけではなく、石垣部会、天守閣部会、文化庁らも一堂に集めた市民会議をより長い時間をかけて開いてはどうか。それだけの手間をかける価値がこの事業にはある。
名古屋市内	50 歳代	どちらでもない	行政職員の本気度の確認の為、来場。内容は資料を見れば見当がつく。竹中工務店へ「おまかせ定食」ではないのか？
名古屋市内	50 歳代	理解できた	去年の説明会の内容とかわりばえしていない。
名古屋市内	50 歳代	理解できた	名古屋城はシンボルなので、復元されることを期待しています。子どもからお年寄まで楽しめる名古屋城であって欲しいと思います。
名古屋市内	70 歳代	理解できなかった	天白区内で区民から天守かく木造にしてという要望はきいたことがない。もうこんな事業やめたらどうか。民意がないよ！
名古屋市内	70 歳代	理解できた	・現在の進捗状況が良く理解できた。 ・反対者(木造復元)が意見を述べる場となっているので、この説明会のあり方を見直した方が良い！
名古屋市内	70 歳代	理解できなかった	構造内容難しい ①専門的で素人には理解出来ない。 ②入場料が 500 円か 1,000 円ですか or 400 円ですか。 ③入場者数が 150 万人が 350 万人に増えるとは思えない。これが出なければどうなるのか。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			④木造化によるトレードオンしたものは何か。どれかをギセイにすることをカクゴしなければならない。
名古屋市内	50 歳代	理解できた	早く木造復元を進めてほしい。完成を心待ちにしています。大変ですが頑張ってください。
名古屋市内	70 歳代	理解できた	市長さんの「本物を見せたい」という考え大賛成です。障害者の方達への心遣いもよく理解できました。障害者の方達や反対の方達の考えは自分達のことばかりしか考えていないなあと感じます。
市外	50 歳代	どちらでもない	初めて参加しました。推進派・反対派の方々の意見を聞けて話題の名古屋城の理解が深まりました。
名古屋市内	50 歳代	どちらでもない	・事業の必要／不必要の議論 ・事業の進め方の議論 ・税金の使途の議論 ・技術的議論 自分の中で木造化に「大賛成」に至るまでの材料を得たとは言い難い。税金の事はさておいて、意味が無い様に思える。復元とバリアフリーはむじゅんする。中途半ばなものは作らないでほしい。完全100%の復元を達成するため、サクラダファミリー方式(いつまでたっても完成しない)を提案します。
名古屋市内	30 歳代	理解できた	・岩手県の奥州神社から月山松を持って来ている件、とても興味をそそられました。月山といえば、月山鍛冶、熱田神宮とのつながりが思われます。そういえば名古屋城天守閣では例年春頃に日刀保の方々が刀剣を展示してくださっていたかと思います。天守閣が閉じているあいだは、こうした展示はないのでしょうか？ ・現存天守閣をどのように取り壊す予定か楽しみにしています。可能であれば、迫力ある映像を作品として残してほしいものです。 ・2023 年に名古屋城の写真をたくさん後世に残してくださった徳川義勝を主人公にした大河ドラマ「葵の残葉」が放送されたらなああと切望しているのですが、そのようなご計画はありますか？ ・いろいろ質問もしてみたかったのですが怖くてできませんでした。私は昔の(国宝1号だった頃の)建築の再現に挑戦するのは賛成です(雇用の創出、技術保存等の観点で)、リニア開通前のこのタ

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			ミングで計画をすすめられているのも戦略的で理にかなっていると思いますよ。応援しています。頑張ってください。
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	・史実になるべく忠実な復元をおねがいします。 ・全国のお城の再建が進むような事業にしてください。 ・名古屋城全体の魅力向上のための事業をおねがいします。 ・石垣も大事だが天守もないと観光的活用にもすびつかないと思います。 ・一部の反対の人の意見ばかりで賛成の人の意見は 1 人だけだった。
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	小供たちも老人たちも車イスも登れるようにして下さい。一度燃えてしまったので、全員が登れるようにして下さい。お城は戦い為に作ったものですが今は戦いのためのものではない。
市外	50 歳代	理解できた	前と内容がかわらなかった。
名古屋 市内	70 歳代	理解できなかった	昨年度の説明会からどれだけ進んだのか。昨年 5 月以降、木造でエレベーターなしのまま木造化をすすめるように見えるが。石垣問題含めスケジュール見直しの説明もないのはなぜか。竹中さんは本気で防災対策のない木造を作るつもりなのですか？
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	石垣部会のメンバー、天守閣部会のメンバーの方のお話が聞きたかった。
名古屋 市内			たいへんかたよった説明である。去年はなかったのか。 ・市民の方を集めた昨年のパブリックコメントが一切触れられておらない。まるでなかったようである。HP からも消されたようです(出すのもおそく)その結果、反対 140 賛成 9 は文化庁にきちんと出したか。司会もまずく当局答えなしだのに終わっている。 ・ウソで始め秘密で進めています。荒唐無稽を長々と。 ・バリアフリー説明会は失礼なひどいものだった。企業努力で、発言者の方にもむいて独自にきちんと進めて下さい。いたずらにショールームのようなところでみせることはいりません。できてもないもので語るべきではない。 ・外国材まであつめる一環境破壊である。 ◎どのようなデザインなのか市民に示していない。黒ぬり。安全か、ひなん可能か示せないのに進めてはならない。バリアフリーか

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			障害だけでなく弱者にも優しくない木造。 ・史実に忠実一本物—という市長は誤認がある。出来るものは整合するか、◎とはまっこうから矛盾する。石垣をいためないで解体設計などできないでしょう。 ☆工程表もなく、お題目のように 2022 といっている。CG くらさはこのくらいなのでしょうね。明るいはずはないですね。魅力なしで 2 度リピートないでしょう。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	・皆で名古屋を盛り上げるために頑張りたい。 ・木造復元で名古屋を元気にしてほしい。 ・色々ケチを付けるのは簡単ですが決まった事ですので皆で応援しよう。 ・市の方も頑張っているが市民も頑張りたい。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	実現に向けて前向きに進めて下さい。
市外	40 歳代	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	・現天守閣をもっと大切にして下さい。 ・木造に建替する必要はない。
名古屋 市内	70 歳代	理解できなかった	職員の皆さんお疲れ様です。2 回目からの改善の提案 ・挙手している人全員の発言保障。 ・市・竹中の説明時間の短縮。40 分→25 分 質問 40 分、回答 20 分、計 60 分 あいさつ等 5 分 こうすれば、市側の説明 50 分、市民の発言 40 分で平等になるのでは。 ・市・竹中は質問にきちんと答えてほしい。 ・市長の独演会に来たのではない。市長を壇上に上げず、始めと終わりの挨拶で良い。市の職員が責任をもって答えてほしい。

③ 中区役所ホール

※空欄は無回答

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	50 歳代		1 級障害者、杖使用、ヘルプカード有 会場地下 1 階から階段で地下 2 階へ下りただけでとても大変でした。誰も手助けしてくれませんでした。区役所ホールですらこの現状で城のエレベーターどうこう言うところの場合か？せっかく並んでいても階段でみんなに追い抜かれ、とても嫌な気分でした。 本丸御殿にも手すりをつけて下さい。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	河村市長下記につき必ず検討してください。市民サポーター員 早急に着工できるように最大の努力をしてください。 「金シャチ募金」の募金方法について。 一度にそれなりの金額はできなくても何年かにわたって募金できるように。その場合は合算(累積)して記録できるようにされたいと考える。現在の方法では募金する度に記録一対応するようになっている。例えば 10(20) 万円を 5 回の累計 50(100) 万の場合でも、当人は 10 万円(20 万円)のみ寄附したと記録されることになっている。現在でコード No を振込票に記録するようにすれば簡単に集計することができ、管理も簡単に可能。
		理解できなかった	石垣工事と天守は同時に工事が出来るかどうか？コンクリートパイ ルは木造天守で使用できるかどうか。液状化現象は問題ないか。 大変楽しい説明会で有意義でした。観光を考慮した天守閣(木造) を考えた名古屋城にして欲しいと思います。犬山城にしても姫路城 にしても素晴らしいと思います。国際的にもパワースポットになる様 な名古屋城を作って欲しいと思います。付帯設備については車い すで上部まで行ける様な設計にできないか歴史的建造物の復原と どう関連する問題だと思います。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	早期完成を安全に。
名古屋 市内	80 歳以 上	理解できた	参考になりました。質問の時が楽しかったです。ありがとうございます。 日本が誇れる我が名古屋市の“名古屋城” 私は幼少の頃より 大好きでした。名古屋城二つ作る、どういことなるかおもしろい発 想ですネ。障外者の方々ももっと理解してひとときの考えでエレベ ーター設置とは如何なものなのか今一度判断してみて下さい。あま

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			りにもわがままばかり言っていたら日本国民は今後どうなるのか今一度ゆっくりと冷静に判断して下さい。同じ語句が出てきましたのは私の頭の中が混乱している今日この頃です、日頃でも名古屋城拝んだことがあります私は必ず名古屋市役所の方をむいて朝夕手を合わせています。河村市長ありがとうございました。
名古屋市内	70 歳代		
名古屋市内	70 歳代	理解できなかった	? かみ合っていない。
市外	70 歳代	理解できた	
名古屋市内	80 歳以上	理解できた	現在の国宝とされている城について。バリアフリーの問題についての修復としての考えはどうでしたか。上記の国宝の城のバリアフリーの対応はどうでしたか。私は忠実に再建されることを希望する。
名古屋市内	50 歳代	理解できた	
名古屋市内	50 歳代	理解できた	説明会の参加者が予想外に少なく、市民(国民)の関心が少ないと感じました。
名古屋市内	70 歳代	理解できた	
名古屋市内	60 歳代	どちらでもない	質疑応答の時間をとって活発な意見交換が出来たと思います。
名古屋市内	60 歳代	理解できた	市民には様々な立場の人がおられ、意見も様々です。本丸御殿再建の際も色々あったと記憶していますが立派な完成を見て、静かになったように思います。丁寧に史実に忠実に立派に再建されることで、多くの市民の期待にこたえられるのではと思います。
名古屋市内	70 歳代	理解できなかった	司会者は前回のようにきちっとしたコーディネータを配置すべき ・CG で紹介された内部はモノトーンで無味乾燥の感をうける。各階ごとの見所はほとんどないので会館 2500 人、最大限で 700 人余がどうやってその階で時間をすごすのだろうか心配になった。 (御殿との差が大きい) ・復元というより新しい文化財を作るという視点でとりくむべき。 ・本物であるヤグラの保存を優先して行ってほしい。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			・石垣を損傷するハネ出し工法は再考すべきである。 以下アンケート用紙以外の別紙を添付 【史実に忠実より安全確保を第一に】 昨年7月の天守閣部会で防火・避難計画の考え方が披露された。その対策1に、3～4階に御成階段の延長として木造階段を増設すること、4～5階の入場制限を行うこと、がある。 ①階段の割付について ・階段は、御成階段が40～54.66度、表階段が37～55.7度と一般的な公共施設の30度、住宅の45度に比べて急であり、蹴上は略25cmと通常の18cmに比べて段差が大きく、かつ割付も均等ではない箇所がある。ここを秒速0.3mで1分間に30名が昇降することとしている。 ・階段の割付が均等ではない点に関して、有識者から「安全性を考えて均等な割付とするのか、史実に忠実であることを重視した割付とするのか」という指摘事項に対して、当局より「史実に忠実な割付で今度試験体を制作し、その安全対策も含めて安全性や許容範囲の検証・確認等を行う予定です」との回答であった。 ・史実でない階段を増設することは安全確保に必須との判断と思われるが、このこと自体が「史実に忠実である」ことに反するものなので、階段の割付も安全を優先して史実に忠実よりも安全優先とすべきである。屋根の構造の詳細など非常に詳細に調査し再現しようとしている一方で、方針として必要な改造・改善は行うとのことであるので「寸分たがわぬ復元」というような説明は控えて欲しい。 ・階段の試験体モックアップは10月に制作することとしているが、隅櫓で50度程度の階段は現存するので実験はできるのではないかな。 ②避難について ・火災時には2ケースがあり、北階段以外で出火した場合は北階段(表階段)を安全区画として北階段から避難するケースと、北階段で出火した場合は南階段(増設階段と御成階段)を使用して避難するケースがある。5階から4階へは1箇所なので。いずれの場合も

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			同じ階段を使用するしかない。北階段で出火した場合は北階段を区画するので5階は区画される区域に入ることになるがどのようにして避難するのか。 ・「大天守における同時最大在館者数を2,500人とし、これをピークとして考えている」中でこの2500人を各階密度均一(0.5人/㎡)として5階は136人とされた。 ・2500人には2%(50人)の歩行困難者がいるとして、何分で避難できるように考えているか。 ・5階を136人で制限すると一日2万人、平準化して一時間2500人に対応するには18回転、5階に滞在できるのは3.26分となる。これは実際的な数字か？もっと回転数は小さくなり、結果入場者数は2万人に到達しないのではないか。以上
市外	40歳代	理解できた	石垣をしっかりと補強した上で、木造天守が完成するのを楽しみにしています。建築過程も見てみたいと思っています。
名古屋市内	50歳代	理解できた	子供の頃の記憶で、日本のお城にのぼるのは怖くて暗くて階段が急で、すべて大変なものだという確かな記憶がある。そもそもお城というのは誰もが快適にのぼれるようにすること自体、「お城」という機能を正しくとらえる機会を失わせることになると思う。一段一段あぶない階段を一生けん命のぼるとき、体力によって同行の人間についていけなかったりするの、お城にのぼるということで、それ自体も観光経験になっていくと思います。単に高い所なら他にもあるが、お城という特殊な空間についての文化的意味も考えていきたい。EVと新技術についての議論について、公募と新技術という性質上、早期に具体化するのは難しい。ただ「木造」という海外に類をみない建造物のEVにかわる方法について、もっと歩み寄りしながら良い方法へと進んでいくことを名古屋市は見られていると思うし、その名古屋市の中に全ての市民が含まれていると言う自覚をもって進めてほしい。
名古屋市内	60歳代	理解できた	・木造天守閣復元を絶対に進めて欲しい。 ・障害者団体が圧力団体化しているように見受けられる。非常に心配。これに負けず木造復元を進めて欲しい。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
	80 歳以上	理解できた	
名古屋市内	60 歳代	理解できた	説明会の資料がいただけたのでありがたいです。本日の説明会に参加してよかった。
名古屋市内	50 歳代	理解できた	木造復元に大賛成です。名古屋の将来のためにも国宝の名古屋城を作りたいものです。
名古屋市内	40 歳代	理解できた	史実に忠実な復元に賛成。今回の説明会の説明は、説明が早くて判りにくかった。もっとゆっくり話して欲しい。障害者が上がれるように「おもてなしかつぎ隊」を編成したらどうか。こんぴらさんのかつぎ屋さんのように名物になるのではないかな。
名古屋市内	70 歳代	どちらでもない	
名古屋市内	70 歳代	理解できた	歴史的建造物として残すのであればあまり外乱にまどわされず、本当に価値のある物を作ってほしい。
名古屋市内	70 歳代	理解できた	歴史的経緯や途中で経過が良く理解できました。是非復元工事を早期に完成していただきます様よろしくお願いします。
名古屋市内	60 歳代	理解できなかった	
名古屋市内	60 歳代	理解できなかった	エレベーターは必ず設置して下さい。
名古屋市内	60 歳代		もっと質疑が必要だと思う。お城の階段の昇り降り、これは結構きつい。見るだけでなく昇りたい。ぜひエレベーターをつけて下さい。今なら内にエレベーターをつけるのも可能だと思います。形は木造のお城、中に入るとエレベーター有。バリアフリーのトイレ有。
名古屋市内	80 歳以上	理解できた	天守閣復元は賛成です。ただそのための石垣の調査はしっかりしてもらいたい。
名古屋市内	60 歳代	理解できた	名古屋には名古屋城位しかないので(徳川美術館もあるが)木造復元は賛成です。ただ石垣の保存は大切で、しっかり調査してもらいたいと思います。
名古屋市内	60 歳代	理解できなかった	石垣の復元にどれくらいの時間がかかるのか。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	司会者の方が質問者の意見を重ねてくり返し言うのはやめて欲しい。なぜなら時間がなく、全員に(手をあげた人)答えるべきなのに、その時間がただでさえない。司会者は話しすぎ。河村市長は話しすぎ！河村市長のための城ではない。河村市長の要求をみたすためにつくようなものだ。まず市民の声をひとりでも多くきくべきだ。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	
名古屋 市内	80 歳以上	理解できた	史実再現が第一ですね。老人のエゴを否定する事。
市外	50 歳代	どちらでもない	
名古屋 市内	80 歳以上		木造復元には大賛成です。名古屋にはこれといった観光施設も無く、肩身が狭い思いをしている(他の都市に比べ)国宝の姫路、犬山、松本城などを見ても素晴らしい宝物です。市長のお話の様に国宝1号を復元することは誠に意義があり、100年先が楽しみであり、現代残す重要建築物となるよう期待しています。バリアフリーの問題大変ですが、100年先が国宝になるよう期待しています。他の国宝は全部エレベーターも無の状況です。最低のバリアフリーは必要と思いますが復元にご協力をお願いします。事故の無い様進めてほしいと願っています。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	本日は来場してみて有意義でした。
名古屋 市内	70 歳代	理解できなかった	98%の市民は無関心？？どうでもよい！賛成する人は1%しかいない。反対する人は1%以上もいる。こんな物件に多額の費用をかけるべきではない。即刻やめるべきだ。新技術とかバカげた説明をきいていると全体が信じられない。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	市長さんの考え方に概ね賛成出来ました。完全木造復元を楽しみにしています。今の名古屋城にはみ力がないですから！ただ22年完成には賛成出来ません。石垣のドラマを見たいです。十年は

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			長いですけど。現在の天守が危険と言うなら、木造復元が決まっているのなら先にこわしても良いのでは？
名古屋市内	50 歳代	理解できた	質問させていただいた者です。多くの人が江戸時代のままの名古屋城復元を期待しております。モンスタークレーマーに負けぬよう、再建をねがっております。エレベータの問題については、古来よりしよいこを使ったかつぎ屋さんがございます。名古屋城かつぎ隊を組織して、対応すれば良いと思います。
名古屋市内	60 歳代	理解できた	・建築は芸術のひとつと考えるので作品と同じです。歴史的な事実が重要と考える。私は忠実な再現のために中に入れない(上れない)ならば、それでも良いと思っています。設備より防火を最も重要に計画して下さい。(電気さえ不要なくらいに思っています) ・史料調査や現地の調査などにボランティアの市民参加のチャンスを下さい。(過程を楽しませて下さい) ・将来的に本丸前の馬出の再現もお願いします。 ・急がず確実に「本物」を作して下さい。
名古屋市内	60 歳代	理解できた	名古屋城を忠実に復元し、後世に残してほしい。
名古屋市内	50 歳代	理解できなかった	市長は木造復元を史実に忠実にどうしても作りたいという強い気持ちなんだと思いました。それを貫くのもまた良いかなと。
名古屋市内	70 歳代	理解できた	天守閣にエレベーター設置の有無については設置すべきでない。(理由) 400 年前の城という歴史的建造物の復元であり、史実に忠実に文化的価値を最優先すべきである。現代の鉄筋コンクリート造のビルと同等に扱うべきではない。姫路城、松本城にもエレベーターはない。バリアフリー対策は別途考える。名古屋市長の考えに賛成します。でなければ 500 億円もの費用をかける意味がない。
市外	50 歳代	理解できた	質問させて頂きましたが名古屋市民への EV 要否へのアンケートは実施して頂きたいです。現状は城好きでも何でもないプロ市民により、未来の文化財の価値を損ねさせてようと動かされています。多くの市民の冷静な意見を皆で共有出来ればと思います。そこで EV 設置希望が多い場合は、検討要かも知れません。その場合も、従来の天守 EV のような貫通型でなく、金沢城のような小規模の 2 階

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			分のみのものを複数付ける形にして頂きたいです。市・竹中の皆様のご健闘を心よりお祈り致します。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	江戸時代は3年くらいで建てたと聞いています。重機の無い時代に。堀川も作って石を運んだと聞いていますので今の時代、機械もあるのだから早く着工して死ぬまでに行きたいです。石垣に荷重がかからない工法で作るのでしょうかから早く完成してください。他の国宝の城もエレベーターはないですヨ。背中にしよって上るように。東門も早く作って欲しいです。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	木造復元してほしい。私が小学生で名古屋城に来た時、コンクリート造りでひじょうにがっかりしたのをおぼえている。
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	そもそも木造復元計画自体に無理があると思う。ムチャな計画を進めるより現天守を残すべきだ。
市外	60 歳代	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	図面を説明する場合、棒ないし赤点で指示されると分かり易いと思います。スクリーンが暗くて分りにくい。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	先日、愛媛県の大洲城に行ってきました。スタッフに聞きましたら16年前に市政何十周年の記念行事として木造再建されたとのこと。名古屋市からも職員が見学に来られたことがあるとのこと。こうしたもので木造再建のメリット等のレポートが広報でアナウンスして欲しい。個人的な意見ですが、姫路城でも昭和・平成と大規模な改修をしており、虫食い等で柱を新しいものに変えているため、全くオリジナルな城は存在しません。文化財的価値が見い出せる木造再建には賛成します。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	石垣に付いてよかった。
市外	40 歳代	理解できた	名古屋城復元の主旨を理解でき、たいへん良い機会でした。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	・思った以上に賛成の方が多く安心しました。意図的に質問者を区別していたのかも？ ・そもそもエレベーター設置推進者と市長とはかみ合わないのは新しい箱物を作るのと感じがいしているのと歴史的建造物の復元で

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			は話しにならない。 ・我々納税者は歴史に名を残し、募金もし、参加したいと思います。 1000 年後に残っているのであれば名も残る。忠実に復元して下さい。バリアフリーだけが世間ではもてはやされるのには？と思います。
名古屋 市内	60 歳代		ガウディのサクラダファミリアを思い出しました。地震が本当に心配ですね。安心安全な建物をお願いします。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	石垣の調査には池の水全て抜くテレビ番組を利用して調査をしては。費用でも節約出来るのでは。木材は式年せんぐうの古材を払下げてもらって節約してはどうか。
名古屋 市内	30 歳代	理解できた	姫路城など現天守閣に対応できるバリアフリーは大切だと思う。忠実な復元とバリアフリーの両立ができると思う。小天守行かいだんの横に本丸御殿にあるスロープをつくり、木製の段差解消パネルや天守内にも木製のスロープをつくることで、すぐに避難できたりバリアフリーの解決にもなるし、エレベーターがなくても昇ることができる。スペースやスロープの角度の問題もあるが、検討の価値はあると思う。エレベーターにかわる(コンペによる)昇降技術も 1 つだと思う。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	そもそもお城は観光用に造られた物ではない。EV は必要なし。
名古屋 市内	60 歳代	どちらでもない	復元に向けて今後二度と手をつけられないかと思う。安全、完全を目指し作製へ。
名古屋 市内	80 歳以上	どちらでもない	身体傷害者については別の考えで良い。
名古屋 市内	60 歳代		エレベーター設置要望等に対する問題解決策を聞きに来たが？のまま。「新技術」が明確でない。
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	
名古屋 市内	40 歳代	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	EV は NG !!
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	(1) 今回の市民説明会は市内各地で 5 回開催しているが昨年も各地域で多くの説明会があった。今回は「現状報告」であるので、中区役所会場の 1 回のみで良かったのではないかと思います。 (2) 木造復元方針は民意で決定(市長選挙、市議会議決)された事柄であるので、今後建築作業をたんと進めれば良いと思う。今後もし市民説明会を開催するのであれば、大会場で 1 回行えばよい。
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	・文化庁から許可を得てからでも良いのではないかと思います。 ・始めてから考えるのではなく、決まってからでもよいのでは。 ・耐震化として考え、他県などの資料なども考慮して考えては？ ・歴史ある石垣など文化を大事にしてほしい。 ・壊さずに出来る方法を考えるべき。 ・先人の歴史文化を大切に大事にしてほしい。 ・復元設計図があると言われるが？ ・環境のことも考えるべきと考える。 ・守ることも大切と考える。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	是非早期に完成させて名古屋のシンボルにして下さい。
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	今年 5 月に文化庁の許可が得られなければ 2020 年末完成は断念するのか？そもそもなぜ 2020 年末完成なのか？千田先生は完成時期ありきのスケジュールはそもそも無理だと言っている。名古屋市が本当に価値のある文化事業と考えているなら、じっくり取り組んでほしい。
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	そもそも天守閣木造復元は何のためか。最上階を展望台として使うためか。史実に基けば、天守に上がった殿さまはほとんどいない。観光客がぞろぞろ上がることがそもそも想定される天守の使い方ではない。よって最上階の立ち巡りはやめるべきである。
名古屋 市内	80 歳以上	理解できた	復元には賛成です。昔の急な階段もそのまま復元して登れる元気な人は登れば良いし(昔の人の足の体験もできる)身体的事情でそれが不可能な人は助けを借りれば良い。この時代だから、ロボット

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			の活用と大いにすべきと思う。2 年先にはかなりのことがロボットで可能なのではないか。一日の人数制限もあるいは必要かも知れない。
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	木造復元応援しています。ぜひ実現して下さい。
名古屋 市内	70 歳代		天主が重く危いという事がよく判りました。
市外	60 歳代	理解できた	河村市長の「本物の城を復元したい」という強い意欲が感じられた。私も史実に忠実な復元をして頂きたいと考えています。
名古屋 市内	70 歳代		今日の説明会とは関係ありませんが各席に設けられているテーブルが出てこなくて(出せない?)使いたいのに使えませんでした。やはりテーブルとして使いたいです。
名古屋 市内	60 歳代		①コロンブスのタマゴ ②江戸時代の(一国一城)武家御ハットを守る必要はない。 ③オリンピック方式をサイヨウ。 A オリンピック型名古屋城 B パラオリンピック型名古屋城(福祉城) (世界初) 最新の技術をほこる城 2 つ作る、500 年後の国宝をメザス。復元ではない。 C まず A を作り、その収益で B を作る(80 年? チクジョウ) 市長はお金をじょうほし、エレベーター派は時間をじょうほし、竹中さんは 2 つ作るのでコストをじょうほする。2 じゃなくて 3 の道をえらぶ。 尾張名古屋は城でもつ。先人のいくん。
名古屋 市内	60 歳代		「復元」ではなく「再建」と言う方が良い。例えば奈良興福寺「中金堂」は再建と言われている。戦後復興期に市民が費用の 3 分の 1 を超える寄附をした現天守閣を昭和の遺構として保存する道はないのでしょうか。名古屋市の歴史の記録、記憶として残すことを実行して欲しい。
市外	40 歳代	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	本物作りに賛成！

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
		理解できなかった	天守を木造にするという前提でやっているの、反対意見を受け入れる考えがまったくない。もう少ししんしに考えなおしたらどうか？新しい天守を造っても歴史的建造物にはなりません。現在の天守を耐震補修して維持すべきだと思う。
名古屋市内	70 歳代	理解できた	慎重に且つ早急に実現するよう期体しています。
名古屋市内	50 歳代	理解できた	本日は説明会を開いて頂きありがとうございました。できることからまず行方がよいと思います。
名古屋市内	80 歳以上	どちらでもない	去年西区の会に出ました。その後いろいろ聞きたいこと増えてますで今年もと思いましたが何と西区は説明会がない！やむなくナリの中区会場に来ました。まん中に座り最初から挙手しましたがついに指名されませんでした。変だなあと思う。
名古屋市内	60 歳代	理解できた	・名古屋の再建を楽しみにしています。 ・再建の過程が見学できるようにお願いします。(特別見学会も設けてほしい)
名古屋市内	60 歳代	理解できた	木造復元の意義がよく理解できた。
名古屋市内	70 歳代		エレベーターは設置してはならない。
名古屋市内	70 歳代	理解できた	石垣について文化庁から許可が得られないとの報道を聞き本当に進められるのかとの思いがありました。今日参加して少しは理解出来ました。新しく天守閣が出来ること楽しみにしております。
名古屋市内	70 歳代		木造で作るというこだわりがよく理解できた。こーいう時代なので、いろいろな角度からの意見をとりまとめるのも大へんだと思う。便利になれすぎているのでエレベーターはなくてもいいという気持ちになった。
名古屋市内	70 歳代		大切なことは色々あると思いますが、一番大事なことは、第一に、可能な限り元の、旧国宝の名古屋城復元の正確性の確保です。100～500 年の歴史的価値の維持です。その後出来る限りで障害対策を進めるべきで、エレベーター設置をして、本来の価値を失うべきではない。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	復元については河村市長の意見に賛成です。本当にさまざまな意見があり大変だと思いました。計画がじゅんちように進む事を祈ります
名古屋 市内	50 歳代	理解できなかった	
名古屋 市内	70 歳代	どちらでもない	図の説明があつて良く分るがなぜ EV ができないかという空間がないのか映像で示して理解を得て欲しい。もっと具体的な事例を上げて説明すべき。
名古屋 市内	60 歳代		二の丸庭園も早く整備してうるおいのある名古屋城にすれば外人にも人気が出るのではないのでしょうか。
名古屋 市内	70 歳代		本当に期日迄に造れるのでしょうか？
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	・エレベーター設置反たい。 ・史実調査のたいへんさがわかった。 ・河村市長がんばってください。
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	説明会の告知をしっかりと行ってほしい。前日の TV で 30 数しか集まらなかったニュースをみて(知って)本日は参加しました。
名古屋 市内	80 歳以上	理解できた	大変御苦労様でした。名古屋城天守閣木造復元に付き色々な意見が有る様ですが、後世に誇れる様な立派な完全復元を望みます。障害者・老人の為の昇降機設置はせず、其の他昇降に良い方法を考えて戴ければと思います。
名古屋 市内	80 歳以上		エレベーターは作らず、人力で変わる物とのことだがどんなものになるのか良く分かりません。
名古屋 市内	80 歳以上	理解できた	築城には当然木造健が後世に残る 3～400 年後に又国宝となるにはエレベーター等もつての他の何ものでもない。何のために築城図面があり当時の現寸で創られる。現在技術で再健出来る竹中工務店の技術で万全なる築城を願う者です。名古屋市民 235 万の内、車椅子で登場できないからと云って何百年後に国宝にもならない様な物なら現コンクリートで十分と思います。絶体に国宝になる様な建築を願います。立派な御殿も完成した事慶賀に存じます。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	60 歳代	どちらでもない	エレベーターどうなる話しが平こうせんでつくるのかつくらないのか、どうやってかいけつするのか説明して下さい。お願いします。なっとくいくまで。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	どちらでもない	

④ 瑞穂文化小劇場

※空欄は無回答

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	10 歳代	どちらでもない	私は名古屋城木造復元に昔から賛成しています。色んな意見があると思いますが、何も意見がでない、プロジェクトなんていいものになりません。今、市民が「謎だ」と思う部分の説明をこれからもつとめてほしいと思います。名古屋市にこれからしてほしいことがあります。小、中、高校生の意識調査です。名古屋城は、市民の誇りです。市民全体で盛り上がるべきなのに、この復元に興味のない人、又、知らない人もいます(特に若者)。昭和の頃に市民全員で盛り上がったような、そんなプロジェクトになってほしいです。またもう一つ、金額です。505 億はどのように集めるのか、万が一オーバーしたらどうするのか、そしていろんな案を考えるべきです。東京や大阪のような同じような都市ではなく、名古屋ならではの都市に発展していったほしいです。そのきっかけが「名古屋城」になるといいと思います。市長、関係職員、そして竹中工務店の皆様、頑張ってください！！
名古屋 市内	80 歳以上	どちらでもない	木ざいは桧(ひのき)、木曽ひのき使用、檜(かし)、その他木材 バリアフリーに関してはエレベーター不可に思います。エスカレーター必要ありと。メタリックを出さず、木目を生かした仕方で全体の調和を見ることがあり。 健全者～障害者ともに利用ベターあり。 ※エスカレーターを木材に合う色あいで考えておいて。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			竹中工務店さまありがとうございます。河村たかし市長の尽力もありがたく存じます。名城が尾張名古屋の誇りですね。尾張なごやに在する市民と致しましては誠に誇りに思います。皆様のご意見は部分です。よって全体を見る目(心)をもっとやるべきです。全てお話はネガチブであり。あゝだこうだいわず、竹中さんの力で名城が出来上りますと信じます。
名古屋市内	50 歳代	理解できた	やはりエレベーターは付けない方が良いと思いました。それは貫いてもらいたいです。石垣の問題ですが、これは時間がかかっても石垣調査隊の方々と話し合っ、お互い納得のいくまで解決してもらいたいです。コンクリートや鉄くいをういなければできないのでしょうか？(天守の土台、基礎)コンクリートなどをういらない方法があったら、それをういてほしいと思いました。
名古屋市内	50 歳代	理解できた	
名古屋市内	60 歳代	理解できた	・EV よりエスカレーターもっとムズカシイ ・頑張れ。 ・早く竣工して ・日本一大きいお城名古屋の誇り
名古屋市内	50 歳代	理解できた	どういう意見であれ、進行をさまたげける人は早く退場させた方がよい。中身のある説明会になってほしい。
名古屋市内	60 歳代	どちらでもない	
名古屋市内	60 歳代	理解できた	決めた以上しっかりしたものを作って下さい。応援しています。
名古屋市内	70 歳代		・復元、再建の説明拝聴させて頂き勉強になりました。 ・目標通り、初志通り、出来る限り元型に近づけるよう努力して欲しいです。 ・エレベーターの設置など論外。如何なる事業、工事には必ず反対の意見はあるはず。市長の努力には感謝します。「ガンバレ」 ・尚、石垣も併せて修理すべきと思います。余り完成期限にとらわれないように、順序を立てて進めて下さい。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
		理解できた	和釘についてのニュースがありましたが費用は高くなるが伝統や安全性を考えると採用は良いと思う。有識者の意見もききながら進めてもらえればと思う。
市外	60 歳代	どちらでもない	
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	歴史的遺産をオリジナルに近い形で継承させるプロジェクトの完遂を期待する。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	名古屋の宝になりますか？
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	安全が第一現状の計画は無駄である
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	①照明はどうするか？ ②石垣の修復はどんな工法か？ ③最上階へ簡単に行ける方法は？ ④現代の工法の方がいい場合は完全修復はどうするか？ ⑤名古屋を観光都市にしたい。 ⑥やるしかない！！反対があってもやるべし！！
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	いつもの（個人名）君の怒声が不愉快であった。ガンバレ！！竹中工務店！
名古屋 市内	40 歳代		・名古屋の誇りである名古屋城を本来の姿に戻すこと、 ・観光の目玉をつくること。このどちらが主眼なんですか？私は前者こそが目的とすべきだと思います。故に、天守は外から見られれば十分で、入場などしない形で差支へないと思ってゐます。
名古屋 市内	20 歳代	どちらでもない	初めて参加させて頂きました。市民向けということで期待してきました。一部反対意見があると思いますが、自分は全面的に賛成です。日本で一番の建築であることは確実だとは思いますが、それだけものすごく難しく大変なことだと思います。正直現代では無理だとは思いますが、本丸御殿をみて感動しました。2022 年 12 月は予定にして、1～3 年のゆうよはあって OK です。あと 200 年後～300、400…修復のことを考えた建築にしてほしい。
	50 歳代	理解できた	早く木造復元した天守閣が見たいです。ぜひ実現して下さい。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	頑張れ、河村市長！
名古屋 市内	80 歳以上	理解できた	①本丸御殿の復元度合(建物も絵画も)であればエレベーター付きで同等ではないのか？ ②現状のまゝだと耐震強度が問題だから補強工事に対応し、石垣、エレベーターを数年かけて検討し、20 年、30 年先に木造復元を実現すればよいのではないのか？ ③ルールを守れる人以外は入場させるべきでない。(マナー)
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	・木造復元大賛成。 ・エレベーター、エスカレーター不用。 ・障害者はなぜ他の城(姫路城など)の時、声を上げなかったか聞いて欲しい。 ・反対者は政治的に背後から後押しがあるのか聞きたい。 ・コンクリートは 60 年で造り直しが必要。木造は千年以上補修しながら使える。
名古屋 市内	70 歳代	理解できなかった	人口減少化、高齢化時代に突入しているのに、なぜこんなバカげた事業に過大な投資をするのか。新技術とか戯言をきくのはせつない。入場者の見込みは過大すぎる。でたらめな数字に思える
名古屋 市内	60 歳代	どちらでもない	100 人 5 階→1 人 15 分、100 人×4 回／1H＝400 人／1 時間、1 日→3,200 人 入場者 1 時間 2,500 人 1 日 20,000 人 1 時間 2,500 人の入場で天守閣に登られるのが 400 人、2,500 人のぼるのるには 1 人 2 分間～3 分間ですね。
名古屋 市内	50 歳代	理解できなかった	市民の不安要素の回答があまり得られていない。具体的にいろいろな問題がすでに open になっているので、その問題を解決できる案を提示してほしい。
名古屋 市内	30 歳代	理解できた	説明会に来ている人が思ったよりも少なかったと思いました。市民の感心の数なさだと思います。これからも、もっと熱い気持ちを市民が持てるようがんばってください。

⑤ 緑文化小劇場

※空欄は無回答

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	・建設業会にいましたので、私は理解できましたが、できれば立体モデルがあれば非常に良かったのでは？ホールに置いておけば皆さんが見ることができるのでは。 ・入場者数推計については、根拠があるのでしょうか？ ・たとえば数値モデルがあるのか？超楽観的な数字ではないでしょうか？
名古屋 市内		理解できなかった	木造はしたくても簡単ではないことを自らすべてを明らかにすべき。市の無責任、業者は専門性があるはずなのに追ずい。どういうデザインで完成するか不明で支払う市民はおらない。市民に損害を与える不明瞭な前傾姿勢に企業コンプライアンスが問われるだろう。基本設計未完である。これから進められないと勇気をもって進言なさるように。エレベーター不設置などで工事が変容しているはずである。公表しなさい。どつぽにはまっていることをかくし進んでいるように木材をあさることはただちにストップして下さい。安全性能—全館ひなん安全性能ルートCにあたる耐火建築区画がいる。シュミだけではだめ。許可あるまで木は買いあさらない！
名古屋 市内	10 歳未 満	理解できなかった	ふくらんでいる石がきがつくずれるかこわかった。城ずきで、全国を城めぐりしている。名古屋城が木ぞうになってくれるのはいいけど、木をたくさんつかうことにおどろいた。
名古屋 市内	30 歳代	理解できた	・お城好きな9歳の息子と参加しました。日本全国のお城を巡っています。 ・木造は本当時実現するのか、様々な議論があり現状を知りたかったので参加しました。 ・樹齢330年の木を使うとのこと。地元の方が大切な木を差し出してまで名古屋城を作ってほしいとの思いに感動しました。ぜひ有効に大切に使用できれば名古屋市民もうれしいです。 ・後世の宝となるようなお城にしてほしいです。子供たちに定期的に木造建築を観察させていただきたいです。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	40 歳代	理解できた	何にしても進むことが大事。智恵を出して。折りあいを思いだして。
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	天守閣木造復元事業の現在の状況がよくわかった。
名古屋 市内	40 歳代	どちらでもない	昭和実測図ですべてまかなえると思っていましたが、引き戸などは他の資料を見ないと発見できなかったことはおどろきです。入場者数見込みが本当に実現可能なのか疑問があります。せっかく名城に行っても、天守閣に入場制限がかかっているのは残念です。土日祝は一日何人まで受け入れ可能なのか知れたかったです。今の技術で時代にあった建物でいいのではないかと思います。
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	木造復元に期待しています。多くの方から歓迎され、喜ばれるような建築計画を立てていただけるようお願いいたします。名古屋城はすばらしい城だという事を多くの市民にアピールしてほしいと思います。川村市長の考えはすばらしいと思います。がんばってください。
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	・宮大工等職人の確保が心配。2022 年は目標であるがていねいに造ってほしい。 ・木材の確保が心配。この機会をのがしたら二度と計画できないと思う。しっかりと計画をねって木材の確保に努めてほしい。
名古屋 市内	70 歳代	どちらでもない	豊富な資料が残されており、木造復元をしたいとの希望は判るが…。国内屈指の名城である、現名古屋城を取り壊してまで、今木造復元をしなければいけない、理由が見当たらない。先人が苦勞して築城したものを、人の手で壊すことは物に対しても失礼千犯である。寿命まで使ってこそ、であると思う。仮りに木造復元するとしても、建物は礎が何より大事。石垣の補修整備が完全に終わった後に実施すべきで、何も急いでやる必要はない！
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	素晴らしい城の完成を楽しみにしています。バリアフリー問題は、もう少し考えれば、解決できると思っています。名案は多数ありますよ。
名古屋 市内	70 歳代	理解できなかった	現存するオシロで充分である。耐しん化工事をすみやかに行うべき。たいまいの資金をかけて木造化する必要はない。後世に借金まみれになる。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
市外	40 歳代	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	・ムリな数字の設定もあったが新しい天守閣の完成楽しみです。 ・質問にあった現天守の利用はムリですよー。ほぼ廃材ー
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代		木造復元より現状の名古屋城の改修・修後石垣の保全。誰もが入れるお城→エレベーターが要。内装は木目調で歴史を守れるかとも思う。現名古屋城で博物館機能を大切に新たに史跡館を建設して、木造天守閣の階層部分をモデルルーム化して創作。CG、AI、ロボット等楽しめる仮想現実の史跡館を造ったらどうか？
名古屋 市内	60 歳代		初めて説明会に参加したが、十分に納得出来る内容ではなかった。そもそも史実に忠実に復元することは困難なのではないかと話を聞いていて思った。法隆寺 1300 年と、比較するのはやゝ乱暴です。
名古屋 市内	60 歳代		石垣の問題が解決しない限り、着手すべきではない。古いものを残す技術を後世に伝える必要はあるが、拙速は許されない。
名古屋 市内	60 歳代	どちらでもない	・石垣改修の事やバリアフリーについて議論が出ていない中に先に予算が立っていることに納得がいかない。 ・名古屋市の予算も越えてしまうのではと思います。
名古屋 市内	50 歳代	どちらでもない	
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	バリアフリー対策案の一例を考えました ①1 日 2～3 回クレーン昇降機で入退場(要予約) ②城内に車イス用意 ③床に隠れスロープを作るせり上り舞台様式
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	私は外国人の方と話す機会があるのですが、外国人の方においては、ほとんどの方がエレベーターのある城建築に口々に不満をもらします。外国人が今後増々増えると思われる昨今、木造化は必然性があると考えます。
名古屋 市内	60 歳代	どちらでもない	木造で早く作っていただきたいと思っています。石垣も含めて。私自身が歩いて見ることができることを願っています。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	70 歳代		良かったです。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	

⑥ 東文化小劇場

※空欄は無回答

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	70 歳代	理解できなかった	ボストン美術館は過大な入場者見込みでとうとうつぶれてしまった。この事業も 350 万人をこえるとまるでたらめサギである。小学生、中学生でも納得しないだろう新技術とかばかげたことをいっているそんなものがあるか！
名古屋 市内	40 歳代	どちらでもない	手を挙げていたのに話す時間がなくなったとの理由で質問できなかった人の意見を聞きたいと思った。入場者数の推計の質問で、本丸と横丁ができてからの入場者の増加への答えは市側の誠意が感じられないものだった。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	どちらでもない	「平成 83 年」なんて書かないでほしいです。壇上、男性ばかりです。女性はいないのですか？ 障害者雇用で、障害者の方も公務員にはいるのではないのでしょうか？ 女性、障害者の方も壇上にいれば、進み方も変わるのではないのでしょうか。コンクリートのお城、新名古屋城に子どもの時初めて入ってエレベーターがあった。昔の人はエレベーターに乗っていたのか？と友達とすごく異和感ありと話し合ったことがありました。エレベーターを造るとちょっと「変」と思います。無しでいいのかな？
名古屋 市内	70 歳代		
市外	50 歳代	理解できた	
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	名古屋人は名古屋城が好きである。自分のまわりにいるお年寄りも「自分が生きているうちに早く復元してほしい」という人が多い。しかし、バリアフリーの問題、昇降の問題は避けて通ることはできな

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
			い。完全復元も大切なことであるが、十分な議論の末、「いろいろあったけど、いいお城が再建できてよかった！」と多くの市民が思ってもらえる結果となることを期待する。
名古屋 市内	30 歳代	理解できた	石垣については石垣の先生のアドバイスに従って良い内容にして下さい。木造復元は忠実に復元することで将来にわたって意味がでてくると思います。
名古屋 市内	30 歳代	どちらでもない	昨年度のシンポジウムよりも資料がしっかりしている。市長の出席が冒頭のみでなくさいごまでで、力の入れようを感じました。本日はありがとうございました。 P.S.石垣調査の件、進んでいる手応えを感じない。スケジュール（見通し）について、もう少し具体的な話が聞けることを期待していたのだが…
名古屋 市内	50 歳代	理解できた	復元賛成ですがバリアフリーの新技术については 2022 年に区切らず引き続き開発下さい。
名古屋 市内	60 歳代	理解できなかった	説明になっていません。
市外	70 歳代	理解できた	歴史的建造物故史実に基づいての城の復元にこだわったものがないと思います。木造の復元なのでエレベーター設置は反対です。石垣の安全性調査を早くまとめてほしい。
名古屋 市内	40 歳代	理解できた	史実に忠実な復元をお願いします。その上で「文化財としての価値」と「バリアフリー」が両立できるように新技术の開発に期待します。この先数百年かけて国宝に育てていく文化財にして下さい。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	名城天守復元は必ず実現して下さい。名古屋—名古屋城である。関係者の努力を期待します。復元の説明会に賛成か反対かと言う話しは必要ないのではないか！市長の話しに感心致しました。
名古屋 市内	40 歳代	理解できなかった	司会のまとめは適切だが、市民が矛盾をつく質問をしているときに見当ちがいの回答をして返していたり、あいまいな回答でごまかしたりする場面が多かった。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	復元した方が良い。急がなく、石垣からしっかり建築して下さい。
市外	50 歳代		よく分かりました。

居住地	年 代	説明会について	意見・感想等
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	2022 年ありきという Schedule にこだわらないでほしい。技術開発、議論を進める時間は必要。木造復元は賛成。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	名古屋のシンボルとなる名古屋城天守閣の復元にぜひ頑張ってください。応援しています。スペインバルセロナのサクラダファミリアと同じ様に 100 年後、200 年後に多くの観光客を呼べると思います。そのためにもぜひ木造復元して下さい。 説明会には初めて参加しましたが、クレマー的な人が多いのにビックリしました。対応には本当にご苦労様でした。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	尾張名古屋は城でもつと云われていて、本丸御殿もできて城がコンクリートはおかしい。木造大賛成。それよりもっと市民のいいの場として(公園全体を)名城公園全体を整備して下さい。できない(させない)理由ばかりでなくもっと良くする為にアイデアを名古屋市民から募りましょう。
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	賛成早くやれ！！館内はスリッパに履き替えるのか土足なのか？ ①清須城 スリッパ 下駄箱あり ②岡崎城 土足 ①復元の費用は寄付で行われている。 ②復元後、名城の収益で行なれる。 上 2 件を主張して下さい。
名古屋 市内	40 歳代	理解できた	木造復元して下さい。
名古屋 市内	60 歳代	理解できた	
名古屋 市内	50 歳代		今日はどんな意見がでるか 区役所ホールの方がよかった 投票もいっしょにできるから／手すりくらいつくのかの声あり 中区ホールの時らせんかいだんをつえをつきながらおりてこわかった 引きつづきバリアフリーについて考えて
名古屋 市内	70 歳代	理解できた	

(3) シンポジウムにおけるアンケート内容

① アンケート用紙

名古屋城天守閣木造復元 シンポジウム アンケート

○ 講演で、名古屋城に対する理解は深まりましたか。

・理解が深まった ・理解が深まらなかった ・どちらでもない

○ 名古屋市・株式会社竹中工務店からの説明について理解できましたか。

・理解できた ・理解できなかった ・どちらでもない

○ 本日はご来場ありがとうございました。ご意見・ご感想を、ご自由にお書きください。

【あなた自身についてお答えください】

年 代	1. 10 歳未満	2. 10 歳代	3. 20 歳代	4. 30 歳代	5. 40 歳代
	6. 50 歳代	7. 60 歳代	8. 70 歳代	9. 80 歳以上	
居 住 地	1. 名古屋市内 2. 市外				

ご協力ありがとうございました。本アンケート用紙は、出口で回収させていただきます。

② アンケートの内容

※空欄は無回答

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
名古屋市内	40 歳代	理解が深まった	理解できた	・”名古屋城“を訪れ、観光する場合、下車する地下鉄の最寄り駅が現在では「市役所」の1箇所しかありません。いずれ体育館は北側の名城公園内へ移ること又トナリノを含めた公園付近に人が回遊する見込みは高くなります。 ・地下鉄「名城公園」の乗降率は学生街へ変わると共に高まり、出入口の拡張や「名城公園」(北側)駅から人の流れを作り、回遊の確保と魅力の付加を創出してはどうかと思います。(尚、作成中の「都心まちづくり計画」内、名城地区のポイントとしても挙げられることも可能です。)
名古屋市内	70 歳代			一つの疑問があります。従来名古屋市は“名古屋城天守閣”と呼んでいます。何故“天守閣”と閣の字を付けるのでしょうか？城郭の一施設である中心建築物である天守は軍事施設です。歴史的建築物である天守は本来櫓の発展したものです。使用されていた江戸期には天守を天守閣とは呼んでいませんし、記述もありません。“天守閣”と呼ぶようになったのは明治以降と思われ、このような呼び方はふさわしくありません。またこの頃は新聞も“天守閣”の記述を止め、天守と記述しています。史実に忠実に復元をされるのであれば城郭の呼び方もぜひ史実に忠実に呼んでいただきたいと思います。ご検討願います。名古屋城は大天守、小天守です。統一した呼び方をして下さい。
名古屋市内	60 歳代			シンポというので、各区でおこなわれた説明会と違うと思いましたが、講演が加わっただけで、あとは同じでした。これではシンポといえません。木造復元の問題について、5回の説明会がおわったのですからそれに基づいて、この問題についての様々

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
				な意見を発表し、討論形式ですすめるのがシンポではないでしょうか。 <シンポジウムの意味> 聴衆の前で、特定の問題について何人かが意見をのべ、参会者と質疑応答を行う形式の討論会。講演内容も歴史をたどるだけでなく、なぜ木造化なのか説得力がない。講演後に第2部として、説明会ではなく、パネルディスカッション形式にしてほしかったです。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま らなかった		くだらん講演会はなんのためにやるのでしょうか。なぜ様々な書類を黒ぬりにして公開しないのですか。金額もていじしない等条件をかくしたアンケートに信頼性はないと思う。なぜ日本の法律をまげてまで強行とつばするのですか。市民の望んでいない事業をなぜ優先的に進めるのですか。
名古屋 市内	30 歳代	理解が深ま った	理解できた	木造復元について3つ提案 ①ロボット技術、担架による運搬、車いすごと運べる階段昇降機、はしご車等いろいろあると思う。バリアフリーと忠実な復元が大切。公募で良い案あればそれがベスト。しかし私案が2つある。その1、小天守の横にかいだんがあるが、その横に、名古屋城本丸御殿にもあるようなスロープの設置し、かいだんの横から入れるようにする。段差は、段差解消パネルがある。小天守から大天守への通路には、階段にかぶせるタイプのスロープを設ける。小天守から大天守への通路には、とうめいな強化ガラスの屋根をもうけ、誰も雨にぬれずに通れるようにする。スロープの角度は、25～30度が理想。車いすや高齢者もいるから。小天守と大天守の上階への昇る方法は、巡回するタイプの木製スロープを設ける。木製のスロープだから取り外しも可能。床の穴もふさ

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
				げる。すぐに逃げれるから消防法の観点からも良。間取りに影響しない所につけるのが望ましい。 ②ジャッキに個室を設けて、現天守のエレベーターがあったところに設ける。普段は石垣の下におさまっていて、車いすの人が入ると、スタッフがボタン押すと昇降する。天守の屋根に小さなセンサーをつけて、外観はそのまま木製の自動ドアをつける。昇降したらジャッキの個室から出入口がスライドして自動ドアに入れる。入ったら、またスライドして出入口がとじたら石垣の下におさまる。はしご車と違い、ジャッキに個室をのせる形だから車いすも高齢者も余裕で使える。普段はジャッキは石垣の下におさまっているから、外観の変化もほとんどない。 ハイテクだが日本の技術なら可能では？ ③石垣の問題について 今の計画は木造復元した後に、石垣修復だから、なかなか、認められにくいと思う。私案だが、大・小天守を壊した石垣台だけになったら、素屋根を設けて素屋根の中で石垣を修復して、大・小天守を建設。素屋根だから雨・風・時間に左右されない作業が可能だから、4年かかる石垣修復を2年で終わらせる。24時間3交代制でスピードアップして2年で石垣修復して大小天守の建設に移れる。 (補足) 大小天守に入る方法だがスリッパにはき替えるのも1つだが、使いすてのくつカバーをわたしてくつにかぶせて歩くのも1つ。

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
名古屋 市内	50 歳代		理解できな かった	・西野所長は全くこのシンポジウムに市民が来てく れているという気持ちが見られない。書いてあること を読むなら出てこなくてよい→西野氏がこのアンケ ートも見ているのか疑問。客を待たせる説明など聞 いたことがない。ただ「シンポジウムもやって市民に は説明した」と言いたいだけというのがありありと出 ている態度は全く市民をばかにしている。全く何の ために復元するのかはわからず参加したが人権無 視、経済優先の発想によけいらない反対！！と 思えた。 ・講演とシンポジウムの内容のつながりがわからな い。 ・なんどもシンポジウムをやっているがいつも同じ 竹中の資料はいらない。そんな予算を使うのはム ダ。それくらいなら講師の話のカラー写真の入った レジュメが欲しかった。 ・障害者に対する努力義務だからやらないというの は名古屋の人権条例をちゃんと理解して言ってい ることでしょか？建物より人を大切にする名古屋こ そ市民の誇りです。驚くべき発想で言葉もありませ ん。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	80 歳以 上	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	10 歳代	理解が深ま った	理解できた	特になし。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	小生大学の職員です。大へん勉強になりました
名古屋 市内	40 歳代	理解が深ま った	理解できた	

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
名古屋市内	50 歳代	どちらでもない	どちらでもない	石垣の問題、バリアフリー（エレベータ設置）の問題。入場者数の見込みなど不確定要素が多々あると思います。2022 年の完成にこだわる必要はどこにあるのでしょうか。
名古屋市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	歴史的建造物の復元は大賛成（史実に忠実な復元） 昇降の件は問題外です。 ・400 年前に EV は無かった。 ・EV 設置は姫路城に設置するのと同じ（既存の城はどうするの？） ・復元の意味が理解出来れば…。 ・一部の方の権利を主張しすぎで見苦しい！ 納期は必要だが急ぎすぎる必要はないと思う。400 年後に残る建造物にしてもらいたい。 ※質疑応答は全く無駄。自分の意見を言うだけで質問がない。時間を守らない人ばかりで復元の意味を理解していない。
名古屋市内	50 歳代	理解が深まった	理解できた	私も障害者ですが、障害者が名古屋城に入れるようにバリアフリーにするよりも、史実に忠実に復元して後世に残してほしい。
名古屋市内	40 歳代	どちらでもない	どちらでもない	幅広く市民等の皆さんと話し合い、合意形成をはかりながら進めると良い。このままではできるものもできなくなる可能性も高くなる気がします。
名古屋市内	60 歳代	どちらでもない	どちらでもない	もう少し時間をかけながら、市民の理解を深め進めたらよい。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	石垣部会の進捗は今後ともプレスをしっかりし、スケジュール観をもってやってほしい。
名古屋市内	70 歳代	どちらでもない	どちらでもない	史実に忠実な復元を第一優先に！
市外	50 歳代			復元天守も良いと思うが、名古屋城には 3 つの既存ヤグラをはじめ、400 年を耐えたすばらしい文化

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
				財や建物が残っている。それらのPRが復元天守に比べアピールが弱すぎると思います。名古屋城は天守と御殿だけではない。他の名古屋城の見どころをアピールして欲しい。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	・史実に忠実に復元すべきである。(EV 設置は反対) 木造復元賛成。名古屋城はそれができるのであるから。 ・完成をリニアにあわせるのではなく、時間がかかってもよいから、じっくりと作りこむべきである(10 年かかってもよい) ・河村市長の説明の「青松葉事件」まちがいあり。もう少し勉強された方がよい。 ・天守閣の石垣は宝暦に尾張藩がつみなおして濃尾大地震に耐えた。名古屋城の階段は 45°、ゆるい。(質問する側の勉強が足りない)
名古屋市内	70 歳代	理解が深まらなかった		木造復元有りきで余賛成できない。耐震補強の策もあるのではないかな。これ迄のかかった費用が気になる。
名古屋市内	50 歳代	理解が深まった	理解できた	史実に忠実な復元を進めてください。
名古屋市内	70 歳代	どちらでもない	どちらでもない	石垣調査を早く！！今後の進捗状況を機会ある毎に公表して下さい。
名古屋市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	名古屋城の忠実なる復元の意味をかんじた。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋市内	50 歳代	理解が深まった	どちらでもない	・竹中工務店からの説明はスピードが速くてなかなかついていけなかった。(史実の検証、特定部分) ・市民の中には変わった意見を持っている人も多勢いらっしゃるようですが…。引き続き市民の理解を

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
				得られるように頑張ってください。私は応援しています。木造復元楽しみにしています。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った		ヒョロッとした浅黒い顔の男がチョロチョロしてみっともない。顔付き、目付きも失礼オーラが出ている。職員だとしたら再教育し、適材適所に異動させるべし。市民の前に出るタイプではない。上下水や清掃工場の現場がいいだろう。シンポジウムの時に司会者の後ろでこわい顔して立っている人です。渡辺局長とかいう人も品がなく、上から目線でよろしくない。こういう人が局長をやっている市役所は信用できない。壇上での態度、目付き、市長の兄弟のようです。瑞穂区長のようないばりくさった人でないことを市民と職員のために祈ります。紹介のあった西野所長は誠実で好感の持てる人物。声色や表情もよい。230 万市民の代表にふさわしく、市長になってほしい。今の市長より格段に品格があり、常識的で国や他都市からも信頼されるであろう。よろしく願いしたい。 設計図はあるが、新しく作るものはホンモノではない。材料や工程も江戸当時と異なる。史実に忠実というのはいきなり。史実に沿って、できる限りホンモノに近い方法で復元が正しい。市民の精神性を表す点では、木造よりもコンクリート天守の方が「もう二度と焼けない市民のシンボル」として大変貴重であると認められる。従って、行政はムダに急がず、どっしり構えて、石垣、庭園、遺構、なわばり、多聞やぐらなどの調査研究を進め、天守だけでなく、門、白壁の堀など、全体的な城郭の整備を目指すべき。家康の言葉ではないが急ぐべからず。金沢や岐阜のようにキチンとしっかりと行うべし。一人の権力者(市長)の言動にまどわされてはいけません

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
				ん。市長は政治家ですから、勝手なことを言っても許されますが、公務員(行政)は市民の幸せ、名古屋市の利益を考えないといけません。市長の圧力も大変だと思いますが、耐えて下さい。耐えるのも仕事。税金で対価は補償されます。身分も安全です。市長は永遠ではありません。行政判断は永遠です。どうか耐えて、やるべき調査、研究をしっかりやって下さい。急いではいけません。急ぐ意味も大したことありません。小さなメリット、大きなデメリットがあります。なんといっても急ぐと、未来への負の遺産となり、世間の笑い者になります。政治家の人気取り、江戸城や大阪城との意味のない競争には手をそめないで下さい。じっくりやって、しっかりやって、しかるべき時に木造再建を問い直して下さい。それまでは今のコンクリートの城の長寿化を図って下さい。市民の浄財で、心で、出来ています。政治家の一人の悪あがきでこわしいものではありません。西野さん正気に戻ってください。今なら間に合います。木造再建に反対ではありません。急いてはコトをし損じること、大変心配しています。市長の任期中とか元気なうちとか、個人的なことにしばられてはいけません。400年以上の歴史ある文化財です。40年くらいかける気持ちで大事に、大切に、取り扱って下さい。名古屋には名古屋城だけでなく、城下町、古文書など全国にほこるものが多いです。これらをセットで博物館や資料館を作り、研究調査することも木造再建以上に重要です。古文書や地図や図面はホンモノです。木造再建は建具を取っても、何も資料はなく、想像や他の城をヒントに創出する(新たに作り出す)とのことです。これは「史実に忠実」ということに反しています。ウソです。

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
				ウソは 100 回言うと本当になると言います。ぜひそんなことは大都市名古屋、名古屋市民の恥さらしなのでやめて下さい。とにかく誠実に、まじめに、学術的にやって下さい。やぶれかぶれ、やけくそはやめてほしい。それだけです。
名古屋 市内	40 歳代	理解が深まった	どちらでもない	名古屋市の観光の目玉として、木造復元を応援しています。エレベーターを付けては“木造復元”の意味が無いと思っています。エレベーター接置するならば鉄筋コンクリートでお城を作ればよいかと。名古屋城の昔の貴重な写真を見ることが出来て良かったです。姫路城、松本城、犬山城等、エレベーターが無いお城はたくさんあるので「無し」は普通の事かと思っています。
名古屋 市内	40 歳代	理解が深まった	どちらでもない	
名古屋 市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	本丸搦手馬出しの石垣修復も合わせて早急に天守閣復元をして下さい。二の丸庭園もよろしく。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	後世の人に残すにふさわしい物を。
市外	40 歳代	理解が深まった	理解できた	
市外	30 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋 市内	30 歳代	理解が深まった	理解できた	非常に有意義なシンポジウムでした。おつかれさまでした。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深まった	理解できた	総工費はどの位になるのか。本当に 2022 年に完成するのか。多門櫓の部分の木は伐採しないのか。多門櫓の再建を図り宿泊施設にしようか。
名古屋 市内	80 歳以上	理解が深まった	どちらでもない	西区の者ですが今回は西区でのシンポジウムがないので中区へ行きました。鯉城ホールにも来ました。今の城(天守)は 60 年ほど前に再建委が発足し

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
				て「もえない城」の基本を決めた。再建委は地元の政財界、学会も含めたオール名古屋の意思結集で出来たものです。それをコワスのは大変なこと。市民の意見を聞き直すべし。
名古屋市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	できる限り忠実に復元して欲しい。(木造天守閣は)できる限り早く完成して欲しい。隅櫓もできるだけ復元を。
名古屋市内	30 歳代	理解が深まった	理解できた	慶勝公が残してくれた写真、図面が残っているので、史実に基づいた復元に大賛成です。頑張ってください。
市外	50 歳代	理解が深まった	理解できた	
市外	40 歳代	理解が深まった	理解できた	木造天守の完成を楽しみにしています。
名古屋市内	50 歳代	理解が深まった	理解できた	・史実の検証の特定は、本当に手間がかかる作業だと感じました。応援しています。少しずつでも前に進めていただけると嬉しいです。 ・白根先生のお話もお聞きしまして、今後は是非(何年、何百年かかっても)二の丸御殿を復元していければと思いました。 (名古屋城とは関係ないですが、) ・今日名古屋市緑区の有松～桶狭間の長坂道を歩いて来ました。名古屋市にも、まだ歴史的財産があると思います。名古屋城の復元とともに名古屋の歴史を大切にしていきたいです。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	どちらでもない	木造名古屋城を楽しみにしています。竹中さんへ復元に手ぬき工事は絶対しないでください。戦前、祖母や母がのぼった天守に私ものぼれることがうれしいです。オープニングムービーのようなもっと復元がまち遠くなるようなせんでん映像をもっともっと作ってください。今どこまで復元がすすんでいる

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
				のなかなか伝わってきません。お城関係の役所の方、もっと熱くなってください。私たちに熱い思い(復元の)発信して下さい。私は木造復元は今やらなかったら永久にできないと思い、楽しみにがんばって生きていこうと思ってます。きふもするつもりです。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深まった	理解できた	尾張名古屋は城でもっ！！日本中の人が楽しみにしています。木造で元のままに復元して下さい。山城では無いし、建物だけでも(外から観るだけでも)素晴らしいものになると思います。頑張ってください！！
名古屋 市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	いろいろと問題がありますが、木造復元に賛成。観光客を呼ぶ為にもぜひ実現してほしい。
市外	70 歳代	理解が深まった	理解できた	講演がいまいち二度と来たくない。他は大変良かった。
名古屋 市内	80 歳以上			木造復元を進めてください。馬力を出して推進してください。
市外	70 歳代			市民のバックアップをうけている中で(尾張名古屋の誇り)史実から検証そして復元まで大変な時間とマンパワーが予想されます。そのためには復元の本質をよく考え、受け止めて復元工事を進めていただきたい。タガにはめられていることを真摯に受け止める。(史実からの資料等に)
名古屋 市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	天守閣部会と石垣部会との意見が相入れないとの報道を見聞しますが、もっとお互い十分な話し合いをもち、前へと進めていただきたい。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	文化財として再建する所に意義があり、今の考え方で進めていただきたい。(将来国宝)石垣の件、文化庁との話も誠実に進めて竣工日の件は延期して

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
				も良いと考えています。関係者の努力を期待しています。竣工まで何とか生きたいと目標にしています。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	先日徳島県大塚国際美術館に行ってきました。20 数年前から立ち上げに携わった徳島大学の講師の先生に説明を受けましたが、この美術館の特徴は本物は 1 つもないセラミックボードに世界の名画をプリントして修正を加えて展示している。当初はフェイク美術館と批判されていたようですが本物の絵画は時間と共に劣化する。これを 1000 年変わらずに残す様に保存することが自分達の努めであるとの話があり、名古屋城も同じように本物に近い形で造ることにより、数十年後には本物に近く思えるのではないかと思います。ちなみに大塚美術館の技術は奈良県知事からも買われ、高松塚古墳の壁画のレプリカの作成を頼まれ、学術的にも価値があるとのことで現在評判になっているそうです。 先日松山城と大洲城に行ってきました。大洲城は 16 年前に木造再建されましたが、柱がつるつるで重みを感じられませんでした。松山城の昭和 30 年代に一部火事で燃えたやぐらを再建した様子をうつしたビデオを見ましたが当時の技術で宮大工がくわのようなかんを振りおろし、削っている姿を目にしました。柱は遠目にはフラットに見えて触ると少しデコボコがあり、これが本物と思いました。工務店さんに多くの経験豊富な大工さんがいることを切望します。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	
市外	60 歳代	理解が深まった	理解できた	・石垣と上部木造天守は一体になり意見をまとめて下さい。片方だけの主張では話が進まない。

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
				・皆が待っている天守(木造)を早く実現してほしい。
名古屋市内	30 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋市内	40 歳代	理解が深まった	理解できた	木造復元実現に当たり、まだ数多くの難題があるかと思いますが、是非史実に沿った城の復元を実現して頂きたいと思います。また、このような会を行って下さる事を希望します。
名古屋市内	50 歳代	理解が深まった	理解できた	私たちの任務であるという市長のご意見に賛同します。是非とも名古屋城天守閣木造復元を完成させたいと思います。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	・来場者の少なさが意外であった。市民が木造に既に理解が出来ているのか？無関心か？ ・奈良大仏殿も法隆寺も再建物。木造再建名古屋城も経年の後、再度国宝指定されるにたる純真再建を望みます。完成時期は遅れてもやむなし。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	どちらでもない	木造天主の実現をたのしみにしています。
名古屋市内	40 歳代	理解が深まった	理解できた	・名古屋城再建で、エレベーター設置は不要。エレベーターがあるために現状の名古屋城は、来場者の満足度低い。姫路城や彦根城は、エレベーターないが苦勞して天守閣登ることで満足度が高い。名古屋城再建時は満足度高くリピーターが望めるようにして下さい。(レゴランドの様な失敗はしないで下さい。) ・疑問ですがエレベーター設置を強くのぞんでいる人たちは今まで名古屋城に何回行ったことがあるのですか？毎週行っているのならともかく、一回も行ったことのない、あっても数回程度がほとんどではないでしょうか？今後はそのようなデータも合わせて公開してほしいです。

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
				・説明会やシンポジウムでは反対の人が多く来ていて、賛成の人は来ない、来れない人が多いと思います。ネットで(マイナンバーとひもづけて)幅広く意見を徴収する仕組みがあればありがたいです。若い人の意見も集められるかと思います。 ・説明会前に事前質問を受けつけて、いくつかはそれに応える形式にしてほしい。
名古屋市内	50 歳代	理解が深まった	どちらでもない	自分は木造復元に賛成の立場です。こうして会場にきてみて、市長さんや幹部の方、工務店の方の意見をきくと、なぜ復元が必要ということがよく分かりました。ただマスコミ等はこうしたことを伝えないところがあります。だから市民も分からない、どちらでもないという意見が多いのではないのでしょうか。もっと生の意見を市民に伝えることが必要だと感じました。木造化すると軽いので耐震化に強いと市長さんの言葉ははじめて知りました。こういった分かりやすい言葉も必要ではないのでしょうか。この一言で自分は納得しました。あと一つ気になることは現在の城にのっている金鯱についてですがある人によると木造化すると現在の重いブロンズの金鯱ではのせられないのではという意見があったのでとても気になりました。いろいろ文化庁の許可とかは早く決まるといいと思っております。みなみな健闘をいっております。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	◎早く進めて頂きたい。○反対のための反対はやめて下さい。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋市内	50 歳代	理解が深まらなかった	理解できなかった	・前半の名古屋城に関する講演は必要なかった。 ・市民に対する説明、質疑応答の時間を十分にとって、反対の意見も含めていねいに回答していく

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
				必要がある。→名古屋市長、市職員ともに堂々と逃げずに対応してほしい。
名古屋市内	40 歳代	理解が深まった	どちらでもない	
名古屋市内	30 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋市内	40 歳代	理解が深まった	理解できた	・石垣の保存方針等について、時間がかかっていることが気になります。時間をかければ解決するのか、何が足りないのか、各方面との調整をとれる人がいれば早いのか知りたいところです。 ・文化庁の現状変更許可が降りる前に、復元に向けて作業が可能な部分は進められればよいかなと思いました。 ・実現性の高いバリアフリーの案が出ない場合は、外付けのエレベーターをつける方法の採用もありかと思います。その際はデザイン都市ナゴヤにふさわしい、無機質なデザインのものではない、デザイン価値のあるエレベーターであれば、エレベーターとしての文化的価値も高いものと思われます。デザインについては、名古屋にゆかりのあるストーリー性を持たせるといいと思いました。 ・名古屋城の木造復元化、大変楽しみにしております。本丸御殿も大変素晴らしかったです。 ・車いすごと乗れる気球もあるそうです。気球で天守まで運ぶ方法もあるかもです。 ・金シャチ横丁の飲食店の営業時間に合わせて、開城時間を延長することはできませんか？人通りがほとんどなく閑散としているのを見ることは忍びないです。
	80 歳以上	理解が深まった	理解できた	名古屋は城で持つ。ぜひ木造復元してほしい。

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
名古屋市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	当時の写真がこんなに沢山あることは初めて知りました。大変貴重だと思います。天守閣復元は出来るだけ忠実な復元を目指していることは大賛成です。文化的な価値を最大限発揮できるような復元を出来るだけ早く完成できるよう期待しています。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	入場者が少なく感心がまだまだうすいのでは。
市外	20 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	・名古屋を訪れるお客様の観光施設の No.1 は何といても“名古屋城”である。2022 年 12 月完成を目指し、ぜひ実現してほしい。 ・名古屋は戦国武将3英傑(信長、秀吉、家康)ゆかりの地である。今後“歴史観光地”として、名古屋城の他、秀吉、清正ゆかりの中村公園周辺もぜひ整備してほしい。
市外	50 歳代	理解が深まった	理解できた	・天守の下からお地蔵さんが見つかって、現在保管されていますが、これは人柱のかわりに天守の下に入れられたもので、同じように弘前城天守下からお地蔵様が見つかっています。新天守着工時には取りはずされた礎石とともに地蔵様をもどしていただけるようにお願いします。埋蔵文化財は元の場所へ戻して保管して下さい。 ・石垣工事について 大和郡山城天守石垣工事は平成 27 年 9 月に準備着工して翌年 1 月、期間 5 カ月で完成しています。 ・現在の瓦破棄なら名古屋市が金を出して処分、売れば 2 億円の収入があります。

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
名古屋 市内	60 歳代	どちらでも ない	どちらでもな い	竹中工務店なぜ 13 時 30 分前に先にすわるので すか。お客様とすわるのがれぎたくですか、お 願いします。
市外	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	名古屋城天守閣復元を早期着工されたい。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	名古屋市では名城に関して様々な調査が行われて いることを知りました。膨大な調査であり、2022 年竣 工できるのか心配になりました。難問をクリアして竣 工に至ることを願っています。
名古屋 市内	70 歳代			エレベータ設置問題等の権利の乱用は慎むべ き。熊本城再建のスピードについてどのように思う か？エレベーター問題について考えは？壱工務 店の利害関係の問題ではない。京都・奈良等は空 爆はなかった。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま らなかった	理解できた	・現状の進捗状況の説明をもう少し細かく聞きたい。 説明不十分だと思う。 ・石垣専門部会より不十分とあるが、その対応がお そいと思われる。
名古屋 市内	70 歳代			
名古屋 市内	10 歳代	理解が深ま った	どちらでもな い	なし
名古屋 市内	40 歳代	どちらでも ない	理解できた	
		理解が深ま った	理解できた	・木曽檜はどうしても優先して欲しい。 ・徳川家の御用林であります木曽三川流域会議で も地域は大切。 ・名古屋は城から始まり～発展したなごや。木で。 ・調達方法がズイ契ができないのが？国宝でないと できないとか！！市長の力で木曽三川発展のため に 50・60 年生の材木使って下さい。

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	市長が言っていたがバリアフリーは一切だめです 考えなくてよい。シンポジウム 4 ページ上段に書か れていることは譲らず守ってほしい。文化財を作っ てほしい。城は陣地人間が簡単に入れない昇れな い様作ること。殿様が造ったそれを造ること。目に 見えて当時と違った物は取り付けてはならない。現 代の法律では消火水栓が必要になるかもしれない が、やめて水オケを置く。消火器は水オケの中へ 隠す。明かりは油ランプ又はわからない様配線して 発光ダイオードで最少に。電線は目に見えないこ と。スロープや手スミも昔なかった物はだめ。バリア フリーは目に見えない物でなければ絶対だめだ。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	石垣などとのえて、早いこと木造復元してほしい です。
名古屋 市内	40 歳代	理解が深ま った	理解できた	・最重要はオリジナルの石垣保存である。石垣部会 の調査結果、提言を尊長して下さい。 ・木造復元天守にはバリアフリー化して下さい。大 型 EV を取り込み、B1F までのスロープ化とする。 外観については史実に忠実に復元して下さい。オ リジナルではないので外観重視でかまいません。 ・工程は石垣優先で見直して下さい。2022 年では なく 2027 年リニア開通までとし、余裕を持って工事 を計画・施工して下さい。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま らなかった	理解できた	・説明会など過去にも聞いているが、今回の説明会 (シンポジウム)は、あまりかわりばえがしなかった。 今回の目的がよくわかりません。定期的に開催する のであれば、今回の目的は何といったお題目を表 明して欲しい。 ・復元途中の公開もお願いします。足場安全柵など で見えないとするとせっかくの機会が見ることがで きなくなります。ぜひ復元途中の公開を見当いただ

居住地	年代	名古屋城に対する理解	名古屋市・竹中工務店からの説明	意見・感想等
				きたいです。いつも外から見える。定期的に途中を公開。(それも大勢の人に)
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	大変勉強になりました。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	バリアフリーよりも忠実な復元を優先すべき。EV を付けるのであれば木造復元の必要なし。別の所に VR リアリティで体感できる場を作ればよいのでは。遅れないようにガンバレ！
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	文化庁の認可がもらえない理由がわからない。いつまでも駄目では？できないことに¥を使うのであればまずい。
名古屋市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	近年の人手不足を鑑み、工程重視のあまり、おろかな仕事にならないよう後世にほこれる城を造ってもらいたい。
名古屋市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋市内	80 歳以上			・今計画は解体(コンクリート)木造に資料に基づいて建替と聞いた。 ・文化庁の認可の遅れの原因？認可の見通し？ ・木造建築は、木材を伐採して後 3 年以上自然乾燥せねば、組立后くるいが生ずるので、少くとも、工期は 7～8 年は、必要と思ふ。 ・名城建築物の研究で博士号保持者名工大教授城土久先生がいらっしゃるが挨拶されていますが息子様の代で城戸説計で事務所を次いでらっしゃると思ひますで、文化庁のをくれを相談されては？ ・石積み補修等名古屋市の指名業者が長年指定を受けて、工事用の舟で(石垣の)修理で今日でも指名で工事をされてる長瀬建設さんが(〃)の相談されてはどうか。認可のをくれ早まらない？

居住地	年代	名古屋城に 対する理解	名古屋市・ 竹中工務店 からの説明	意見・感想等
				・建築工事は[えんぎ物]と云れ手間取っては良い 事にならない

(4) アンケート用紙以外の意見・感想等

会 場	意見・感想等
緑文化小劇場	①石垣の重要性および現存名古屋城の評価 失礼な言葉ですが現存の城は所詮信長の城では無く家康の城。いまの城天守を耐震補強で充分ではないでしょうか？ ②木造復元天守閣に EV 不設置の理由は？ 史実に忠実に基づく木造化→梁を通したい切断したく無い！！ならば斜行型エレベーターではダメなのでしょうか？階段の横に角度を合わせて設置可能では？急傾斜 緩やか傾斜でも籠の様な意匠デザインもありなのでは？既存の技術の延長上で実現性のコストもほぼ計算可能では？各階毎に設置するので木製梁を切断せずにまたバランス配分すれば耐震性も向上するのでは？ 最後にこんな素人提案と一笑せずに本気でご検討をお願いして質問を終わります。
鯉城ホール	①加藤清正築いた石垣のうえに大天守と小天守が建っていて、天守は戦争による火災で焼失したが、昭和 30 年代鉄筋コンクリートで再建された城はどこでしょう？皆さんはすぐ名古屋城と思いますが、もう 1 つ々お城があるのをご存じですか。それは熊本城です。2016 年熊本地震で熊本城天守、石垣がくずれたのをテレビでご覧になったと思いますが、熊本地震と同じ地震が名古屋で発生したら名古屋城天守でも同じような被害が発生すると思います。その一方で同じ熊本城本丸にある木造の宇土櫓は建物が壊れなかっただけでなく石垣もくずれていません。河村市長は大予言のようで熊本地震の前名古屋城を木造復げんにされる決定されていました。そこで今一度、竹中工務店様には熊本城宇土櫓は地震 10 年前くらいにはり等補強工事をしているので、宇土櫓補強部分から耐震工事を見直していただくようお願いします。昭和 2 年鉄骨補強。 ②階段 現存松本城や犬山城天主の階段を昇ると急で昇りづらいのは、城主が敵にせめられて天守最上階で自害するため、時間かせぎでわざと階段を急にしたり、階段を壊せるようにしたり、武者を隠したりできるようにしている。(今は平和な世の中です。)河村市長が最後に天主の最上階で自害をしたいのであれば、戦前の階段のままでけっこうですが、竹中工務店様階段部分の幅や角度を事故が行きないよう昇りやすいよう変更していただけませんか。また、4 階までなら 2 つの階段があるので、エスカレーターにして、昇り用、下り用エスカレータにすれば楽に上れます。現在、四日市には曲がって上れたり、車いすも乗れるエスカレータが開発

	されていますが採用出来ませんか。 ③文化庁書類 名古屋市職員へ 河村市長がまた近日中に文化庁へ訪問すると聞いています。提出する書類について、木造復元で1冊するのではなく、「石垣工事のため現ぞん天守解体」「木造での天守再建」と2冊にすれば「石垣工事のため現存天守解体」については、すぐにでも文化庁からきょかが出ると思います。大和郡山城石垣平成 27 年 9 月～28 年 1 月 5 ヶ月 人柱のかわりお地蔵様はもどす 埋蔵文化財 ④瓦販売 「なんでも鑑定団」で出た 300 万円鬼瓦が市に寄付されましたが、現在の大天守銅瓦の鬼瓦や軒丸瓦も天守解体後に発売してもらえませんか？私が試算したところ 2 億円くらいの売上は出ると思います。産業廃棄物で処理すれば名古屋市がお金を払って処分しなければなりません。ご検討をお願いします。 ※おまけ 土足禁止 郡上八幡城と上野城が同じ時期木造建立で郡上八幡はそうとう傷んでいます。名古屋城 1 階以上は土足禁止で電動車いす(バッテリーとうさい)禁止にしてください。文化財保護おじぞうさま
--	---